

## 第Ⅱ部 高校調査

## 序 章 第Ⅱ部の構成

倉元直樹（東北大学）

第Ⅱ部は表題の通り，本研究プロジェクトにおける「高校調査」に関わる論考を集めたものである。本章以外に4章から構成されている。

第1章「高校調査（質問紙調査）の概要」は，平成25（2013）年度に全国の高等学校，および，中等教育学校の進路指導担当教員を対象として実施した本研究プロジェクトによるアンケート調査における基礎集計をまとめたものである。対象を高校生としなかったのは，「看護系志望の高校生」という母集団を手続き的に定義することが難しいこと，実施に当たって調査対象となる学校に著しく大きな負担がかかること，という二つの条件を勘案したためである。章末に単純集計結果，ならびに，本研究プロジェクトの調査に使用された8ページから成る調査票のサンプルを採録した。

第2章「看護系志望者の適性と大学入試」は，日本行動計量学会第42回大会において，特別セッションとして発表された4件の研究発表における抄録集原稿のうちの3編を再録したものである。なお，4番目の発表である「歴史に学ぶ看護職教育のカリキュラムポリシー」は，第Ⅰ部第7章「選抜試験・カリキュラムの適及的分析」の一部として採録した。内容的には，第3節「高校生における『看護系人気』の背景事情」の一部に第1章の「高校調査（質問紙調査）」の分析が含まれる。なお，発表当時はデータの修正が完了していなかったため，数値が第1章の集計と完全に一致していない部分もあるが，そのまま掲載することとした。

第3章「高校教員からみた看護系進学希望者の特徴」は，主として進学実績から見た高校の分類の観点から第1章の「高校調査（質問紙調査）」のデータについて分析した，オリジナルの論考である。

第4章「看護系志望の高校生に求められる学力・適性に関する高等学校進路指導教員の意識」は「高校調査（質問紙調査）」における「不適応の原因」「看護系を勧める理由」「生徒が考える看護系のイメージ」「教員が考える看護系の特性」の各項目群に対し，因子分析法を用いて尺度化を施した上で分析を加えたオリジナルの論考である。回答結果から回答者の「性別」「年代」といった個人特性に基づく影響の排除を試みている。なお，本章は日本教育心理学会第57回総会（会場：朱鷺メッセ [新潟コンベンションセンター]，2015年8月26日 [水]～28日 [金]）において発表予定の内容に分析結果の表を加えたものである。



# 第1章 高校調査（質問紙調査）の概要

倉元直樹（東北大学）

## 1. 概要

本調査は、科学研究費基盤研究(B)「医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適性と大学入試－」の高校調査（質問紙調査）として、特殊教育諸学校を除く全国の高等学校、中等教育学校の進路指導担当教員を対象に実施したものである。

## 2. 調査の目的

高等学校の進路指導教員の視点から、看護系大学や専門学校に進学した生徒がどのような学習履歴や特徴を持ち、どのようなプロセスで進路決定をしているのか、また、どのような要因が進路決定に影響を及ぼしているのかについて調査を行った。看護系で学ぶ学生を送り出す側の高校教員の意識を明らかにすることを目的とする。

## 3. 倫理的配慮

第1部第3章で述べたように、本研究プロジェクトについては東北大学高等教育開発推進センター<sup>1</sup>倫理委員会に研究計画を提出し、承認を得た。2013(平成25)年11月25日に本調査票に関して改めて倫理審査の受審を申し出たが、すでに承認された案件として、審査対象外と認定された。

## 4. 調査票

章末資料のとおり。8ページの調査票、および、回答結果（回答校数、比率）を調査票に記入した資料を掲載した。

## 5. 調査対象

特別支援学校等を除く全国 5,028 の高等学校、中等教育学校の中から無作為に抽出された 2,000 校を調査対象とした。2014(平成26)年1月中旬～下旬に調査票を送付し、各校の進路指導担当教諭 1 名ずつに回答を求めた。章末資料に示したように、調査票は 8 ページから成る。調査票の回収は郵送方式で行われた。

2014(平成26)年6月23日の時点で 1,319 校から有効回答が得られた（回収率 66.0%）。都道府県別の調査対象校数、抽出校数、返送率、抽出率等は、表 1 に示すとおりである。青森県、愛媛県からの返送率が 90%を超えたが、大阪府、福岡県、東京都といった大都市からの返送率が 5 割に満たなかった。

<sup>1</sup> 当時。現在は東北大学高度教養教育・学生支援機構に引き継がれている。

表 1. 都道府県別返送状況

都道府県	調査対象校数	抽出校数	返送数	抽出率	返送率	返送率順
北海道	297	125	94	42.1%	75.2%	15
青森	74	31	30	41.9%	96.8%	1
岩手	78	39	35	50.0%	89.7%	3
宮城	100	41	34	41.0%	82.9%	8
秋田	56	24	18	42.9%	75.0%	16
山形	63	24	21	38.1%	87.5%	5
福島	107	45	37	42.1%	82.2%	10
茨城	130	63	42	48.5%	66.7%	26
栃木	78	19	12	24.4%	63.2%	35
群馬	85	30	24	35.3%	80.0%	12
埼玉	203	80	51	39.4%	63.8%	34
千葉	191	72	42	37.7%	58.3%	40
東京	443	173	79	39.1%	45.7%	45
神奈川	243	97	59	39.9%	60.8%	38
新潟	111	40	33	36.0%	82.5%	9
富山	51	16	11	31.4%	68.8%	24
石川	56	20	13	35.7%	65.0%	33
福井	36	15	9	41.7%	60.0%	39
山梨	44	19	17	43.2%	89.5%	4
長野	105	43	28	41.0%	65.1%	32
岐阜	83	36	26	43.4%	72.2%	19
静岡	141	57	39	40.4%	68.4%	25
愛知	222	88	58	39.6%	65.9%	30
三重	75	23	15	30.7%	65.2%	31
滋賀	61	23	18	37.7%	78.3%	14
京都	96	36	19	37.5%	52.8%	43
大阪	269	103	41	38.3%	39.8%	47
兵庫	216	89	59	41.2%	66.3%	29
奈良	54	16	8	29.6%	50.0%	44
和歌山	47	20	16	42.6%	80.0%	13
鳥取	31	7	5	22.6%	71.4%	20
島根	46	19	16	41.3%	84.2%	7
岡山	90	37	30	41.1%	81.1%	11
広島	134	57	38	42.5%	66.7%	27
山口	79	28	20	35.4%	71.4%	21
徳島	36	12	7	33.3%	58.3%	41
香川	44	21	15	47.7%	71.4%	22
愛媛	68	21	19	30.9%	90.5%	2
高知	44	15	11	34.1%	73.3%	18
福岡	166	74	33	44.6%	44.6%	46
佐賀	45	18	11	40.0%	61.1%	37
長崎	79	32	27	40.5%	84.4%	6
熊本	80	38	24	47.5%	63.2%	36
大分	60	29	16	48.3%	55.2%	42
宮崎	53	20	15	37.7%	75.0%	17
鹿児島	93	42	28	45.2%	66.7%	28
沖縄	65	23	16	35.4%	69.6%	23
合計	5,028	2,000	1,319	39.5%	66.0%	

## 6. 結果の概要

### 6.1. 回答校プロフィール

#### 6.1.1. 学校規模

章末資料の通り。

#### 6.1.2. 進路に関する位置づけ

図 1 の通り、進路多様校が多い。なお、比率は無回答を除いて計算したものである。以下も同様である。

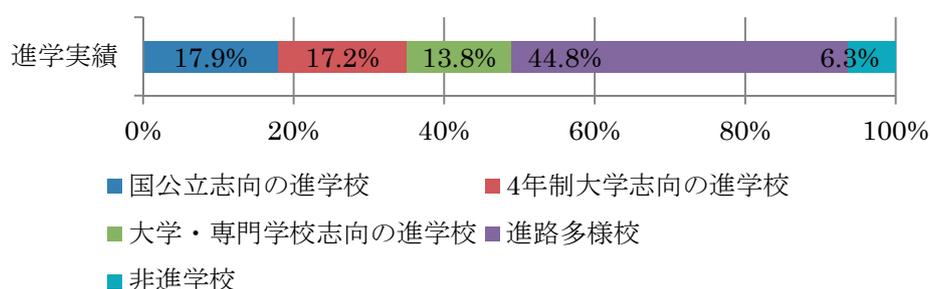


図 1. 進路に関する位置づけの構成比 (%)

#### 6.1.3. 看護系進学希望者数

男子校や工業高校などの専門高校も含め、全ての回答校の中で「ほとんどいない」という回答は 14.2%に過ぎなかった。

なお、「コンスタントにいる」と回答した学校の看護系志望生徒の平均は 13.6 名であった。これ以後、「ほとんどいない」と回答した 185 校を除く 1,134 校を分析の対象とする。

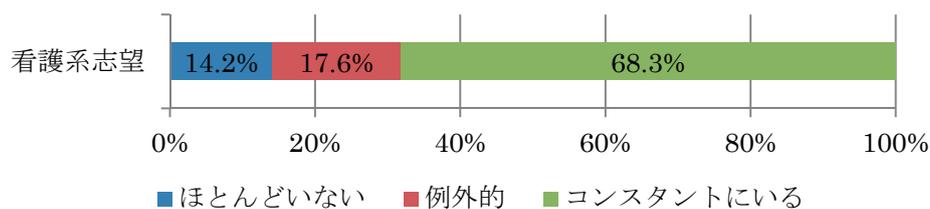


図 2. 看護系進学希望者数の構成比 (%)

### 6.2. 進学先と入試

#### 6.2.1. 所属するコース・類型

看護系を志望する生徒が所属するコース・類型は「どちらかと言えば理系」「ほとんど理系」を合わせると半数近くに達する。次いで「コース分けがない」という回答が多かった。

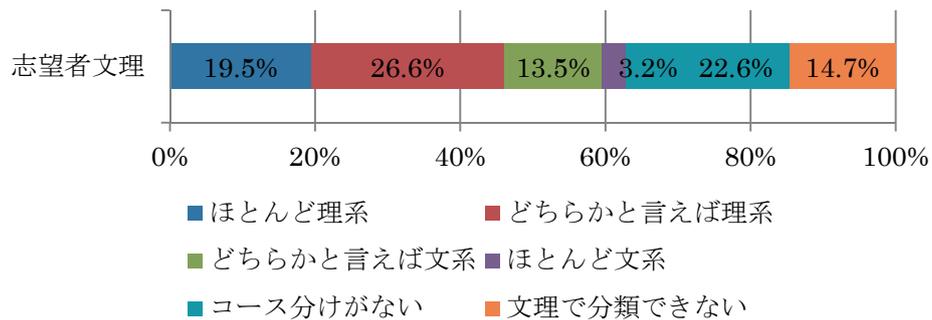


図 3. 看護系を志望する生徒が在籍するコース・類型の構成比 (%)

### 6.2.2. 男子生徒

女子校も含め、全ての回答校の中で看護系を志望する男子生徒が「ほとんどいない」という高校は4割弱であった。「コンスタントにいる」場合、平均は4.4名程度となっている。

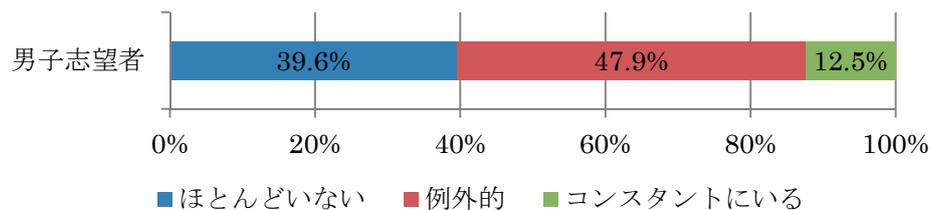


図 4. 看護系を志望する男子生徒の構成比 (%)

### 6.2.3. 受験する校種

大学も専門学校も受験する比率が4割程度と最も多い。

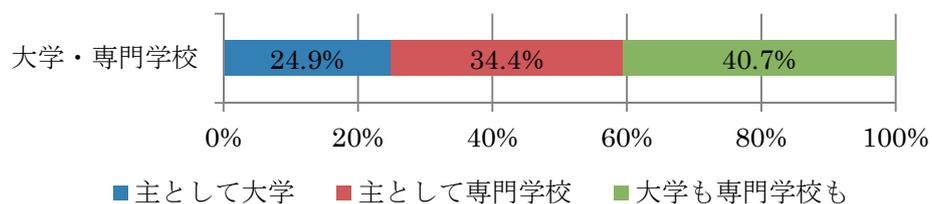


図 5. 受験する校種の構成比 (%)

### 6.2.4. 受験する校種と地域

「地元の専門学校」が6割強, 「地元の大学」が5割強に上る。地元以外は専門学校, 大

学ともに1割強にとどまっている。なお、この項目については複数回答が可能なので、当該項目の調査対象校数1,314校を分母として比率を算出した。

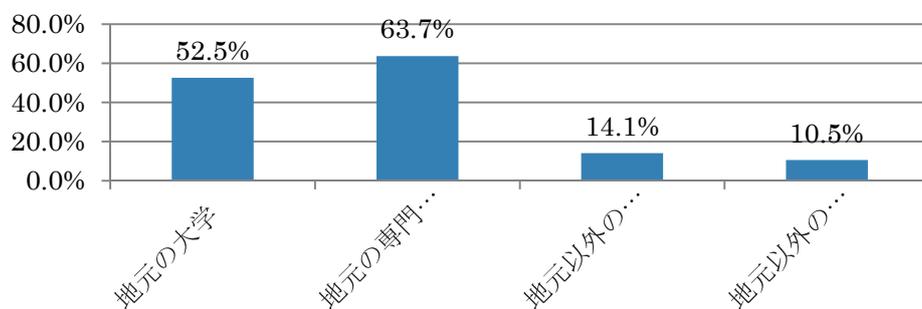


図 6. 受験する校種と地域の比率 (%)

### 6.2.5. 成績

看護系を志望する生徒の成績は「上位」から「平均より少し上」が典型的なようである。「最上位」も「下位」も例外的である。

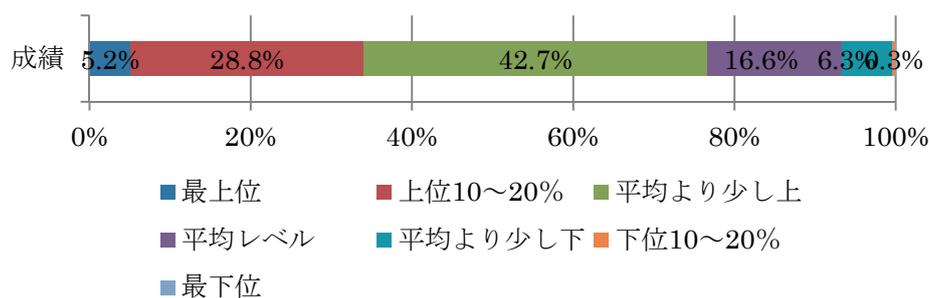


図 7. 看護系を志望する生徒の成績水準の構成比 (%)

### 6.2.6. 入試区分

推薦入試を受験するケースが約2/3、一般入試が3割程度である。

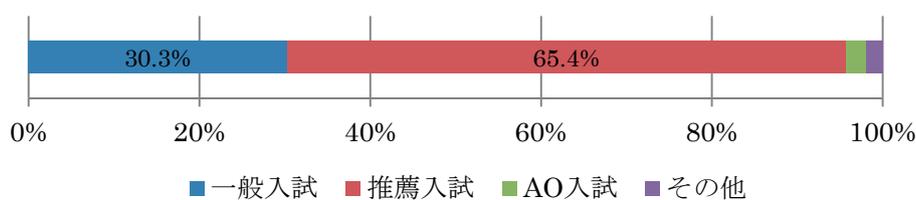


図 8. 看護系を志望する生徒が受験する入試区分の構成比 (%)

### 6.2.7. 志願を決める時期

志願を決める時期は高校2年生から高校3年生の7月くらいまでというケースが多いようである。高校1年生の22%、高校3年生の後半の10%強を勘案すると、高校時代に志願を決めるケースがほとんどということになる。

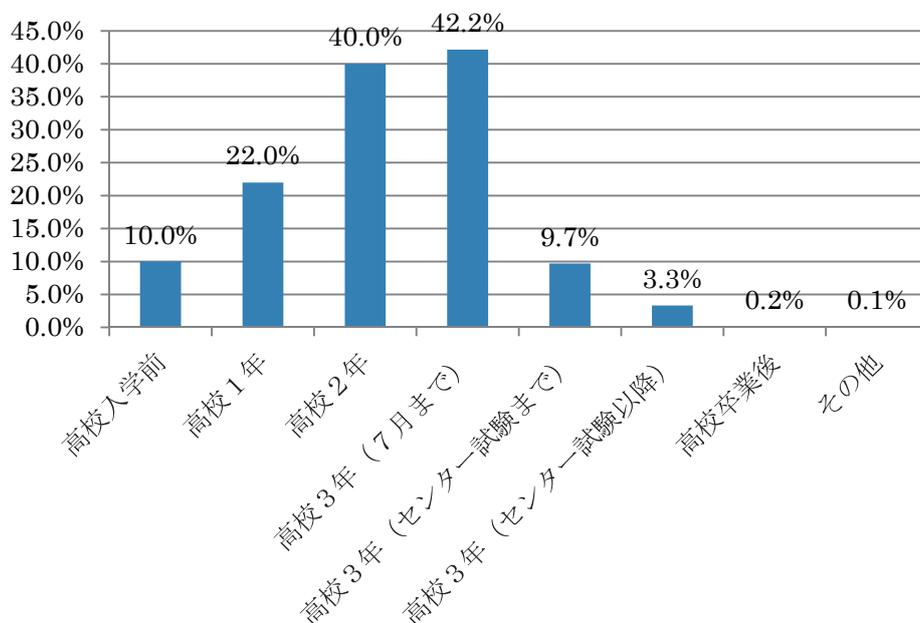


図 8. 志願決定時期 (%)

### 6.2.8. 志望順位

志望順位はほとんどが「第1志望」である。第2志望以下は例外と言える。

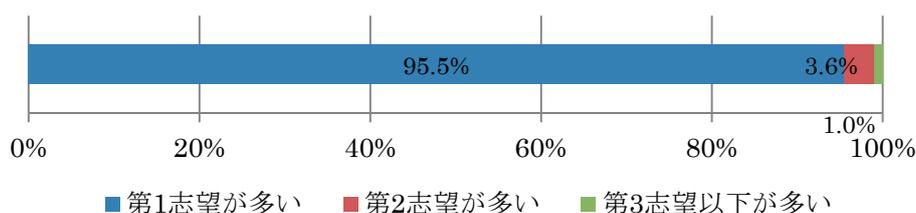


図 9. 志望順位の構成比 (%)

### 6.2.9. 本来の第1志望分野

第1志望以外の生徒は少ないが、看護系以外の分野に第1志望があった場合には、「看護系以外の医療技術系」の比率が高い。それ以外では「薬学」と「医学」が10%程度であり、関連分野となっている。

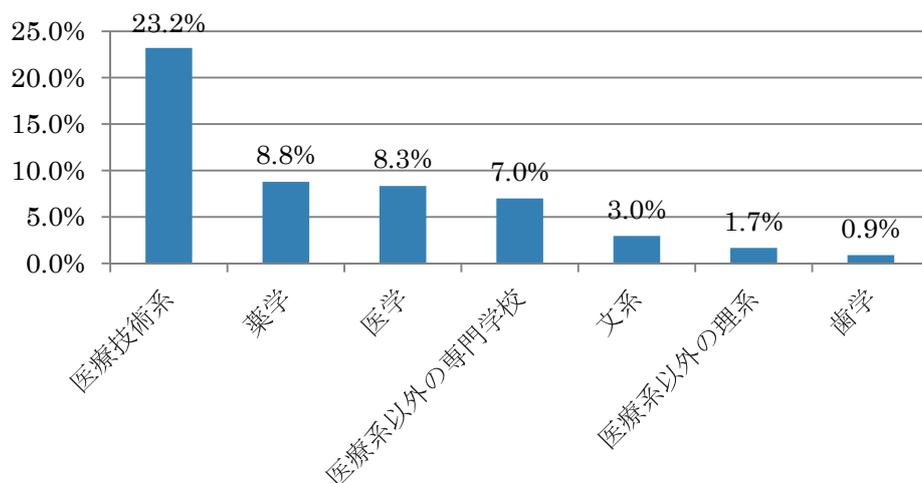


図 9. 本来の第 1 志望分野 (%)

#### 6.2.10. 受験先の決定への影響力

大学調査における同じ項目と比較すると、「本人」が決めたという比率が 10 ポイントほど高い。

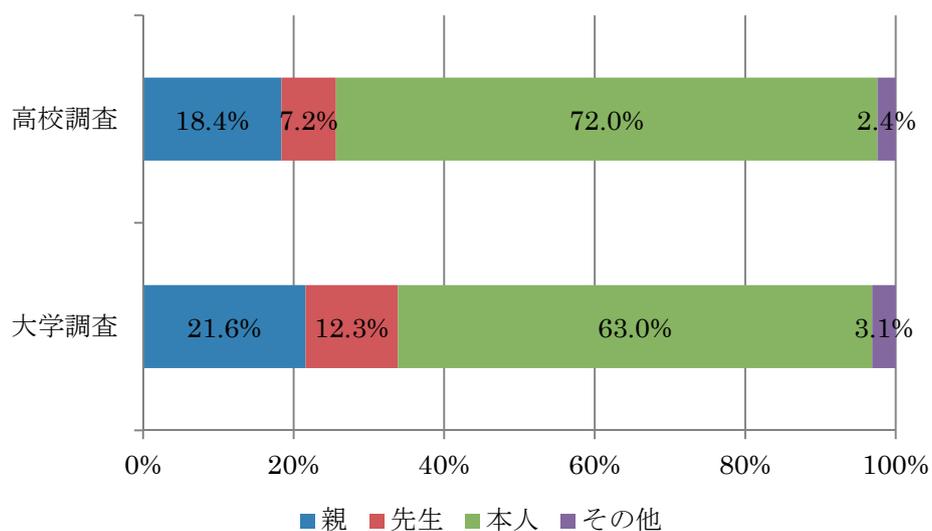


図 10. 最大影響力保持者構成比 (大学調査との比較) (%)

#### 6.2.11. 身内の医療関係者

「どちらとも言えない」が 4 割弱、「どちらかと言えば医療系の家庭が多い」が 5 割弱となっている。

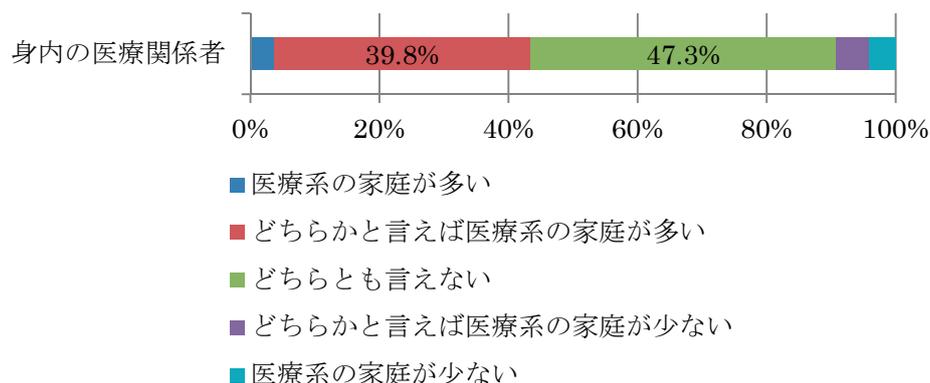


図 11. 身近な医療関係者構成比 (%)

### 6.3. 看護系への進学の原因・適性

#### 6.3.1. 志願決定理由

表 2. 受験を決めた理由 (大学調査との比較)

項目	高校調査 〔5〕の比率	大学調査 〔5〕の比率	高校調査 (平均値)	大学調査 (平均値) (再掲)
1. 資格 (理由)	64.4%	62.0%	4.45	4.46
2. 仕事関心 (理由)	72.7%	55.0%	4.62	4.40
3. 内容 (理由)	48.2%	47.0%	4.29	4.29
4. 職業明確 (理由)	69.8%	61.3%	4.59	4.47
5. 就職可能 (理由)	56.4%	64.4%	4.36	4.49
6. 収入 (理由)	14.3%	40.1%	3.49	3.98
7. 地域 (理由)	9.9%	16.7%	3.29	3.06
8. 大学立地 (理由)	8.2%	14.5%	3.23	3.29
9. 学生生活 (理由)	5.0%	17.5%	3.10	3.48
10. 教育内容 (理由)	19.5%	17.7%	3.74	3.59
11. 研究内容 (理由)	5.5%	7.9%	3.02	2.83
12. 評判 (理由)	16.7%	14.0%	3.76	3.48
13. 施設 (理由)	28.0%	20.5%	4.02	3.68
14. 学費 (理由)	37.7%	39.4%	4.13	3.85
15. 生活費 (理由)	18.1%	22.6%	3.57	3.31
16. 自宅通学 (理由)	37.3%	33.5%	3.96	3.39
17. 合格可能 (理由)	48.1%	39.7%	4.34	3.87
18. 入試科目 (理由)	31.7%	38.0%	3.81	4.15
19. 地方会場 (理由)	9.7%	3.8%	2.44	2.66
20. 併願 (理由)	8.7%	7.0%	2.46	3.09

「志願を決定した理由」については、「1. 全く重要だと感じていなかった」～「5. かなり重要だと感じていた」という5段階評定の形式でデータの収集を行い、それぞれ「1」～「5」と得点化して分析を行った。表2に生徒が受験を決めた理由の重要性に関する評定結果を示す。同一の項目が大学調査にも含まれていたため、平均値については第I部第3章の数値を再掲する。

おおむねに多様な評価だが、「5」の比率で比較した時、図12に示すように高校教員は「6. 収入の金額が十分」という項目を低く評価していた。逆に、「2. 将来の仕事に興味・関心」という項目を高く評価していた。

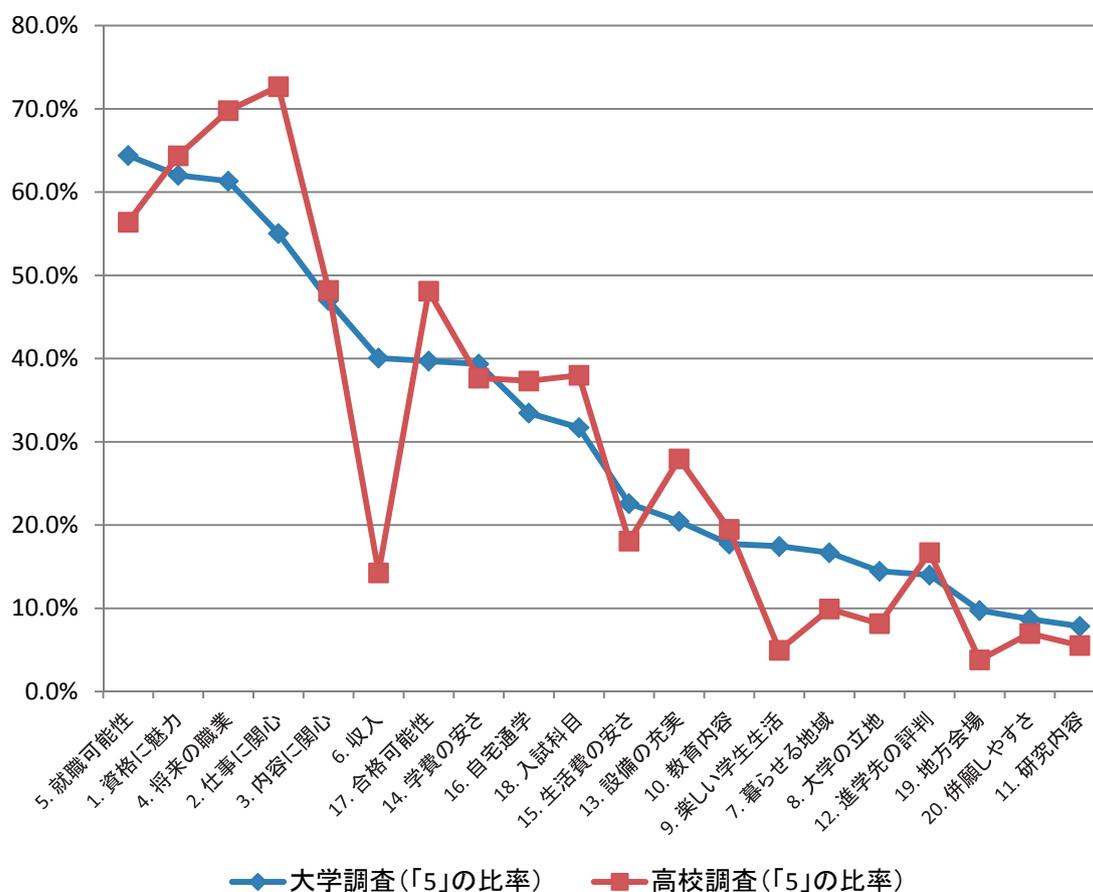


図12. 受験を決めた理由「5」の比率 (大学調査との比較)

### 6.3.2. 最も心配だった生徒

「進学後が最も心配だった生徒」に対して「1. 全く心配していなかった」～「5. かなり心配していた」という5段階評定の形式でデータの収集を行い、それぞれ「1」～「5」と得点化して分析を行った。表3に「5」の比率と得点化した場合の平均値を項目ごとに示す。図13は「5」の比率を折れ線グラフで表したものである。4分の1近くの回答者が「8. 基礎学力の不足」を懸念し、次いで「7. 臨機応変な対応」に問題を感じていた。

表 3 問題になる可能性が高いと思った項目

項目	「5」の比率	平均値
1. 病人の立場	6.7%	2.63
2. 計算・見積	6.7%	2.70
3. 生活習慣	5.5%	2.42
4. 友人関係	4.0%	2.43
5. 患者の状態	7.4%	2.94
6. 聞く力	6.2%	2.75
7. 臨機応変	14.0%	3.36
8. 基礎学力	23.6%	3.54
9. 経済状況	4.3%	2.61
10. 集団行動	3.1%	2.35
11. 不本意入学	2.1%	1.98
12. 思い込み	5.4%	2.60

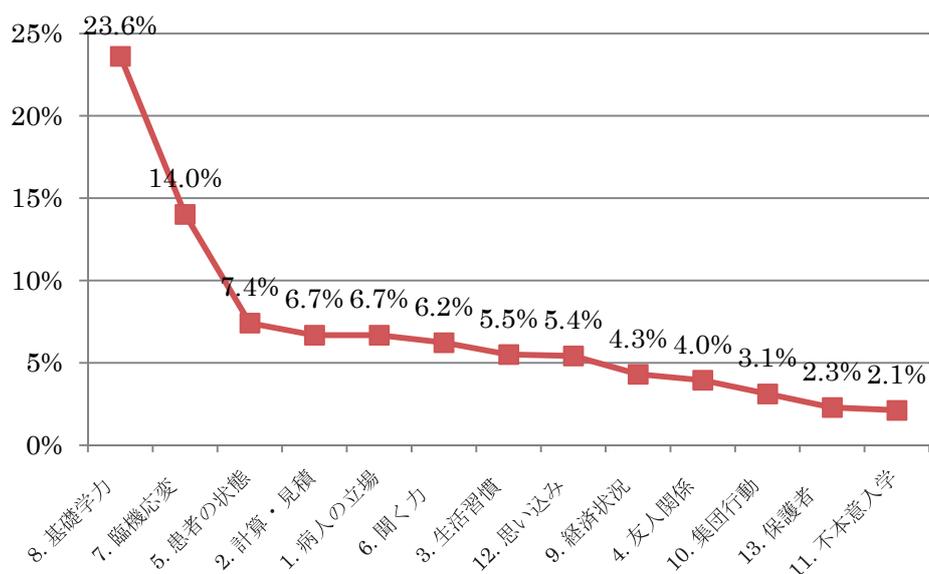


図 13. 問題になる可能性が高いと思った項目「5」の比率

表 4 に心配だった生徒のプロフィールを示す。やや「第 1 志望」ではないケースもやや多いが、「医療関係者以外」の家庭環境が 84.0%、家庭の経済状況が「問題なかった」のが 84.0%、志願を決めたのが「生徒本人」であるケースが 80.1%といった情報を合わせてみると、周囲の圧力で進学先を決めたというよりも、本人が周囲の心配を振り切って進学したケースが多いのではないかと想像できる。

表 4. 心配だった生徒のプロフィール

項目	属性	比率
性別	男子	16.8%
	女子	83.2%
所属コース	理系	31.0%
	文系	28.6%
	その他	40.4%
進学先	国立大学	3.1%
	公立大学	3.8%
	私立大学	22.5%
	専門学校	70.5%
進学後の通学形態	自宅生	68.4%
	自宅外生	31.6%
成績	上位	13.1%
	中位	44.2%
	下位	42.8%
進学した入試区分	一般入試	45.9%
	推薦入試	46.0%
	AO入試	7.0%
	その他	1.2%
志望順位	第1志望	82.6%
	第2志望	9.0%
	第3志望	8.4%
進路決定の実質的主体	保護者	16.3%
	教員	3.3%
	生徒本人	80.1%
	その他	0.4%
家庭背景	医療関係者	16.0%
	医療関係者以外	84.0%
家庭の経済状況	困窮していた	14.2%
	問題なかった	85.8%

### 6.3.3. 進学を勧める理由

「進学を勧める理由」に対して「1. 全く理由にならない」～「5. 重要な理由になる」という5段階評定の形式でデータの収集を行い、それぞれ「1」～「5」と得点化して分析を行った。表5に「5」の比率と得点化した場合の平均値を項目ごとに示す。図14は「5」の比率を折れ線グラフで表したものである。

「生徒に対して特定分野への進学を勧めてはいない」との回答も多かったが、あえて勧めるとすれば、「10. 社会貢献ができる」、「16. 他人が喜ぶ」、「6. 人の命を救うことができる」といった、周囲に対する貢献を理由に進めることが多いようである。

表 5. 進学を勧める理由

項目	「5」の比率	平均値
1. 経済安定	22.5%	3.67
2. 流行無関係	26.6%	3.85
3. 女性自立	32.0%	3.95
4. 良き伴侶	1.6%	2.18
5. 男女平等	9.5%	3.12
6. 救命	48.0%	4.33
7. 固い資格	37.8%	4.11
8. 高給	10.7%	3.44
9. 自律的	21.3%	3.81
10. 社会貢献	55.1%	4.44
11. 取得困難	9.2%	3.24
12. 女性中心	2.9%	2.78
13. 長く勤務	31.9%	4.02
14. 発展性	15.8%	3.60
15. 専門性	36.6%	4.18
16. 他人が喜ぶ	49.6%	4.35
17. 地元就職	32.3%	3.96
18. 保護者喜ぶ	6.1%	2.93
19. 低学費	7.8%	3.07
20. 合格確実	4.7%	2.61
21. 得意科目	4.0%	2.79
22. 自宅通学	9.0%	3.09
23. 地方会場	2.0%	2.33

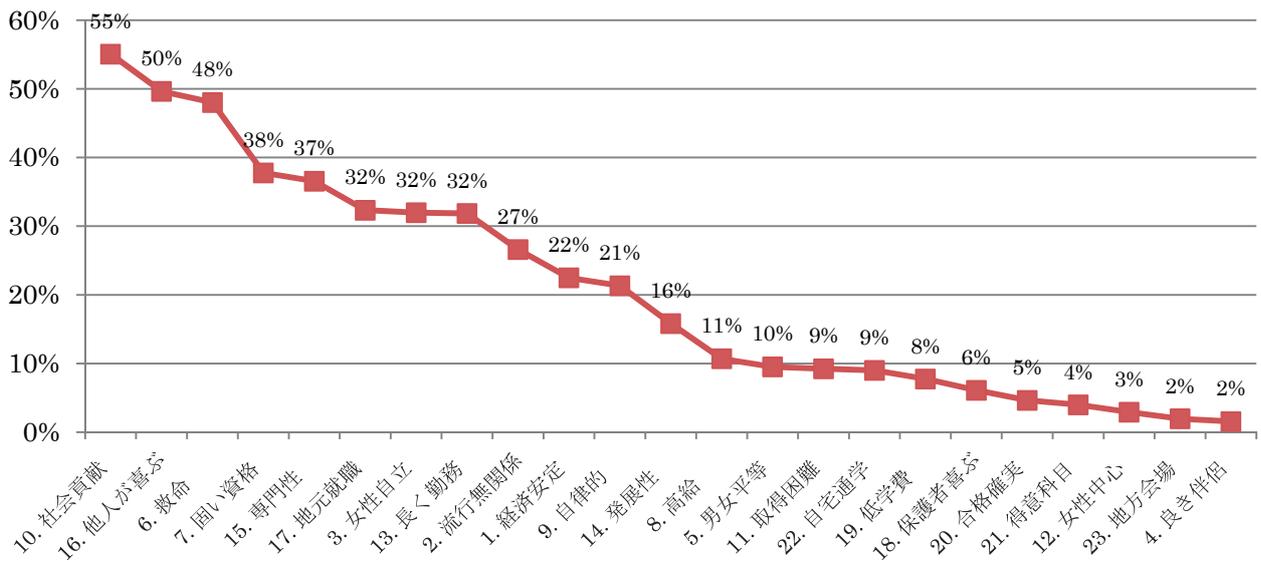


図 14. 進学を勧める理由「5」の比率

#### 6.3.4. 看護系に抱くイメージ

「生徒が看護系専門職に抱くイメージ」に対して「1. 全くそう思っていない」～「5. かなりそう思っている」という5段階評定の形式でデータの収集を行い、それぞれ「1」～「5」と得点化して分析を行った。表6に「5」の比率と得点化した場合の平均値を項目ごとに示す。図15は「5」の比率を折れ線グラフで表したものである。

「生徒何をイメージしているか推し量りようがない」といった主旨の回答も多かったが、あえて勤めるとすれば、勤める理由と同様に「6. 人の命を救うことができる」、「10. 社会貢献ができる」、「16. 他人が喜ぶ」、といった、周囲に対する貢献をイメージしていると考えられることが多いようである。

表6. 生徒が看護系専門職に抱くイメージ

項目	「5」の比率	平均値
1. 経済安定 (イメージ)	36.4%	4.14
2. 流行無関係 (イメージ)	28.3%	3.98
3. 女性自立 (イメージ)	33.3%	4.06
4. 良き伴侶 (イメージ)	1.3%	2.46
5. 男女平等 (イメージ)	7.6%	3.14
6. 救命 (イメージ)	62.6%	4.55
7. 固い資格 (イメージ)	45.2%	4.28
8. 高給 (イメージ)	16.2%	3.63
9. 自律的 (イメージ)	23.6%	3.85
10. 社会貢献 (イメージ)	61.5%	4.54
11. 取得困難 (イメージ)	15.8%	3.56
12. 女性中心 (イメージ)	13.4%	3.34
13. 長く勤務 (イメージ)	36.4%	4.15
14. 発展性 (イメージ)	16.6%	3.62
15. 専門性 (イメージ)	43.3%	4.31
16. 他人が喜ぶ (イメージ)	60.4%	4.54
17. 地元就職 (イメージ)	36.9%	4.06
18. 保護者喜ぶ (イメージ)	16.7%	3.49
19. 責任大 (イメージ)	46.5%	4.28
20. 対人能力 (イメージ)	35.2%	4.05
21. 3K労働 (イメージ)	11.8%	3.40
22. 夜勤 (イメージ)	35.1%	4.00
23. 残業 (イメージ)	20.3%	3.64

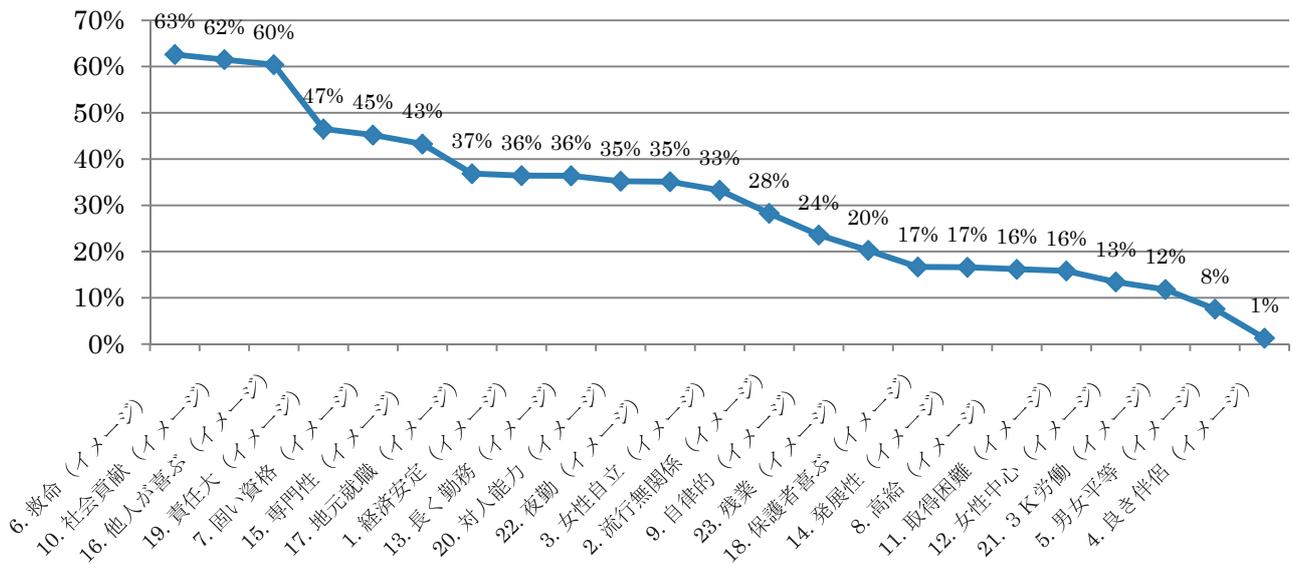


図 15. 生徒が看護系専門職に抱くイメージ「5」の比率

### 6.3.5. 看護系の適性

他分野の進路と比較してどのような生徒が看護系分野への進学に向いているかを尋ねた。各項目につき、「1. 全く向いていると思わない」～「5. かなり向いていると思う」という 5 段階評定の形式でデータの収集を行い、それぞれ「1」～「5」と得点化して分析を行った。表 7 に「5」の比率と得点化した場合の平均値を項目ごとに示す。項目数が 40 項目と多いので、図 16-1 は「5」の比率で上位 20 項目、図 16-2 は「5」の比率で下位 20 項目に分け、それぞれを折れ線グラフで表したものである。

上位から見てみると、「31. 他人の役に立つ仕事をしたい」、「30. 責任感がある」、「16. 苦労を厭わない」、「3. コミュニケーション能力が高い」、「15. 協調性がある」、「26. 情緒が安定している」、「9. 忍耐強い」、「29. 誠実」、「33. 体力がある」といった項目の「5」の比率が 50%を超えている。

逆に、「1. 家庭の経済力」、「36. 保護者の希望」、「5. 保護者が医師」、「37. 目上に敏感」、「35. 発想力がある」、「22. 興味を追求できる」、「27. 身近に医療関係者がいる」、「2. 保護者の関心が強い」、「6. 保護者が看護師」、「38. 幼い頃から憧れている」といった項目の「5」の比率が低い。

表 7. 看護系の適性

項目	「5」の比率	平均値
1. 家庭の経済力	3.25	6.4%
2. 保護者の関心	3.61	12.1%
3. コミュニケーション能力	4.43	52.7%
4. 集中力	4.32	45.6%
5. 保護者が医師	3.33	9.3%
6. 保護者が看護師	3.54	13.1%
7. リーダーシップ	3.86	19.9%
8. 愛想が良い	4.01	27.1%
9. 忍耐強い	4.44	51.7%
10. 学力水準	4.11	30.8%
11. 優しい	4.35	47.8%
12. 規則正しい	4.35	47.8%
13. 記憶力	3.87	21.3%
14. 吸収力	4.07	30.2%
15. 協調性	4.46	52.5%
16. 苦勞を厭わない	4.46	54.4%
17. 計画性	3.99	25.2%
18. 堅実さ	4.36	48.6%
19. 口が堅い	4.03	33.5%
20. 向上心	4.25	39.4%
21. 自発性	4.24	40.1%
22. 興味を追求	3.44	10.2%
23. 手先が器用	3.80	19.4%
24. 従順性	3.70	15.8%
25. 柔軟性	4.07	29.4%
26. 情緒の安定	4.43	52.1%
27. 身近に医療関係者	3.44	10.8%
28. 正義感	3.99	27.3%
29. 誠実	4.43	51.4%
30. 責任感	4.55	61.0%
31. 役に立ちたい	4.57	62.7%
32. 辛抱強さ	4.31	44.3%
33. 体力	4.40	50.2%
34. 探究心	3.72	15.3%
35. 発想力	3.51	9.9%
36. 保護者の希望	3.18	6.9%
37. 目上に敏感	3.52	9.6%
38. 幼い頃から憧れ	3.54	13.9%
39. 要領の良さ	3.99	25.5%
40. 臨機応変	4.22	39.8%

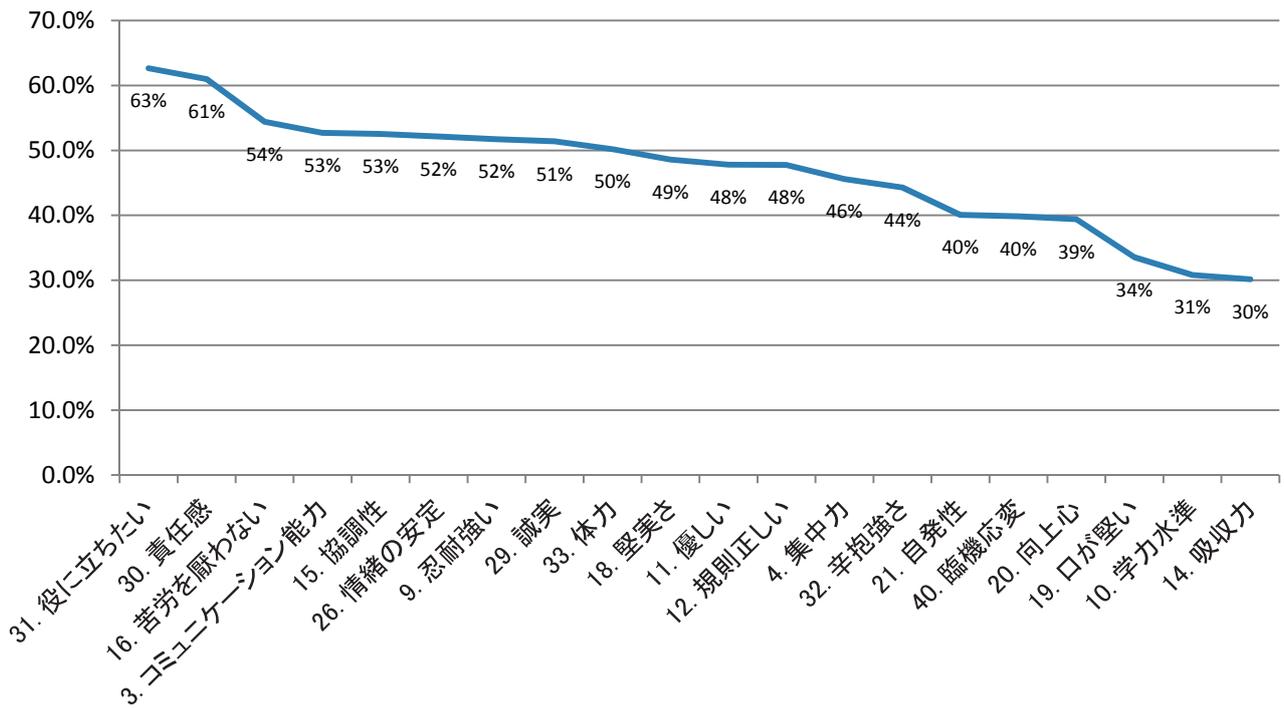


図 16-1. 看護系の適性（上位 20 項目）

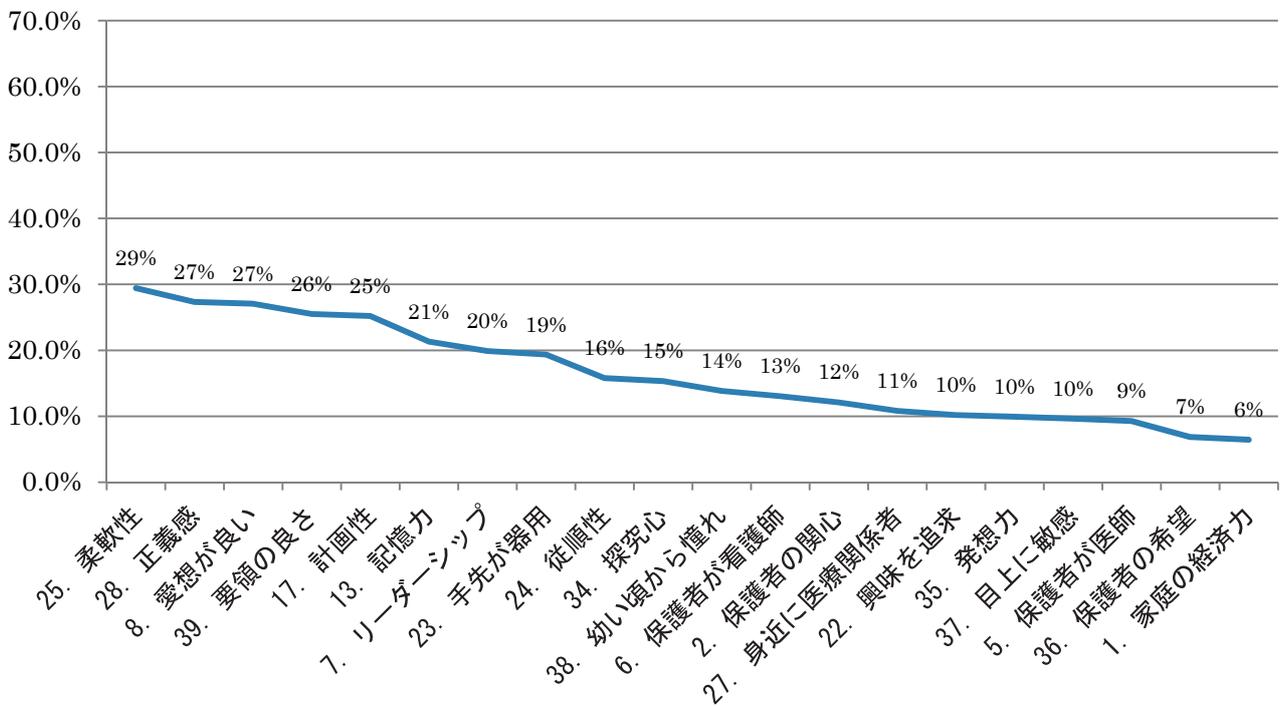


図 16-2. 看護系の適性（下位 20 項目）

## 6.4. 高校時代の学習履歴

### 6.4.1. 受験勉強の程度

看護系の生徒が受験勉強をする程度について、「1. 開講していない」、「2. 選択・履修しない」、「3. 履修するが受験勉強はしない」、「4. 受験勉強する」という4つの選択肢から典型的なケースについて一つ選んでもらった。設問の仕方にかかなりの無理があることから、「英語以外の外国語」について4.1%の高校で「4. 受験勉強する」の選択肢が選ばれるなど、にわかには信じがたい結果となった。また、大学調査の際には高等学校学習指導要領の内容が特定できる時期であったが、高校調査を実施した時期にはすでに新しい指導要領が実施されており、科目名の特定が難しくなった。したがって、比較にどの程度意味があるか難しいところだが、大学調査と高校調査を対比した結果を表8と図17に示す。なお、地理歴史各科目に関しては、大学調査の数値は「B」科目を用いた。また、「数学」はそれぞれ「I」「II」「III」を用いた。理科は「I」科目と「II」科目をそれぞれ「文系範囲」「理系範囲」と読み替えている。英語は「英語I」の数値を用いた。

「国語（現代文）」、「数学I・A」、「英語」を受験勉強しているという認識は、大学調査と高校調査で共通である。大きく違ったのが「国語（古典）」と「数学II・B」で、高校教員が思うほどには看護学生は受験勉強をしていなかったようである。

表 8. 受験勉強する比率

科目	大学調査（再掲）	高校調査
国語（現代文）	86.2%	85.1%
国語（古典）	70.9%	37.0%
世界史	7.6%	13.8%
日本史	16.2%	15.8%
地理	25.3%	19.1%
現代社会	23.7%	14.6%
政治・経済	13.3%	13.0%
数学I・A	87.8%	87.0%
数学II・B	70.5%	52.1%
数学III・C	12.9%	7.6%
物理（文系範囲）	11.2%	6.0%
物理（理系範囲）	7.4%	11.7%
化学（文系範囲）	51.2%	34.8%
化学（理系範囲）	32.0%	42.3%
生物（文系範囲）	71.3%	62.6%
生物（理系範囲）	40.5%	57.5%
地学（文系範囲）	1.7%	3.2%
地学（理系範囲）	1.4%	1.6%
英語	87.8%	84.9%

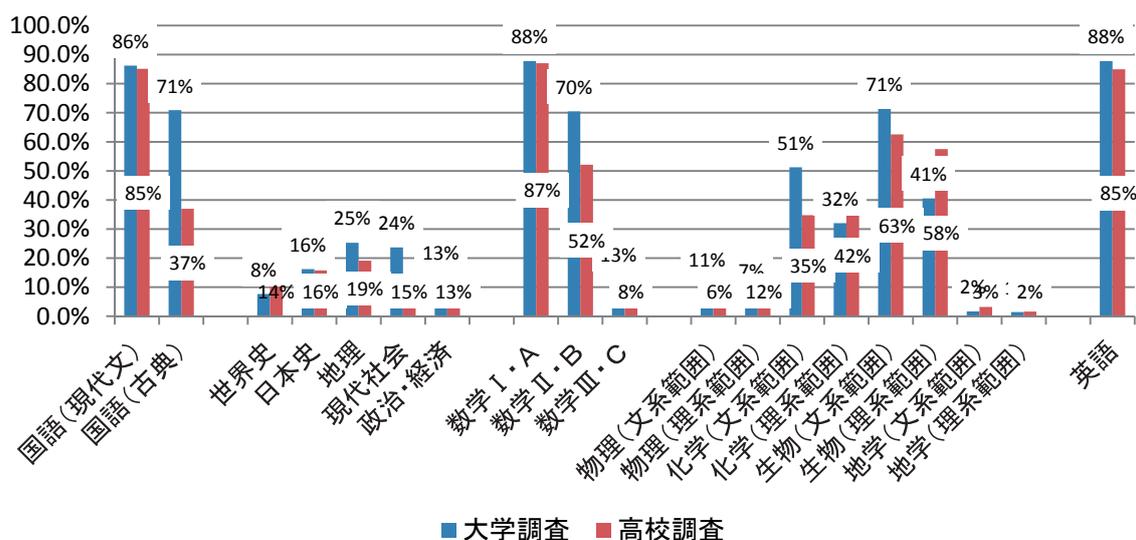


図 17. 受験勉強経験率

#### 6.4.2. 看護は「理系」か「文系」か

大学調査では、「あなたが学んでいる専門の内容は、本質的に『理系』だと感じますか？あるいは『文系』だと感じますか？」という尋ね方をしているが、高校調査では「現在の入試制度はさておき、将来、看護職に就く生徒は高校時代には、本来、**理系**で学んでおくべきだと感じますか？**文系**で学んでおくべきだと感じますか？」という表現で尋ねた項目である。原理的に直接的な比較が可能かどうかは問題だが、図 18 に示すように、結果的に極めて似たような構成比となった。

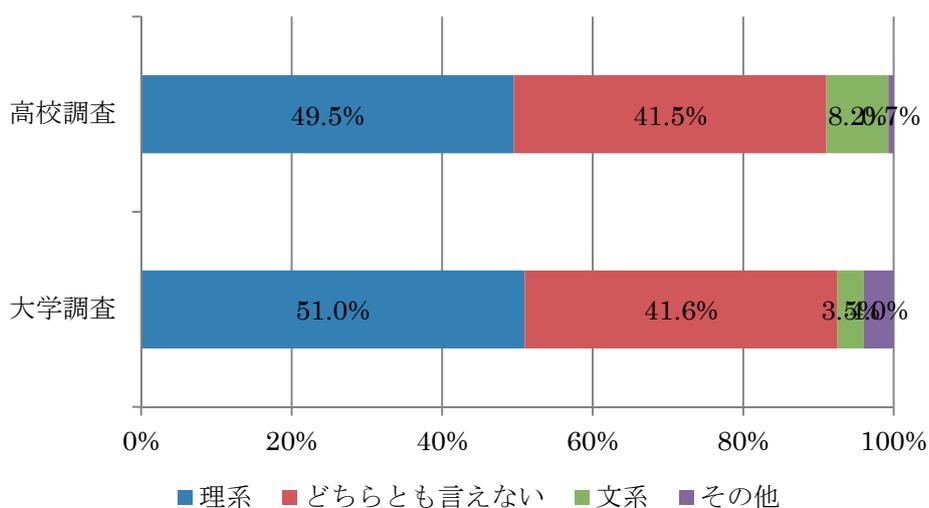


図 18. 看護は「理系」か「文系」か構成比 (%)

## 6.5. その他

### 6.5.1. オープンキャンパス

ほとんどが「参加を促す」し、参加した場合には「決め手になる」あるいは「参考になる」という回答であった。オープンキャンパス参加の目的は図 20 に示すとおりである。「5. かなり目的になる」の比率である。

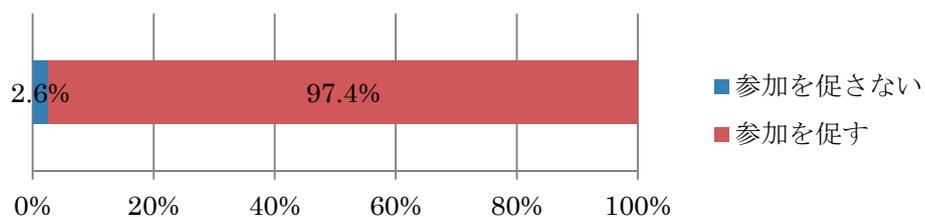


図 19-1. オープンキャンパスへの参加を促すか否か

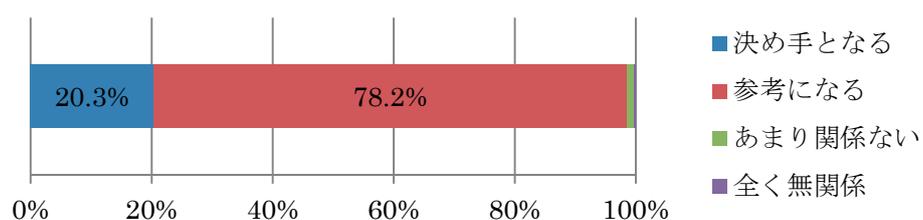


図 19-2. オープンキャンパスへの影響度（参加した場合）の構成比

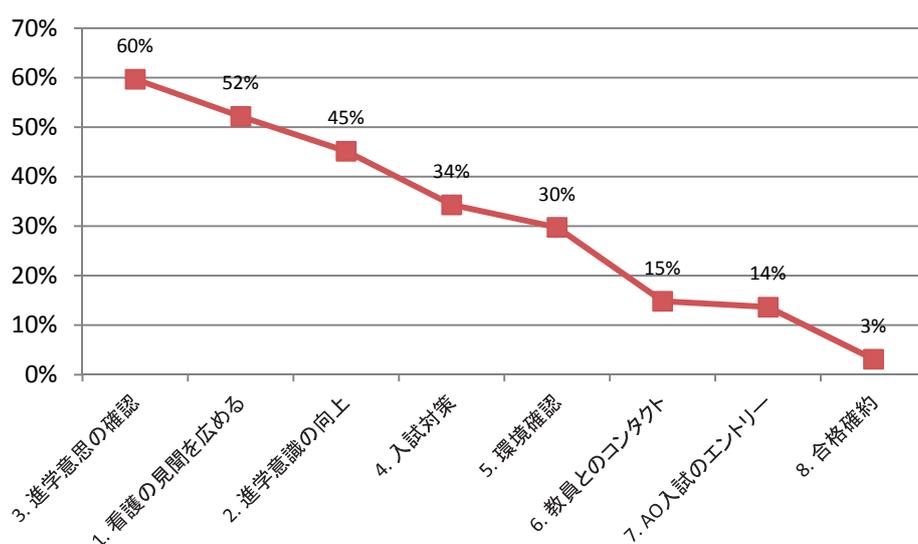


図 20. オープンキャンパスの目的「5」の比率

### 6.5.2. 回答者属性

本調査に回答した教員の属性は図 21, 図 22 に示すとおりである。

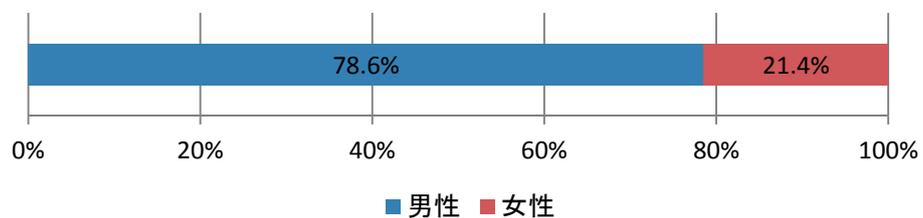


図 21. 回答者の性別構成比 (%)

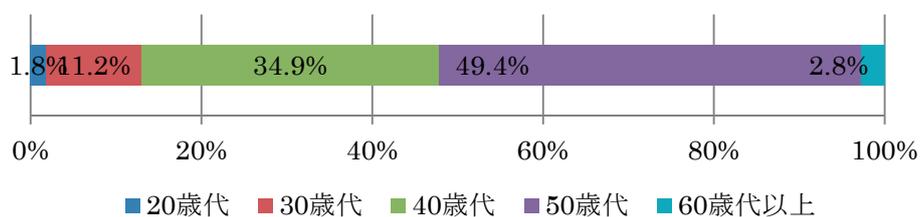


図 21. 回答者の年齢構成比 (%)

## 平成 25 年度 看護系への進学を志望する高校生に関するアンケート（回答）

科学研究費基盤研究(B)「医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題 ―看護職志望者の適性と大学入試―  
研究代表者 倉元 直樹 (東北大学)

この調査は**高等学校の進路指導担当教員を対象としたもの**です。進路に詳しい先生が、現在の所属校の生徒に関して**ご自身のお考え**でお答えください。看護師等の医療技術者や医療科学者を養成する分野への進学を志す高校生、あるいは、進学する高校生がどのような意識で進路を決めるのか、また、どのような要因に配慮して進路指導が行われているのかを明らかにすることを目的としています。今後の入試や教育の改善に役立つ基礎資料として活用するため、是非、ご協力ください。**調査票は全部で 8 ページ**です。

結果は統計的に処理されますので、**学校名が公表されることはありません**。その他、ご迷惑をお掛けすることは一切ありませんので、率直にお答えください。なお、答えにくい質問にはお答えいただかなくとも結構です。

### I. 貴校について

- a. 貴校の学校名を記入してください。 \_\_\_\_\_
- b. 学年毎のクラス数をコース別に記入してください。文理分けがない場合は「その他」に一括して記入してください。中等教育学校の場合、高校相当の学年でお答えください。
- 1 年生 文系 平均 3.9 クラス 理系 平均 2.3 クラス その他(内訳 \_\_\_\_\_)
- 2 年生 文系 平均 3.8 クラス 理系 平均 3.0 クラス その他(内訳 \_\_\_\_\_)
- 3 年生 文系 平均 3.9 クラス 理系 平均 3.2 クラス その他(内訳 \_\_\_\_\_)
- c. 学年、コース毎の男女別人数を記入してください。10 名単位の概数でも結構です。(以下、平均人数)
- 1 年生 文系：男子 56.4 人 女子 96.8 人 理系：男子 68.8 人 女子 32.3 人 その他：男子 114.7 人 女子 109.3 人
- 2 年生 文系：男子 62.0 人 女子 87.2 人 理系：男子 69.6 人 女子 42.7 人 その他：男子 89.7 人 女子 81.1 人
- 3 年生 文系：男子 63.9 人 女子 86.7 人 理系：男子 66.4 人 女子 39.4 人 その他：男子 83.7 人 女子 76.5 人
- d. 進路に関する貴校の位置づけは以下のどれに近いでしょうか。**あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 1. 生徒の多くが国公立大学を目指す進学校   | 233 校 (17.9%) |
| 2. 生徒の多くが 4 年制大学を目指す進学校 | 224 校 (17.2%) |
| 3. 生徒の多くが大学・専門学校を目指す進学校 | 180 校 (13.8%) |
| 4. 進学志望・就職志望が混じる進路多様校   | 583 校 (44.8%) |
| 5. 生徒の多くが進学を目指さない非進学校   | 82 校 (6.3%)   |
- e. 最終的に他の分野に進む生徒も含め、貴校には**看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒**はいますか？**あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
- |                                 |               |
|---------------------------------|---------------|
| 1. ほとんどいない → <b>質問はこれで終了です。</b> | 185 校 (14.2%) |
| 2. 例外的 (毎年 2～3 名程度以下)           | 230 校 (17.6%) |
| 3. コンスタントにいる (毎年 平均 13.6 名程度)   | 892 校 (68.3%) |

## II. 進学先と入試

- a. **看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒は**、文系、理系のどちらが多いでしょうか。 **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. ほとんど理系	219校 (19.5%)
2. どちらかと言えば理系	299校 (26.6%)
3. どちらかと言えば文系	152校 (13.5%)
4. ほとんど文系	36校 (3.2%)
5. コース分けがない	254校 (22.6%)
6. 文理で分類できない	165校 (14.7%)

- b. **男子生徒**で看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒はいますか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. ほとんどいない	423校 (39.6%)
2. 例外的 (毎年2～3名程度以下)	511校 (47.9%)
3. コンスタントにいる (毎年 平均4.4名程度)	134校 (12.6%)

- c. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒が受験するのは主として大学ですか？ 専門学校ですか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 主として大学	280校 (24.9%)
2. 主として専門学校	387校 (34.4%)
3. 大学も専門学校も受験する	457校 (40.7%)

- d. 毎年、比較的多くの生徒が受験する看護系大学や看護系専門学校があるとすれば、どのようなところでしょうか。 **あてはまるところにいくつでも** ○を付けてください。可能であれば、具体的に名称を記入してください (複数回答可)。

1. 地元の大学	693校 (61.2%)
2. 地域の専門学校	840校 (74.2%)
3. 地元以外の大学	186校 (16.4%)
4. 地元以外の専門学校	139校 (12.3%)

- e. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒の学業成績は、貴校の中ではおしなべてどの程度の水準でしょうか？ **典型的なケース**について、 **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 最上位レベル	57校 (5.2%)
2. 上位10～20%程度	319校 (28.8%)
3. 平均より少し上	473校 (42.7%)
4. 平均レベル	184校 (16.6%)
5. 平均より少し下	70校 (6.3%)
6. 下位10～20%程度	3校 (0.3%)
7. 最下位レベル	1校 (0.1%)

f. 多くの生徒が第一志望で受験する看護系大学や看護系専門学校の入試の区分はどれですか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 一般入試	336校 (30.3%)
2. 推薦入試	726校 (65.4%)
3. AO入試	27校 (2.4%)
4. その他	21校 (1.9%)

g. 看護系大学や看護系専門学校への進学を志望する生徒が受験校を決める時期はいつ頃が多いですか？ **あてはまるところにいくつでも** ○を付けてください。

1. 高校入学前	132校 (11.7%)
2. 高校1年	290校 (25.6%)
3. 高校2年	528校 (46.6%)
4. 高校3年の4～7月	556校 (49.1%)
5. 高校3年の8月以降センター試験以前	128校 (11.3%)
6. 高校3年のセンター試験以降	44校 (3.9%)
7. 高校卒業後	2校 (0.2%)
8. その他	1校 (0.1%)

h. 看護系大学や看護系専門学校へ**実際に進学する生徒**は、看護系の進路が第1志望である場合が多いですか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 第1志望が多い	1,076校 (95.5%)
2. 第2志望が多い	40校 (3.6%)
3. 第3志望以下が多い	11校 (1.0%)

i. **看護系以外の進路を第1志望**としながら、**実際には看護系大学や看護系専門学校へ進学する生徒**の場合、第1志望としていた進路には何か傾向がありますか？ そのような生徒が第1志望とすることが多い分野について、**あてはまるところにいくつでも** ○を付けてください。

1. 医学	110校 (9.7%)
2. 歯学	12校 (1.1%)
3. 薬学	116校 (10.3%)
4. 看護系以外の医療技術系	306校 (27.0%)
5. 医歯薬系以外の理系分野	22校 (1.9%)
6. 文系分野	39校 (3.5%)
7. 専門学校における医療技術系以外の資格系分野	54校 (4.8%)

j. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒の受験先の決定に際して最も影響力が大きいのは、下記のうちのどれですか？ **典型的なケース**について、**あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 保護者の意見	206校 (18.4%)
2. 教員の意見	81校 (7.2%)
3. 生徒本人の意見	807校 (72.0%)
4. その他	27校 (2.4%)

k. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒の家庭の保護者や親せきなどの身内には、医師や看護師など医療系の職種に就いている方が多いでしょうか？ あてはまるところに一つだけ ○を付けてください。

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1. 医療系の家庭が多い          | 41校 (3.7%)   |
| 2. どちらかと言えば医療系の家庭が多い  | 448校 (39.8%) |
| 3. どちらとも言えない          | 532校 (47.3%) |
| 4. どちらかと言えば医療系の家庭は少ない | 58校 (5.2%)   |
| 5. 医療系の家庭は少ない         | 46校 (4.1%)   |

### III. 看護系への進学理由・適性

a. 看護系大学や看護系専門学校へ実際に進学した生徒の場合、進学先への受験を決めた理由として、以下のような点はどの程度重要だと感じていたでしょうか？ 典型的なケースについて、それぞれ あてはまるところに一つだけ ○を付けてください。

- |                   |                    |              |
|-------------------|--------------------|--------------|
| 1. 全く重要だと感じていなかった | 2. あまり重要だと感じていなかった | 3. どちらとも言えない |
| 4. 少しは重要だと感じていた   | 5. かなり重要だと感じていた    |              |

	1	2	3	4	5	回答不能
1. 取得できる資格の種類が魅力的であること	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 14校 (1.3%)	2. 36校 (3.3%)	3. 96校 (8.8%)	4. 242校 (22.2%)	5. 702校 (64.4%)		
2. 将来の仕事に興味・関心があること	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 13校 (1.2%)	2. 17校 (1.5%)	3. 47校 (4.3%)	4. 225校 (20.3%)	5. 804校 (72.7%)		
3. 専門で学ぶ内容への興味・関心があること	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 10校 (0.9%)	2. 18校 (1.7%)	3. 147校 (13.5%)	4. 390校 (35.7%)	5. 527校 (48.3%)		
4. 将来の職業がはっきりしているかどうか	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 18校 (1.6%)	2. 12校 (1.1%)	3. 42校 (3.8%)	4. 259校 (23.6%)	5. 766校 (69.8%)		
5. 将来、就職できそうかどうか	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 14校 (1.3%)	2. 33校 (3.0%)	3. 116校 (10.5%)	4. 318校 (28.8%)	5. 623校 (56.4%)		
6. 将来、見込まれる収入の金額が十分かどうか	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 13校 (1.2%)	2. 112校 (10.3%)	3. 445校 (40.9%)	4. 362校 (33.3%)	5. 155校 (14.3%)		
7. 将来、暮らしたいと思っている地域で暮らせそうかどうか	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 29校 (2.7%)	2. 158校 (14.5%)	3. 481校 (44.2%)	4. 313校 (28.7%)	5. 108校 (9.9%)		
8. 大学や学校がある地域や場所が魅力的かどうか	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 37校 (3.4%)	2. 174校 (15.9%)	3. 469校 (43.0%)	4. 323校 (29.6%)	5. 89校 (8.2%)		
9. 楽しい学生生活が送れそうかどうか	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 37校 (3.4%)	2. 210校 (19.3%)	3. 499校 (45.9%)	4. 288校 (26.5%)	5. 54校 (5.0%)		
10. 所属する専攻(学科)の教育内容	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
1. 14校 (1.3%)	2. 81校 (7.4%)	3. 296校 (27.1%)	4. 490校 (44.8%)	5. 213校 (19.5%)		

11. 所属する専攻(学科)の教員の研究内容 ..... | — + — + — + — |
1. 72校(6.6%) 2. 213校(19.6%) 3. 483校(44.5%) 4. 257校(23.7%) 5. 60校(5.5%)
12. 大学や学校の評判, 社会的評価 ..... | — + — + — + — |
1. 14校(1.3%) 2. 63校(5.7%) 3. 275校(25.1%) 4. 562校(51.2%) 5. 183校(16.7%)
13. 施設・設備が充実しているかどうか ..... | — + — + — + — |
1. 8校(0.7%) 2. 41校(3.7%) 3. 174校(15.8%) 4. 569校(51.8%) 5. 307校(27.9%)
14. 学費の安さ ..... | — + — + — + — |
1. 5校(0.5%) 2. 33校(3.0%) 3. 197校(17.8%) 4. 454校(41.1%) 5. 417校(37.7%)
15. 生活費の安さ ..... | — + — + — + — |
1. 24校(2.2%) 2. 76校(7.0%) 3. 444校(40.9%) 4. 344校(31.7%) 5. 197校(18.2%)
16. 自宅から通えるかどうか ..... | — + — + — + — |
1. 52校(4.7%) 2. 65校(5.9%) 3. 172校(15.6%) 4. 404校(36.6%) 5. 412校(37.3%)
17. 合格可能性の高さ ..... | — + — + — + — |
1. 9校(0.8%) 2. 16校(1.4%) 3. 103校(9.3%) 4. 447校(40.3%) 5. 534校(48.2%)
18. 入試科目の内容 ..... | — + — + — + — |
1. 9校(0.8%) 2. 31校(2.8%) 3. 166校(15.1%) 4. 476校(43.2%) 5. 419校(38.1%)
19. 入試の地方会場が自宅近くに設けられていたかどうか ..... | — + — + — + — |
1. 150校(14.3%) 2. 265校(25.2%) 3. 462校(44.0%) 4. 133校(12.7%) 5. 40校(3.8%)
20. 他に受験したところとの併願しやすさ ..... | — + — + — + — |
1. 91校(8.5%) 2. 185校(17.2%) 3. 406校(37.8%) 4. 318校(29.6%) 5. 75校(7.0%)

b. 貴校から看護系大学や看護系専門学校へ実際に進学した生徒のうち、進学後が最も心配だった生徒一人を思い浮かべてください。その生徒が進学先で不適応を起こすとすれば、具体的にどのようなことが問題になる可能性が高いと思っていましたか？ それぞれ あてはまるところに一つだけ ○を付けてください。

1. 全く心配していなかった      2. あまり心配していなかった      3. どちらとも言えない  
4. 少しは心配していた      5. かなり心配していた

1. 病人の立場で考えられないために実習先で問題を起こす ..... | 1 2 3 4 5 |  
1. 219校(20.1%) 2. 351校(32.1%) 3. 214校(19.6%) 4. 235校(21.5%) 5. 73校(6.7%)
2. 薬の量などの計算や見積もりができない ..... | — + — + — + — |  
1. 202校(18.5%) 2. 321校(29.4%) 3. 240校(22.0%) 4. 256校(23.4%) 5. 73校(6.7%)
3. 時間を守るなど、基本的な生活習慣が確立できない ..... | — + — + — + — |  
1. 264校(24.2%) 2. 400校(36.7%) 3. 184校(16.9%) 4. 181校(16.6%) 5. 60校(5.5%)
4. 大学や専門学校の友人関係で問題を起こす ..... | — + — + — + — |  
1. 242校(22.2%) 2. 391校(35.9%) 3. 242校(22.2%) 4. 171校(15.7%) 5. 43校(4.0%)

5. 多様な症状やカルテの記述から患者の状態が見抜けない …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 128 校(11.7%) 2. 261 校(23.9%) 3. 331 校(30.3%) 4. 290 校(26.6%) 5. 81 校 (7.4%)
6. 聞く力が不足しており、口頭での指示が理解できない …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 171 校(15.7%) 2. 319 校(29.2%) 3. 281 校(25.7%) 4. 253 校(23.2%) 5. 68 校 (6.2%)
7. 臨機応変な予測力、対応力に欠ける …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 79 校 (7.2%) 2. 185 校(17.0%) 3. 242 校(22.2%) 4. 432 校(39.6%) 5. 153 校(14.0%)
8. 基礎学力の不足で授業についていけない …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 94 校 (8.6%) 2. 150 校(13.7%) 3. 179 校(16.3%) 4. 415 校(37.8%) 5. 259 校(23.6%)
9. 経済状況が苦しく、学費が続かない …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 201 校(18.4%) 2. 312 校(28.6%) 3. 337 校(30.9%) 4. 194 校(17.8%) 5. 47 校 (4.3%)
10. 集団行動ができない …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 265 校(24.3%) 2. 386 校(35.4%) 3. 270 校(24.8%) 4. 135 校(12.4%) 5. 34 校 (3.1%)
11. 不本意入学のため、学習意欲がわからない …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 441 校(40.6%) 2. 348 校(32.0%) 3. 200 校(18.4%) 4. 75 校 (6.9%) 5. 23 校 (2.1%)
12. 過度の思い込みのため、現実が本人の期待と大きく異なる …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 217 校(19.9%) 2. 315 校(28.9%) 3. 305 校(28.0%) 4. 193 校(17.7%) 5. 59 校 (5.4%)
13. 保護者が学校に過度に干渉する …………… | —+—+—+—+— |  
 1. 419 校(38.4%) 2. 344 校(31.5%) 3. 247 校(22.6%) 4. 57 校 (5.2%) 5. 25 校 (2.3%)

c. 前ページの質問で、思い浮かべた**最も心配だった生徒**は、どのようなプロフィールを持っていましたか？  
 以下の各項目について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

性別	1. 男子	182 校 (16.8%)
	2. 女子	900 校 (83.2%)
所属コース	1. 理系	334 校 (31.0%)
	2. 文系	308 校 (28.6%)
	3. その他	435 校 (40.4%)
進学先	1. 国立大学	33 校 (3.1%)
	2. 公立大学	41 校 (3.8%)
	3. 私立大学	242 校 (22.5%)
	4. 専門学校	760 校 (70.6%)
進学後の通学形態	1. 自宅生	733 校 (68.4%)
	2. 自宅外生	338 校 (31.6%)

成績（看護系への進学者としては、）	1. 上位	141校（13.1%）
	2. 中位	476校（44.2%）
	3. 下位	461校（42.8%）
進学した入試区分	1. 一般入試	493校（45.9%）
	2. 推薦入試	494校（46.0%）
	3. AO入試	75校（7.0%）
	4. その他	13校（1.2%）
志望順位（看護系への進学は）	1. 第1志望	890校（82.6%）
	2. 第2志望	97校（9.0%）
	3. 第3志望以下	90校（8.4%）
進路決定の実質的主体	1. 保護者	175校（16.3%）
	2. 教員	35校（3.3%）
	3. 生徒本人	860校（80.1%）
	4. その他	4校（0.4%）
家庭背景	1. 医療関係者	169校（16.0%）
	2. 医療関係者以外	886校（84.0%）
家庭の経済状況	1. 困窮していた	150校（14.2%）
	2. 問題なかった	904校（85.8%）

d. 一般的に、生徒に看護系大学や看護系専門学校への進学を勧めるとすれば、どのような理由が考えられますか？それぞれ **あてはまる場所に一つだけ** ○を付けてください。

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 全く理由にならない | 2. あまり理由にならない | 3. どちらとも言えない |
| 4. 少しは理由になる  | 5. 重要な理由になる   |              |

	1	2	3	4	5	回答不能
1. 将来、経済的に安定した生活ができること ……………	— + — + — + —					□
1. 31校（2.8%） 2. 138校（12.5%） 3. 243校（22.0%）	4. 443校（40.2%）	5. 248校（22.5%）				
2. 職種が時代や流行に左右されないこと ……………	— + — + — + —					□
1. 23校（2.1%） 2. 86校（7.8%） 3. 216校（19.6%）	4. 486校（44.0%）	5. 294校（26.6%）				
3. 女性が経済的に自立できること ……………	— + — + — + —					□
1. 24校（2.2%） 2. 71校（6.5%） 3. 187校（17.0%）	4. 465校（42.4%）	5. 351校（32.0%）				
4. 女性が良き伴侶を見つけられること ……………	— + — + — + —					□
1. 334校（30.7%） 2. 300校（27.6%） 3. 398校（36.6%）	4. 38校（3.5%）	5. 17校（1.6%）				

5. 職場で男女差別がないこと ..... | — + — + — + — |
1. 74校 (6.8%) 2. 189校(17.3%) 3. 466校(42.7%) 4. 259校(23.7%) 5. 104校 (9.5%)
6. 人の命を救うことができること ..... | — + — + — + — |
1. 14校 (1.3%) 2. 13校 (1.2%) 3. 98校 (8.8%) 4. 451校(40.7%) 5. 532校(48.0%)
7. 固い資格であること ..... | — + — + — + — |
1. 16校 (1.5%) 2. 41校 (3.7%) 3. 171校(15.5%) 4. 459校(41.6%) 5. 417校(37.8%)
8. 給料が高いこと ..... | — + — + — + — |
1. 27校 (2.5%) 2. 97校 (8.8%) 3. 466校(42.3%) 4. 395校(35.8%) 5. 118校(10.7%)
9. 自律的な仕事であること ..... | — + — + — + — |
1. 14校 (1.3%) 2. 47校 (4.3%) 3. 309校(28.2%) 4. 493校(44.9%) 5. 234校(21.3%)
10. 社会に貢献できること ..... | — + — + — + — |
1. 12校 (1.1%) 2. 11校 (1.0%) 3. 70校 (6.3%) 4. 406校(36.6%) 5. 611校(55.1%)
11. 取得困難な資格であること ..... | — + — + — + — |
1. 52校 (4.7%) 2. 142校(12.9%) 3. 501校(45.4%) 4. 307校(27.8%) 5. 102校 (9.2%)
12. 女性中心の職場であること ..... | — + — + — + — |
1. 108校 (9.9%) 2. 238校(21.8%) 3. 565校(51.7%) 4. 150校(13.7%) 5. 32校 (2.9%)
13. 将来、長く勤められること ..... | — + — + — + — |
1. 16校 (1.5%) 2. 51校 (4.6%) 3. 180校(16.3%) 4. 504校(45.7%) 5. 351校(31.9%)
14. 将来的に発展性があること ..... | — + — + — + — |
1. 16校 (1.5%) 2. 62校 (5.6%) 3. 439校(40.0%) 4. 408校(37.1%) 5. 174校(15.8%)
15. 専門性が高いこと ..... | — + — + — + — |
1. 14校 (1.3%) 2. 16校 (1.5%) 3. 129校(11.7%) 4. 542校(49.1%) 5. 404校(36.6%)
16. 他人に喜ばれる仕事であること ..... | — + — + — + — |
1. 14校 (1.3%) 2. 12校 (1.1%) 3. 98校 (8.8%) 4. 434校(39.2%) 5. 550校(49.7%)
17. 地元就職があること ..... | — + — + — + — |
1. 23校 (2.1%) 2. 50校 (4.5%) 3. 235校(21.3%) 4. 437校(39.7%) 5. 356校(32.3%)
18. 保護者や親せきが喜ぶ職種であること ..... | — + — + — + — |
1. 111校(10.1%) 2. 190校(17.3%) 3. 525校(47.9%) 4. 203校(18.5%) 5. 67校 (6.1%)
19. 学費が安いこと ..... | — + — + — + — |
1. 68校 (6.2%) 2. 183校(16.7%) 3. 529校(48.3%) 4. 231校(21.1%) 5. 85校 (7.8%)
20. 確実に合格できること ..... | — + — + — + — |
1. 199校(18.1%) 2. 260校(23.7%) 3. 458校(41.8%) 4. 129校(11.8%) 5. 51校 (4.7%)

21. 入試で得意科目を生かせること ..... | — + — + — + — |
1. 121校(11.0%) 2. 249校(22.6%) 3. 517校(47.0%) 4. 170校(15.4%) 5. 44校(4.0%)
22. 自宅から通えること ..... | — + — + — + — |
1. 108校(9.8%) 2. 171校(15.6%) 3. 430校(39.1%) 4. 292校(26.6%) 5. 99校(9.0%)
23. 入試の地方会場が近くに設けられること ..... | — + — + — + — |
1. 284校(26.5%) 2. 256校(23.9%) 3. 442校(41.2%) 4. 68校(6.4%) 5. 21校(2.0%)

e. 看護系大学や看護系専門学校に進学する生徒が看護師などの看護専門職に抱くイメージは以下のうちのどのようなものでしょうか？**典型的なケース**について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 全くそう思っていない      2. あまりそう思っていない      3. どちらとも言えない  
4. 少しはそう思っている      5. かなりそう思っている

- |  | 1              | 2              | 3              | 4              | 5              | 回答不能 |
|--|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|------|
| 1. 経済的に安定している .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>     | 1. 10校(0.9%)   | 2. 26校(2.4%)   | 3. 162校(14.7%) | 4. 504校(45.7%) | 5. 402校(36.4%) |      |
| 2. 時代や流行に左右されない .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>   | 1. 15校(1.4%)   | 2. 39校(3.6%)   | 3. 213校(19.4%) | 4. 522校(47.5%) | 5. 311校(28.3%) |      |
| 3. 女性が経済的に自立できる .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>   | 1. 17校(1.6%)   | 2. 31校(2.8%)   | 3. 183校(16.7%) | 4. 501校(45.7%) | 5. 365校(33.3%) |      |
| 4. 女性が良き伴侶を見つけられる .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/> | 1. 193校(17.8%) | 2. 309校(28.5%) | 3. 489校(45.2%) | 4. 78校(7.2%)   | 5. 14校(1.3%)   |      |
| 5. 職場で男女差別がない .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>     | 1. 56校(5.2%)   | 2. 167校(15.5%) | 3. 510校(47.2%) | 4. 266校(24.6%) | 5. 82校(7.6%)   |      |
| 6. 人の命を救うことができる .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>   | 1. 6校(0.5%)    | 2. 4校(0.4%)    | 3. 59校(5.3%)   | 4. 346校(31.2%) | 5. 695校(62.6%) |      |
| 7. 固い資格である .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>        | 1. 6校(0.5%)    | 2. 17校(1.5%)   | 3. 137校(12.4%) | 4. 444校(40.3%) | 5. 498校(45.2%) |      |
| 8. 給料が高い .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>          | 1. 16校(1.5%)   | 2. 55校(5.0%)   | 3. 428校(38.9%) | 4. 423校(38.5%) | 5. 178校(16.2%) |      |
| 9. 自律的な仕事である .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>      | 1. 12校(1.1%)   | 2. 45校(4.1%)   | 3. 296校(26.9%) | 4. 489校(44.4%) | 5. 260校(23.6%) |      |
| 10. 社会に貢献できる .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>      | 1. 4校(0.4%)    | 2. 7校(0.6%)    | 3. 53校(4.8%)   | 4. 363校(32.7%) | 5. 682校(61.5%) |      |
| 11. 取得困難な資格である .....   — + — + — + —   <input type="checkbox"/>    | 1. 22校(2.0%)   | 2. 89校(8.1%)   | 3. 416校(37.8%) | 4. 399校(36.3%) | 5. 174校(15.8%) |      |

12. 女性中心の職場である ..... | —+—+—+—+— |
1. 43校 (3.9%) 2. 130校(11.9%) 3. 476校(43.5%) 4. 298校(27.2%) 5. 147校(13.4%)
13. 将来, 長く勤められる ..... | —+—+—+—+— |
1. 6校 (0.5%) 2. 28校 (2.5%) 3. 167校(15.1%) 4. 502校(45.4%) 5. 402校(36.4%)
14. 将来的に発展性がある ..... | —+—+—+—+— |
1. 12校 (1.1%) 2. 52校 (4.7%) 3. 462校(42.2%) 4. 388校(35.4%) 5. 182校(16.6%)
15. 専門性が高い ..... | —+—+—+—+— |
1. 4校 (0.4%) 2. 7校 (0.6%) 3. 112校(10.1%) 4. 504校(45.6%) 5. 478校(43.3%)
16. 他人に喜ばれる仕事である ..... | —+—+—+—+— |
1. 5校 (0.4%) 2. 3校 (0.5%) 3. 51校 (4.6%) 4. 380校(34.3%) 5. 670校(60.4%)
17. 地元就職がある ..... | —+—+—+—+— |
1. 13校 (1.2%) 2. 34校 (3.1%) 3. 235校(21.4%) 4. 412校(37.5%) 5. 405校(36.9%)
18. 保護者や親せきが喜ぶ職種である ..... | —+—+—+—+— |
1. 35校 (3.2%) 2. 99校 (9.0%) 3. 441校(40.2%) 4. 340校(31.0%) 5. 183校(16.7%)
19. 責任が重い仕事である ..... | —+—+—+—+— |
1. 6校 (0.5%) 2. 27校 (2.4%) 3. 134校(12.1%) 4. 424校(38.4%) 5. 514校(46.5%)
20. 対人能力が問われる ..... | —+—+—+—+— |
1. 9校 (0.8%) 2. 53校 (4.8%) 3. 197校(17.9%) 4. 455校(41.3%) 5. 388校(35.2%)
21. 3K労働 (きつい・きたない・きけん) である ..... | —+—+—+—+— |
1. 29校 (2.6%) 2. 159校(14.4%) 3. 381校(34.6%) 4. 402校(36.5%) 5. 130校(11.8%)
22. 夜勤がある ..... | —+—+—+—+— |
1. 18校 (1.6%) 2. 67校 (6.1%) 3. 204校(18.5%) 4. 428校(38.7%) 5. 388校(35.1%)
23. 残業が多い ..... | —+—+—+—+— |
1. 30校 (2.7%) 2. 94校 (8.6%) 3. 334校(30.5%) 4. 415校(37.9%) 5. 222校(20.3%)

f. 以下のうち, 他分野の進路と比較して, どのような生徒が特に看護系大学や看護系専門学校の進学へ向いていると感じますか? 以下に挙げた特性について, それぞれ **あてはまる場所に一つだけ**  を付けてください。

1. 全く向いていると思わない      2. あまり向いていると思わない      3. どちらとも言えない  
4. 少しは向いていると思う      5. かなり向いていると思う

1. 家庭に学費を賄う経済力がある ..... | 1 2 3 4 5  
| —+—+—+—+— |  
1. 28校 (2.5%) 2. 61校 (5.5%) 3. 694校(62.8%) 4. 251校(22.7%) 5. 71校 (6.4%)
2. 保護者が医療関連分野への関心が強い ..... | —+—+—+—+— |

1.	16校 (1.4%)	2.	34校 (3.1%)	3.	449校(40.5%)	4.	475校(42.9%)	5.	134校(12.1%)
3.	コミュニケーション能力が高い .....								
1.	2校 (0.2%)	2.	6校 (0.5%)	3.	86校 (7.7%)	4.	432校(38.9%)	5.	585校(52.7%)
4.	集中力がある .....								
1.	3校 (0.3%)	2.	6校 (0.5%)	3.	125校(11.2%)	4.	472校(42.4%)	5.	507校(45.6%)
5.	保護者が医師で医療現場の実情を知っている .....								
1.	41校 (3.7%)	2.	84校 (7.6%)	3.	559校(50.3%)	4.	325校(29.2%)	5.	103校 (9.3%)
6.	保護者が看護師で医療現場の実情を知っている .....								
1.	33校 (3.0%)	2.	59校 (5.3%)	3.	441校(39.7%)	4.	434校(39.0%)	5.	145校(13.0%)
7.	リーダーシップがある .....								
1.	3校 (0.3%)	2.	22校 (2.0%)	3.	320校(28.8%)	4.	546校(49.1%)	5.	221校(19.9%)
8.	愛想が良い .....								
1.	4校 (0.4%)	2.	22校 (2.0%)	3.	230校(20.7%)	4.	554校(49.9%)	5.	300校(27.0%)
9.	何事にも忍耐強い .....								
1.	3校 (0.3%)	2.	3校 (0.3%)	3.	76校 (6.8%)	4.	455校(40.8%)	5.	577校(51.8%)
10.	学力的に高い水準に達している .....								
1.	2校 (0.2%)	2.	9校 (0.8%)	3.	196校(17.6%)	4.	562校(50.6%)	5.	342校(30.8%)
11.	気持ちが優しい .....								
1.	2校 (0.2%)	2.	7校 (0.6%)	3.	125校(11.3%)	4.	445校(40.1%)	5.	531校(47.8%)
12.	規則正しい生活ができる .....								
1.	4校 (0.4%)	2.	8校 (0.7%)	3.	113校(10.2%)	4.	455校(41.0%)	5.	531校(47.8%)
13.	記憶力がすぐれている .....								
1.	4校 (0.4%)	2.	22校 (2.0%)	3.	327校(29.4%)	4.	523校(47.0%)	5.	237校(21.3%)
14.	吸収力がある .....								
1.	3校 (0.3%)	2.	11校 (1.0%)	3.	225校(20.2%)	4.	538校(48.4%)	5.	335校(30.1%)
15.	協調性がある .....								
1.	2校 (0.2%)	2.	6校 (0.5%)	3.	57校 (5.1%)	4.	464校(41.7%)	5.	584校(52.5%)
16.	苦勞をいとわない .....								
1.	3校 (0.3%)	2.	5校 (0.5%)	3.	70校 (6.3%)	4.	429校(38.5%)	5.	606校(54.5%)
17.	計画性がある .....								
1.	1校 (0.1%)	2.	11校 (1.0%)	3.	262校(23.6%)	4.	558校(50.2%)	5.	280校(25.2%)
18.	堅実でミスが少ない .....								
1.	2校 (0.2%)	2.	6校 (0.5%)	3.	119校(10.7%)	4.	444校(40.0%)	5.	539校(48.6%)

19. 口が堅い	1. 2校 (0.2%)	2. 17校 (1.5%)	3. 300校(27.0%)	4. 419校(37.8%)	5. 372校(33.5%)
20. 向上心がある	1. 4校 (0.4%)	2. 6校 (0.5%)	3. 133校(12.0%)	4. 531校(47.7%)	5. 439校(39.4%)
21. 自発的に行動できる	1. 4校 (0.4%)	2. 4校 (0.4%)	3. 159校(14.3%)	4. 500校(45.0%)	5. 445校(40.0%)
22. 自分の興味をとことん追求できる	1. 14校 (1.3%)	2. 72校 (6.5%)	3. 546校(49.2%)	4. 365校(32.9%)	5. 113校(10.2%)
23. 手先が器用	1. 6校 (0.5%)	2. 33校 (3.0%)	3. 350校(31.6%)	4. 504校(45.5%)	5. 214校(19.3%)
24. 従順に指示に従うことができる	1. 7校 (0.6%)	2. 44校 (4.0%)	3. 396校(35.6%)	4. 489校(44.0%)	5. 175校(15.8%)
25. 柔軟性がある	1. 3校 (0.3%)	2. 12校 (1.1%)	3. 213校(19.2%)	4. 555校(50.1%)	5. 326校(29.4%)
26. 情緒が安定している	1. 5校 (0.5%)	2. 5校 (0.5%)	3. 76校 (6.9%)	4. 444校(40.1%)	5. 578校(52.2%)
27. 身近に医療関係者がいて医療現場の実情を知っている	1. 27校 (2.4%)	2. 73校 (6.6%)	3. 512校(46.1%)	4. 379校(34.1%)	5. 120校(10.8%)
28. 正義感が強い	1. 8校 (0.7%)	2. 13校 (1.2%)	3. 264校(23.8%)	4. 522校(47.0%)	5. 303校(27.3%)
29. 誠実である	1. 5校 (0.5%)	2. 3校 (0.3%)	3. 73校 (6.6%)	4. 461校(41.4%)	5. 572校(51.4%)
30. 責任感がある	1. 5校 (0.5%)	2. 2校 (0.2%)	3. 52校 (4.7%)	4. 374校(33.7%)	5. 678校(61.0%)
31. 他人の役に立つ仕事をしたいと思っている	1. 3校 (0.3%)	2. 2校 (0.2%)	3. 54校 (4.9%)	4. 356校(32.0%)	5. 697校(62.7%)
32. 他人の話を辛抱強く聞くことができる	1. 4校 (0.4%)	2. 5校 (0.5%)	3. 123校(11.1%)	4. 487校(43.8%)	5. 493校(44.3%)
33. 体力がある	1. 2校 (0.2%)	2. 8校 (0.7%)	3. 96校 (8.6%)	4. 448校(40.3%)	5. 557校(50.1%)
34. 探究心が旺盛である	1. 6校 (0.5%)	2. 25校 (2.3%)	3. 415校(37.4%)	4. 495校(44.5%)	5. 170校(15.3%)

35. 発想力がある	.....		—	+	—	+	—	+	—	
1.	7校 (0.6%)	2.	54校 (4.9%)	3.	522校(47.0%)	4.	417校(37.6%)	5.	110校 (9.9%)	
36. 保護者が看護系の進路を強く望んでいる	.....		—	+	—	+	—	+	—	
1.	40校 (3.6%)	2.	135校(12.2%)	3.	593校(53.4%)	4.	267校(24.0%)	5.	76校 (6.8%)	
37. 目上の人の意図を敏感に察知できる	.....		—	+	—	+	—	+	—	
1.	7校 (0.6%)	2.	57校 (5.1%)	3.	504校(45.3%)	4.	437校(39.3%)	5.	107校 (9.6%)	
38. 幼いころから看護職に憧れている	.....		—	+	—	+	—	+	—	
1.	20校 (1.8%)	2.	72校 (6.5%)	3.	460校(41.3%)	4.	407校(36.6%)	5.	154校(13.8%)	
39. 要領が良く、てきぱきしている	.....		—	+	—	+	—	+	—	
1.	5校 (0.5%)	2.	20校 (1.8%)	3.	238校(21.4%)	4.	565校(50.9%)	5.	283校(25.5%)	
40. 臨機応変な判断力がある	.....		—	+	—	+	—	+	—	
1.	9校 (0.8%)	2.	12校 (1.1%)	3.	147校(13.2%)	4.	502校(45.1%)	5.	443校(39.8%)	

#### IV. 高校時代の学習履歴

a. 以下に示す教科・科目について、看護系大学や看護系専門学校を受験する生徒はどの程度勉強するでしょうか？**典型的なケース**について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 開講していない    2. 選択・履修しない    3. 履修するが受験勉強はしない    4. 受験勉強する

		1	2	3	4	その他(具体的に)						
(国語)	1. 国語(現代文) .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	4校 (0.4%)	2.	5校 (0.5%)	3.	154校(14.1%)	4.	933校(85.1%)				
	2. 国語(古典) .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	50校 (4.6%)	2.	116校(10.7%)	3.	518校(47.7%)	4.	401校(37.0%)				
(地歴)	1. 世界史 .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	23校 (2.2%)	2.	84校 (8.0%)	3.	802校(76.1%)	4.	145校(13.8%)				
	2. 日本史 .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	70校 (6.7%)	2.	151校(14.3%)	3.	665校(63.2%)	4.	167校(15.9%)				
	3. 地理 .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	127校(12.0%)	2.	158校(15.0%)	3.	570校(54.0%)	4.	201校(19.0%)				
(公民)	1. 現代社会 .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	51校 (4.8%)	2.	61校 (5.8%)	3.	795校(74.9%)	4.	154校(14.5%)				
	2. 倫理, 政治・経済 .....		—	+	—	+	—	+	—		(	)
	1.	169校(16.1%)	2.	218校(20.7%)	3.	532校(50.5%)	4.	134校(12.7%)				

(数学)	1. 数学Ⅰ・A	.....	— + — + —	(	)
	1.	2校 (0.2%)	2. 5校 (0.5%)	3. 130校(11.9%)	4. 952校(87.4%)
	2. 数学Ⅱ・B	.....	— + — + —	(	)
	1.	40校 (3.7%)	2. 75校 (6.9%)	3. 402校(37.1%)	4. 566校(52.3%)
	3. 数学Ⅲ・C (理系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	215校(20.3%)	2. 432校(40.8%)	3. 338校(31.9%)	4. 75校 (7.1%)
(理科)	1. 物理 (文系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	291校(27.8%)	2. 390校(37.2%)	3. 304校(29.0%)	4. 63校 (6.0%)
	2. 物理 (理系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	203校(19.4%)	2. 484校(46.1%)	3. 240校(22.9%)	4. 122校(11.6%)
	3. 化学 (文系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	132校(12.6%)	2. 131校(12.5%)	3. 421校(40.1%)	4. 366校(34.9%)
	4. 化学 (理系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	157校(14.9%)	2. 172校(16.3%)	3. 284校(26.9%)	4. 443校(42.0%)
	5. 生物 (文系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	46校 (4.3%)	2. 77校 (7.3%)	3. 271校(25.5%)	4. 667校(62.9%)
	6. 生物 (理系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	152校(14.3%)	2. 122校(11.4%)	3. 181校(17.0%)	4. 611校(57.3%)
	7. 地学 (文系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	636校(60.5%)	2. 245校(23.3%)	3. 138校(13.1%)	4. 33校 (3.1%)
	8. 地学 (理系範囲)	.....	— + — + —	(	)
	1.	709校(67.1%)	2. 242校(22.9%)	3. 89校 (8.4%)	4. 16校 (1.5%)
(外国語)	1. 英語	.....	— + — + —	(	)
	1.	7校 (0.6%)	2. 2校 (0.2%)	3. 154校(14.2%)	4. 920校(85.0%)
	2. 英語以外の外国語	.....	— + — + —	(	)
	1.	843校(79.7%)	2. 123校(11.6%)	3. 49校 (4.6%)	4. 43校 (4.1%)

- b. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒が十分に学んでいない教科・科目で、本来ならばしっかり学ばせておきたい教科・科目があれば、**いくつでも**挙げてください。

- c. 現在の入試制度はさておき、将来、看護職に就く生徒は高校時代には、本来、**理系**で学んでおくべきだと感じますか？**文系**で学んでおくべきだと感じますか？**あてはまるところに一つだけ**○を付けてください。

1. 理系	570校 (51.0%)
2. 文系	38校 (3.4%)
3. どちらとも言えない	464校 (41.5%)
4. その他	45校 (4.0%)

## V. その他

- a. 貴校では、生徒が志望している大学や専門学校のオープンキャンパスへの参加を促しますか？また、参加した場合、オープンキャンパスは生徒の受験先の決定にはどの程度のインパクトがありますか？カッコ内の選択肢に **一つだけ** ○をつけてください。

1. 参加を促さない	29校 (2.6%)
2. 参加を促す	1,072校 (97.4%)
1. 決め手となる	215校 (20.3%)
2. 参考になる	828校 (78.2%)
3. あまり関係ない	13校 (1.2%)
4. 全く無関係	3校 (0.3%)

- b. オープンキャンパスへの参加を促すとすれば、どのような目的ですか。それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 全く目的にならない | 2. あまり目的にならない | 3. どちらとも言えない |
| 4. 少しは目的になる  | 5. かなり目的になる   |              |

	1	2	3	4	5
1. 看護に関する見聞を広める .....		—+	—+	—+	—
1. 6校 (0.5%)	2. 29校 (2.6%)	3. 72校 (6.5%)	4. 420校(38.1%)	5. 575校(52.2%)	
2. 生徒の一般的な進学意識の向上 .....		—+	—+	—+	—
1. 7校 (0.6%)	2. 22校 (2.0%)	3. 110校(10.0%)	4. 466校(42.3%)	5. 498校(45.2%)	
3. 当該大学・学校への志望の意思の確認 .....		—+	—+	—+	—
1. 5校 (0.5%)	2. 9校 (0.8%)	3. 61校 (5.5%)	4. 369校(33.5%)	5. 658校(59.7%)	
4. 面接・志願理由書・小論文等の入試対策 .....		—+	—+	—+	—
1. 13校 (1.2%)	2. 37校 (3.4%)	3. 193校(17.5%)	4. 480校(43.6%)	5. 378校(34.3%)	
5. 環境・インフラ等の確認 .....		—+	—+	—+	—
1. 7校 (0.6%)	2. 42校 (3.8%)	3. 192校(17.4%)	4. 533校(48.4%)	5. 328校(29.8%)	
6. 大学や専門学校の教員とのコンタクト .....		—+	—+	—+	—
1. 21校 (1.9%)	2. 86校 (7.8%)	3. 345校(31.4%)	4. 484校(44.0%)	5. 163校(14.8%)	
7. AO入試のエントリー .....		—+	—+	—+	—
1. 128校(11.7%)	2. 154校(14.0%)	3. 366校(33.3%)	4. 301校(27.4%)	5. 150校(13.7%)	

8. 合格確約をもらう ..... | ———+———+———+——— |  
1. 438 校(40.2%) 2. 224 校(20.6%) 3. 334 校(30.7%) 4. 59 校 (5.4%) 5. 34 校 (3.1%)

c. ここまでご記入いただいた先生ご自身のことをお知らせください。

性別	1. 男性	818 名 (78.6%)
	2. 女性	223 名 (21.4%)
年齢	1. 20 歳代	20 名 (1.8%)
	2. 30 歳代	124 名(11.2%)
	3. 40 歳代	387 名(34.9%)
	4. 50 歳代	548 名(49.4%)
	5. 60 歳代以上	31 名 (2.8%)

最後に、このアンケートについて感じたことがあれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

## 平成 25 年度 看護系への進学を志望する高校生に関するアンケート

科学研究費基盤研究(B)「医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題 ―看護職志望者の適性と大学入試―  
研究代表者 倉元 直樹 (東北大学)

この調査は**高等学校の進路指導担当教員を対象としたもの**です。進路に詳しい先生が、現在の所属校の生徒に関して**ご自身のお考え**でお答えください。看護師等の医療技術者や医療科学者を養成する分野への進学を志す高校生、あるいは、進学する高校生がどのような意識で進路を決めるのか、また、どのような要因に配慮して進路指導が行われているのかを明らかにすることを目的としています。今後の入試や教育の改善に役立つ基礎資料として活用するため、是非、ご協力ください。**調査票は全部で 8 ページ**です。

結果は統計的に処理されますので、**学校名が公表されることはありません**。その他、ご迷惑をお掛けすることは一切ありませんので、率直にお答えください。なお、答えにくい質問にはお答えいただかなくとも結構です。

### I. 貴校について

- a. 貴校の学校名を記入してください。 \_\_\_\_\_
- b. 学年毎のクラス数をコース別に記入してください。文理分けがない場合は「その他」に一括して記入してください。中等教育学校の場合、高校相当の学年でお答えください。
- 1 年生 文系 \_\_\_\_\_ クラス 理系 \_\_\_\_\_ クラス その他(内訳 \_\_\_\_\_ )
- 2 年生 文系 \_\_\_\_\_ クラス 理系 \_\_\_\_\_ クラス その他(内訳 \_\_\_\_\_ )
- 3 年生 文系 \_\_\_\_\_ クラス 理系 \_\_\_\_\_ クラス その他(内訳 \_\_\_\_\_ )
- c. 学年、コース毎の男女別人数を記入してください。10 名単位の概数でも結構です。
- 1 年生 文系:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人 理系:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人 その他:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人
- 2 年生 文系:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人 理系:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人 その他:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人
- 3 年生 文系:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人 理系:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人 その他:男子 \_\_\_\_\_ 人 女子 \_\_\_\_\_ 人
- d. 進路に関する貴校の位置づけは以下のどれに近いでしょうか。**あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 生徒の多くが国公立大学を目指す進学校
  2. 生徒の多くが4年制大学を目指す進学校
  3. 生徒の多くが大学・専門学校を目指す進学校
  4. 進学志望・就職志望が混じる進路多様校
  5. 生徒の多くが進学を目指さない非進学校
- e. 最終的に他の分野に進む生徒も含め、貴校には**看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒**はいますか?  
**あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. ほとんどいない → **質問はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。**
  2. 例外的(毎年2~3名程度以下)
  3. コンスタントにいる(毎年 \_\_\_\_\_ 名程度)

### II. 進学先と入試

- a. **看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒**は、文系、理系のどちらが多いでしょうか。**あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. ほとんど理系
  2. どちらかと言えば理系
  3. どちらかと言えば文系
  4. ほとんど文系
  5. コース分けがない
  6. 文理で分類できない(具体的に \_\_\_\_\_ )

- b. **男子生徒**で看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒はいますか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. ほとんどいない
  2. 例外的（毎年2～3名程度以下）
  3. コンスタントにいる（毎年 名程度）
- c. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒が受験するのは主として大学ですか？ 専門学校ですか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 主として大学
  2. 主として専門学校
  3. 大学も専門学校も受験する
- d. 毎年、比較的多くの生徒が受験する看護系大学や看護系専門学校があるとすれば、どのようなところでしょうか。 **あてはまるところにいくつでも** ○を付けてください。可能であれば、具体的に名称を記入してください（複数回答可）。
1. 地元の大学
  2. 地元の専門学校
  3. 地元以外の大学
  4. 地元以外の専門学校
- 
- e. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒の学業成績は、貴校の中ではおしなべてどの程度の水準でしょうか？ **典型的なケース**について、 **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 最上位レベル
  2. 上位10～20%程度
  3. 平均より少し上
  4. 平均レベル
  5. 平均より少し下
  6. 下位10～20%程度
  7. 最下位レベル
- f. 多くの生徒が第一志望で受験する看護系大学や看護系専門学校の入試の区分はどれですか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 一般入試
  2. 推薦入試
  3. AO入試
  4. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
- g. 看護系大学や看護系専門学校への進学を志望する生徒が受験校を決める時期はいつ頃が多いですか？ **あてはまるところにいくつでも** ○を付けてください。
1. 高校入学前
  2. 高校1年
  3. 高校2年
  4. 高校3年の4～7月
  5. 高校3年の8月以降センター試験以前
  6. 高校3年のセンター試験以降
  7. 高校卒業後
  8. その他（\_\_\_\_\_）
- h. 看護系大学や看護系専門学校へ**実際に進学する生徒**は、看護系の進路が第1志望である場合が多いですか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 第1志望が多い
  2. 第2志望が多い
  3. 第3志望以下が多い
- i. **看護系以外の進路を第1志望**としながら、**実際には看護系大学や看護系専門学校へ進学する生徒**の場合、第1志望としていた進路には何か傾向がありますか？ そのような生徒が第1志望とすることが多い分野について、 **あてはまるところにいくつでも** ○を付けてください。
1. 医学
  2. 歯学
  3. 薬学
  4. 看護系以外の医療技術系（具体的に\_\_\_\_\_）
  5. 医歯薬系以外の理系分野（具体的に\_\_\_\_\_）
  6. 文系分野（具体的に\_\_\_\_\_）
  7. 専門学校における医療技術系以外の資格系分野（具体的に\_\_\_\_\_）
- j. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒の受験先の決定に際して最も影響力が大きいのは、下記のうちのどれですか？ **典型的なケース**について、 **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 保護者の意見
  2. 教員の意見
  3. 生徒本人の意見
  4. その他（\_\_\_\_\_）
- k. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒の家庭の保護者や親せきなどの身内には、医師や看護師など医療系の職種に就いている方が多いでしょうか？ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。
1. 医療系の家庭が多い
  2. どちらかと言えば医療系の家庭が多い
  3. どちらとも言えない
  4. どちらかと言えば医療系の家庭は少ない
  5. 医療系の家庭は少ない

III. 看護系への進学理由・適性

a. **看護系大学や看護系専門学校へ実際に進学した生徒**の場合、進学先への受験を決めた理由として、以下のような点はどの程度重要だと感じていたでしょうか？**典型的なケース**について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 全く重要だと感じていなかった      2. あまり重要だと感じていなかった      3. どちらとも言えない  
4. 少しは重要だと感じていた          5. かなり重要だと感じていた

	1	2	3	4	5	回答不能
1. 取得できる資格の種類が魅力的であること	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
2. 将来の仕事に興味・関心があること	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
3. 専門で学ぶ内容への興味・関心があること	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
4. 将来の職業がはっきりしているかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
5. 将来、就職できそうかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
6. 将来、見込まれる収入の金額が十分かどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
7. 将来、暮らしたいと思っている地域で暮らせそうかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
8. 大学や学校がある地域や場所が魅力的かどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
9. 楽しい学生生活が送れそうかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
10. 所属する専攻(学科)の教育内容	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
11. 所属する専攻(学科)の教員の研究内容	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
12. 大学や学校の評判、社会的評価	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
13. 施設・設備が充実しているかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
14. 学費の安さ	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
15. 生活費の安さ	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
16. 自宅から通えるかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
17. 合格可能性の高さ	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
18. 入試科目の内容	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
19. 入試の地方会場が自宅近くに設けられていたかどうか	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>
20. 他に受験したところとの併願しやすさ	—+—+—+—+—					<input type="checkbox"/>

b. **貴校から看護系大学や看護系専門学校へ実際に進学した生徒**のうち、**進学後が最も心配だった生徒一人**を思い浮かべてください。その生徒が進学先で不適応を起こすとすれば、具体的にどのようなことが問題になる可能性が高いかと思っていましたか？ それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 全く心配していなかった      2. あまり心配していなかった      3. どちらとも言えない  
4. 少しは心配していた          5. かなり心配していた

	1	2	3	4	5
1. 病人の立場で考えられないために実習先で問題を起こす	—+—+—+—+—				
2. 薬の量などの計算や見積もりができない	—+—+—+—+—				
3. 時間を守るなど、基本的な生活習慣が確立できない	—+—+—+—+—				
4. 大学や専門学校の友人関係で問題を起こす	—+—+—+—+—				
5. 多様な症状やカルテの記述から患者の状態が見抜けない	—+—+—+—+—				
6. 聞く力が不足しており、口頭での指示が理解できない	—+—+—+—+—				
7. 臨機応変な予測力、対応力に欠ける	—+—+—+—+—				
8. 基礎学力の不足で授業についていけない	—+—+—+—+—				
9. 経済状況が苦しく、学費が続かない	—+—+—+—+—				
10. 集団行動ができない	—+—+—+—+—				
11. 不本意入学のため、学習意欲がわからない	—+—+—+—+—				
12. 過度の思い込みのため、現実が本人の期待と大きく異なる	—+—+—+—+—				
13. 保護者が学校に過度に干渉する	—+—+—+—+—				

c. 前ページの質問で、思い浮かべた**最も心配だった生徒**は、どのようなプロフィールを持っていましたか？  
以下の各項目について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

- |                   |           |            |           |                                |
|-------------------|-----------|------------|-----------|--------------------------------|
| 性別                | 1. 男子     | 2. 女子      |           |                                |
| 所属コース             | 1. 理系     | 2. 文系      | 3. その他    |                                |
| 進学先               | 1. 国立大学   | 2. 公立大学    | 3. 私立大学   | 4. 専門学校                        |
| 進学後の通学形態          | 1. 自宅生    | 2. 自宅外生    |           |                                |
| 成績（看護系への進学者としては、） | 1. 上位     | 2. 中位      | 3. 下位     |                                |
| 進学した入試区分          | 1. 一般入試   | 2. 推薦入試    | 3. AO入試   | 4. その他（                      ） |
| 志望順位（看護系への進学は）    | 1. 第1志望   | 2. 第2志望    | 3. 第3志望以下 |                                |
| 進路決定の実質的主体        | 1. 保護者    | 2. 教員      | 3. 生徒本人   | 4. その他（                      ） |
| 家庭背景              | 1. 医療関係者  | 2. 医療関係者以外 |           |                                |
| 家庭の経済状況           | 1. 困窮していた | 2. 問題なかった  |           |                                |

d. 一般的に、生徒に看護系大学や看護系専門学校への進学を勧めるとすれば、どのような理由が考えられますか？それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 全く理由にならない | 2. あまり理由にならない | 3. どちらとも言えない |
| 4. 少しは理由になる  | 5. 重要な理由になる   |              |

	1	2	3	4	5	回答不能
1. 将来、経済的に安定した生活ができること .....	— + — + — + —					□
2. 職種が時代や流行に左右されないこと .....	— + — + — + —					□
3. 女性が経済的に自立できること .....	— + — + — + —					□
4. 女性が良き伴侶を見つけられること .....	— + — + — + —					□
5. 職場で男女差別がないこと .....	— + — + — + —					□
6. 人の命を救うことができること .....	— + — + — + —					□
7. 固い資格であること .....	— + — + — + —					□
8. 給料が高いこと .....	— + — + — + —					□
9. 自律的な仕事であること .....	— + — + — + —					□
10. 社会に貢献できること .....	— + — + — + —					□
11. 取得困難な資格であること .....	— + — + — + —					□
12. 女性中心の職場であること .....	— + — + — + —					□
13. 将来、長く勤められること .....	— + — + — + —					□
14. 将来的に発展性があること .....	— + — + — + —					□
15. 専門性が高いこと .....	— + — + — + —					□
16. 他人に喜ばれる仕事であること .....	— + — + — + —					□
17. 地元就職があること .....	— + — + — + —					□
18. 保護者や親せきが喜ぶ職種であること .....	— + — + — + —					□
19. 学費が安いこと .....	— + — + — + —					□
20. 確実に合格できること .....	— + — + — + —					□
21. 入試で得意科目を生かせること .....	— + — + — + —					□
22. 自宅から通えること .....	— + — + — + —					□
23. 入試の地方会場が近くに設けられること .....	— + — + — + —					□

e. 看護系大学や看護系専門学校に進学する生徒が看護師などの看護専門職に抱くイメージは以下のうちのどの  
 ようなものでしょうか？**典型的なケース**について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けて  
 ください。

1. 全くそう思っていない      2. あまりそう思っていない      3. どちらとも言えない  
 4. 少しはそう思っている      5. かなりそう思っている

	1	2	3	4	5	回答不能
1. 経済的に安定している	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
2. 時代や流行に左右されない	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
3. 女性が経済的に自立できる	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
4. 女性が良き伴侶を見つけられる	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
5. 職場で男女差別がない	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
6. 人の命を救うことができる	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
7. 固い資格である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
8. 給料が高い	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
9. 自律的な仕事である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
10. 社会に貢献できる	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
11. 取得困難な資格である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
12. 女性中心の職場である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
13. 将来、長く勤められる	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
14. 将来的に発展性がある	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
15. 専門性が高い	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
16. 他人に喜ばれる仕事である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
17. 地元に就職がある	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
18. 保護者や親せきが喜ぶ職種である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
19. 責任が重い仕事である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
20. 対人能力が問われる	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
21. 3K労働（きつい・きたない・きけん）である	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
22. 夜勤がある	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>
23. 残業が多い	— + — + — + —					<input type="checkbox"/>

f. 以下のうち、他分野の進路と比較して、どのような生徒が特に看護系大学や看護系専門学校の進学へ向いていると感じますか？以下に挙げた特性について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 全く向いていると思わない      2. あまり向いていると思わない      3. どちらとも言えない  
 4. 少しは向いていると思う      5. かなり向いていると思う

	1	2	3	4	5
1. 家庭に学費を賄う経済力がある	—	+	—	+	—
2. 保護者が医療関連分野への関心が強い	—	+	—	+	—
3. コミュニケーション能力が高い	—	+	—	+	—
4. 集中力がある	—	+	—	+	—
5. 保護者が医師で医療現場の実情を知っている	—	+	—	+	—
6. 保護者が看護師で医療現場の実情を知っている	—	+	—	+	—
7. リーダーシップがある	—	+	—	+	—
8. 愛想が良い	—	+	—	+	—
9. 何事にも忍耐強い	—	+	—	+	—
10. 学力的に高い水準に達している	—	+	—	+	—
11. 気持ちが優しい	—	+	—	+	—
12. 規則正しい生活ができる	—	+	—	+	—
13. 記憶力がすぐれている	—	+	—	+	—
14. 吸収力がある	—	+	—	+	—
15. 協調性がある	—	+	—	+	—
16. 苦勞をいとわない	—	+	—	+	—
17. 計画性がある	—	+	—	+	—
18. 堅実でミスが少ない	—	+	—	+	—
19. 口が堅い	—	+	—	+	—
20. 向上心がある	—	+	—	+	—
21. 自発的に行動できる	—	+	—	+	—
22. 自分の興味をとことん追求できる	—	+	—	+	—
23. 手先が器用	—	+	—	+	—
24. 従順に指示に従うことができる	—	+	—	+	—
25. 柔軟性がある	—	+	—	+	—
26. 情緒が安定している	—	+	—	+	—
27. 身近に医療関係者がいて医療現場の実情を知っている	—	+	—	+	—
28. 正義感が強い	—	+	—	+	—
29. 誠実である	—	+	—	+	—
30. 責任感がある	—	+	—	+	—
31. 他人の役に立つ仕事をしたいと思っている	—	+	—	+	—
32. 他人の話を辛抱強く聞くことができる	—	+	—	+	—
33. 体力がある	—	+	—	+	—
34. 探究心が旺盛である	—	+	—	+	—
35. 発想力がある	—	+	—	+	—
36. 保護者が看護系の進路を強く望んでいる	—	+	—	+	—
37. 目上の人の意図を敏感に察知できる	—	+	—	+	—
38. 幼いころから看護職に憧れている	—	+	—	+	—
39. 要領が良く、てきぱきしている	—	+	—	+	—
40. 臨機応変な判断力がある	—	+	—	+	—

IV. 高校時代の学習履歴

a. 以下に示す教科・科目について、看護系大学や看護系専門学校を受験する生徒はどの程度勉強するでしょうか？**典型的なケース**について、それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 開講していない    2. 選択・履修しない    3. 履修するが受験勉強はしない    4. 受験勉強する

		1	2	3	4	その他（具体的に）
(国語)	1. 国語（現代文）	—	+	—	—	( )
	2. 国語（古典）	—	+	—	—	( )
(地歴)	1. 世界史	—	+	—	—	( )
	2. 日本史	—	+	—	—	( )
	3. 地理	—	+	—	—	( )
(公民)	1. 現代社会	—	+	—	—	( )
	2. 倫理, 政治・経済	—	+	—	—	( )
(数学)	1. 数学Ⅰ・A	—	+	—	—	( )
	2. 数学Ⅱ・B	—	+	—	—	( )
	3. 数学Ⅲ・C（理系範囲）	—	+	—	—	( )
(理科)	1. 物理（文系範囲）	—	+	—	—	( )
	2. 物理（理系範囲）	—	+	—	—	( )
	3. 化学（文系範囲）	—	+	—	—	( )
	4. 化学（理系範囲）	—	+	—	—	( )
	5. 生物（文系範囲）	—	+	—	—	( )
	6. 生物（理系範囲）	—	+	—	—	( )
	7. 地学（文系範囲）	—	+	—	—	( )
	8. 地学（理系範囲）	—	+	—	—	( )
(外国語)	1. 英語	—	+	—	—	( )
	2. 英語以外の外国語	—	+	—	—	( )

b. 看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒が十分に学んでいない教科・科目で、本来ならばしっかり学ばせておきたい教科・科目があれば、**いくつでも**挙げてください。

---

c. 現在の入試制度はさておき、将来、看護職に就く生徒は高校時代には、本来、**理系**で学んでおくべきだと感じますか？**文系**で学んでおくべきだと感じますか？**あてはまるところに一つだけ**○を付けてください。

1. 理系    2. 文系    3. どちらとも言えない    4. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

V. その他

a. 貴校では、生徒が志望している大学や専門学校のオープンキャンパスへの参加を促しますか？また、参加した場合、オープンキャンパスは生徒の受験先の決定にはどの程度のインパクトがありますか？カッコ内の選択肢に **一つだけ** ○をつけてください。

1. 参加を促さない  
 2. 参加を促す (1. 決め手となる 2. 参考になる 3. あまり関係ない 4. 全く無関係)

b. オープンキャンパスへの参加を促すとすれば、どのような目的ですか。それぞれ **あてはまるところに一つだけ** ○を付けてください。

1. 全く目的にならない                      2. あまり目的にならない                      3. どちらとも言えない  
 4. 少しは目的になる                              5. かなり目的になる

	1	2	3	4	5
1. 看護に関する見聞を広める .....	— + — + — + —				
2. 生徒の一般的な進学意識の向上 .....	— + — + — + —				
3. 当該大学・学校への志望の意思の確認 .....	— + — + — + —				
4. 面接・志願理由書・小論文等の入試対策 .....	— + — + — + —				
5. 環境・インフラ等の確認 .....	— + — + — + —				
6. 大学や専門学校の教員とのコンタクト .....	— + — + — + —				
7. AO 入試のエントリー .....	— + — + — + —				
8. 合格確約をもらう .....	— + — + — + —				

c. ここまでご記入いただいた先生ご自身のことをお知らせください。

- 性別      1. 男性                      2. 女性  
 年齢      1. 20 歳代                      2. 30 歳代                      3. 40 歳代                      4. 50 歳代                      5. 60 歳代以上

最後に、このアンケートについて感じたことがあれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

## 第2章 看護系志望者の適性と大学入試

西川浩昭（静岡県立大学）・倉元直樹（東北大学）・  
奥裕美（聖路加国際大学）・小山田信子（東北大学）

本章は、日本行動計量学会第42回大会（会場：東北大学川内北キャンパス講義棟C棟，東北大学百周年記念会館・萩ホール，2014年9月2日〔火〕～5日〔金〕）において，9月3日（水）13:00～15:00に第1会場「C101教室：特別セッション オーガナイザー・司会者：西川浩昭（静岡県立大学）」の中で発表された4件の研究発表における抄録集原稿4編のうちの3編を再録したものである。なお，4番目の発表「歴史に学ぶ看護職教育のカリキュラムポリシー」は，第I部第7章「選抜試験・カリキュラムの遡及的分析」の一部として本報告書に採録されている。

また，第2節「高校生における『看護系人気』の背景事情」は，本研究プロジェクトの高校調査（質問紙）においてデータクリーニングを完全に終える前の集計速報値を用いたものであり，第1章で記載された内容と数値がやや異なる。

### 第1節 企画主旨

西川浩昭（静岡県立大学）

18歳人口が減少している中、看護系大学の志望者は増加し、それに伴って看護系大学の数も増加している。その様な状況下で、各大学は少しでも優秀な学生を得ようと努力している。本セッションでは、看護系大学への進学の実現状況を明らかにすると共に、過去の進学状況を調べることにより、看護に適した学生を入学させる方法を検討する。

## 第2節 看護学部新入生の進路決定について

西川浩昭（静岡県立大学）

### 1. はじめに

学問領域の多様化に伴い、様々な学部が設けられている。現存する様々な学部のうち、大半の学部は、在籍している学部とは無関係な分野でさえも、不利になることを覚悟すれば、就職の際に自分の希望する分野を選び直すことが出来るが、医療系の学部は入学した時点で将来の仕事が決まっているという特徴があり、進路を変更する場合には退学して、別の学部に入り直さなければならないという欠点がある。にもかかわらず、近年の就職難の影響から医療系の人気は強く、中でも難易度があまり高くなく、売り手市場でもある看護系の大学の人気は高い状況を維持している。しかし、看護という仕事は、人を相手にするだけでなく、人命に関わるため安易な考えで選択するものではないことは言うまでもない。そうした点を鑑み、本研究では看護学部に入学者を対象として、看護学部進学を考えた時期、進学を決めた時点などの進路決定に関する調査を実施しているためその結果を報告する。さらに、今回、募集定員の増加が行われたので、そのことに伴う、意識、進路決定過程の変化についても検討したので併せて報告する。

### 2. 対象と方法

対象は、平成 23 年から 26 年に S 大学看護学部に入学者で、配布回収法により実施した質問紙調査に参加した者である。なお、社会人入学、編入学により入学した者は除いた。調査は無記名で行い、回答の有無およびその内容が不利益を与えないことを説明し、調査票の提出を以て同意が得られたもの

とした。

年次別の対象数は表 1 に示す通りである。

表1 調査年次別対象数

入学年次	23年	24年	25年	26年
回答者数	57	54	55	118

### 3. 結果と考察

S 大学看護学部進学を考え始めた時期についての調査結果を表 2 に示した。「高校 1 年」が最も多く、それに「高校 2 年」が続き、併せて過半数の者が高校 2 年までに考え始めていることが判った。その反面、「大学入試センター試験後」という者も 25 年度 9.1%、26 年度には 14.4%存在し、定員増加に伴い、進路決定を遅くする傾向が見られている。

S 大学看護学部進学を決めた時期についての調査結果を表 3 に示した。25 年までは、「高校 3 年の 1 学期」という回答が最も多くなっていたが、26 年度では「大学入試センター試験後」という回答が最も多くなり、大学入試センター試験の出来具合が大きく影響していることが明らかにされた。他方、「高校 1 年次」という者も常に 15%程度見られ、初志貫徹型の存在が明らかになった。

S 大学看護学部受験を決める上で影響を受けた人についての調査結果を表 4 に示した。すべての年次で「家族・親戚」が最も多く、「高校の先生」は 30%程度であった。また、常に 4 分

の 1 程度は「いない」と回答していた。

表 2 S 大学看護学部受験を考え始めた時期

	高校 1 年	高校 2 年	高 3・1 学期	高 3 夏	高 3・2 学期	センター前	センター後	その他
23 年	24	20	3	2	3	1	2	2
	42.1%	35.1%	5.3%	3.5%	5.3%	1.8%	3.5%	3.5%
24 年	23	13	4	7	1	1	3	2
	42.6%	24.1%	7.4%	13.0%	1.9%	1.9%	5.6%	3.7%
25 年	25	12	3	6	2	1	5	1
	45.5%	21.8%	5.5%	10.9%	3.6%	1.8%	9.1%	1.8%
26 年	44	21	14	10	6	4	17	2
	37.3%	17.8%	11.9%	8.5%	5.1%	3.4%	14.4%	1.7%

表 3 S 大学看護学部受験を決めた時期

	高校 1 年	高校 2 年	高 3・1 学期	高 3 夏	高 3・2 学期	センター前	センター後	その他
23 年	10	11	11	5	8	1	9	2
	17.5%	19.3%	19.3%	8.8%	14.0%	1.8%	15.8%	3.5%
24 年	7	5	12	7	3	3	15	2
	13.0%	9.3%	22.2%	13.0%	5.6%	5.6%	27.8%	3.7%
25 年	7	9	13	7	6	1	11	1
	12.7%	16.4%	23.6%	12.7%	10.9%	1.8%	20.0%	1.8%
26 年	18	10	20	11	10	7	40	2
	15.3%	8.5%	16.9%	9.3%	8.5%	5.9%	33.9%	1.7%

表 4 S 大学看護学部受験を決める上で、影響を受けた人

	家族・親戚	友人・先輩	高校の先生	いない	その他
23 年	35	13	18	13	1
	61.4%	22.8%	31.6%	22.8%	1.8%
24 年	27	15	15	18	0
	50.0%	27.8%	27.8%	33.3%	0.0%
25 年	28	15	17	15	0
	50.9%	27.3%	30.9%	27.3%	0.0%
26 年	55	23	36	32	4
	46.6%	19.5%	30.5%	27.1%	3.4%

### 第3節 高校生における「看護系人気」の背景事情

——アドミッションポリシーと学習履歴の断層——

倉元直樹（東北大学）

#### 1 はじめに

わが国における医療系の養成課程の制度設計には職種によって大きな特徴の違いがある。例えば、医師免許は大学の医学部医学科6年間の課程を経て国家試験に合格することによって得られるが、それ以外のバイパスルートはない。それに対して、看護師、保健師、助産師といった看護専門職の養成には、極めて複雑な複線経路が取られている。井本（2009）は「近代的な医療制度の創始以来、看護師の供給は需要者である病院や医師によってなされてきた」と述べている。しかし、この伝統的な看護師養成の考え方は急速に変わりつつある。具体的には日本社会の高学歴化の中で、かつては希少だった四年制大学による看護師養成が、近年、大きな割合を占めるようになってきたのである。このことを看護師養成の「四大化」と呼ぶこととする。四大化の大きなきっかけとなったのが1992（平成4）年に制定された「看護師等の人材確保の促進に関する法律」である。看護系大学は同法の制定直後から急増した。当時はわずか14校を数えるのみだった看護系大学は、2011（平成23）年時点では200校に達している（倉元・吉沢・小山田，2012）。

四大化は必然的に看護系志望者の進路選択を大学入試の枠組みに組み入れることとなった。ところが、現在の後期中等教育と大学入試の制度に照らし合わせて鑑みたとき、看護系志望者の進路選択には問題が山積している。現在の普通高校のカリキュラムは文系と理系の履修内容の乖離が大きい（例えば、荒井，2012）が、看護系大学の入試は多種多様である。2008（平成20）年度までに開設された167大学に対する調査<sup>1</sup>によれば、最も募集人員の多い区分の入試科目について「理系型」が12大学、「文系型」が45大学、「文系+理系」が12大学、「個別学科なし（理系）」が12大学、「個別学科なし（文系）」が20大学、分類不能が4大学と、大学によって千差万別の入試科目を課していることが分かった（金澤・倉元・小山田・吉沢，2010）。さらに、入試形態と大学の属性に関する多重対応分析の結果からは「どのような入試科目を課すのかということについて、大学の属性や学力レベルに応じて、棲み分けが生じている（金澤・倉元・小山田・吉沢，2011）」状況であることも見出された。看護系専門職を目指す高校生は、必然的に高校卒業時点での自分の学力の将来予測を勘案しながら志望校を定め、その上で履修科目やコース選択を行わなければならないことになっている。

一方で、昨今の厳しい経済状況を反映して、いったん別の道を選択したのちに看護系の職を目指す者もあり、その割合は年々増大する傾向にあるという事実もある。中学校卒業を基礎資格とする准看護師養成所においては、短大以上の学歴を持つ入学者の割合が1999（平成11）年度では9.8%であったが、2008（平成20）年度には15.3%を占めるに至っている。また、3年制の看護師養成専門学校でも10.9%を占めているが、看護系大学においては1.3%程度に止まっ

<sup>1</sup> 入学後に学科が分かれる東京大学を除く。

ている（以上，日本看護協会出版会，2009より算出）。したがって，少なくとも現状では，大学入試という観点から志願者の学習履歴を分析するには高大接続の観点が最も重要となることには疑いない。

## 2 問題と目的

本研究は，高校の進路指導担当教諭に対する質問紙調査と看護系大学，および，専門学校の学生に対する質問紙調査から，看護系の進路を志望者の学習履歴や適性，動機等についての特徴の抽出を試みる。本稿では前者を「調査1」，後者を「調査2」と呼ぶ。なお，調査時期としては「調査2」の方が先に実施されており，既に一部の調査結果に基づく発表も行われている（倉元・小山田・吉沢，2012；倉元・鈴木・小山田・小松・吉沢，2012）。

## 3 方法

### 3.1 調査1

「調査1」では特別支援学校等を除く全国5,028の高等学校，中等教育学校の中から無作為に抽出された2,000校を調査対象とした。2014（平成26）年1月中旬～下旬に調査票を送付し，各校の進路指導担当教諭1名ずつに回答を求めたものである。調査票は8ページから成るが，本稿で分析の対象としたのは冒頭の1ページ目の質問項目「最終的に他の分野に進む生徒も含め，貴校には看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒はいますか？」という1項目のみである。

調査票の回収は郵送方式で行われた。2014（平成26）年6月9日の時点で1,318校から有効回答が得られた（回収率65.9%）。

### 3.2 調査2

「調査2」では，看護系国公立11大学，専門学校7校の学生に「進路決定に関するアンケート」を実施した。その結果，2,080名の調査対象者から回答を得た（回収率72.5%）。調査時期は2010（平成22）年7月～2012（平成24）年4月である。本調査は東北大学医学系研究科および高等教育開発推進センター倫理審査委員会の承認の下，文書または口頭で趣旨を説明して匿名を条件に実施し，回答をもって調査への同意とした。回収には郵送や回収箱を用いており，対象者の自由意思を尊重する手続きが担保された。

## 4 結果

### 4.1 調査1

回答を寄せた1,318校のうち，看護系の志望者が「ほとんどいない」という選択肢を選んだ学校はわずかに177校（13.4%）に止まった。逆に言えば，専門高校，通信制高校や小規模校も含め，高等学校の86.6%は看護系の志望者を抱えていることになる。

### 4.2 調査2

#### 4.2.1 学習履歴

高校時代に学んでいたコースは、「普通科（理系）」が 60.5%、「理数科」が 2.6%、「普通科（文系）」が 27.4%、「総合学科」が 4.5%、「その他」が 5.0%であった。設置者別にみると、理系出身者の比率は国立大学では 90.5%に達していたのに対し、公立大学では 58.1%、私立大学では 52.3%、看護学校では 58.5%と、国立かそれ以外かで大きく比率が違っていた。

#### 4.4.2 文理分けと志願時期

コースが「文系」「理系」に分かれたのは、「高校入学時」が 5.9%、「高校 2 年生」が 76.9%、「高校 3 年生」が 10.0%、「その他」が 7.2%であった。文理に分かれた時点で大学入試に関する知識がなかった者が 52.2%であった。文理分け以前に現在の所属への志願を決めた者は 29.3%に過ぎなかった。

#### 4.4.3 受験勉強した科目<sup>2</sup>

受験勉強した科目は経験者が多い順に「数学 I」87.8%、「英語 I」87.8%、「国語（現代文）」86.2%、「数学 A」86.0%、「英語 II」82.5% の順となっていて、ここまですべて 8 割を超える。以下、2/3 以上が受験勉強を経験しているのは「生物 I」71.3%、「国語（古典）」70.9%、「数学 II」70.5%、「数学 B」68.2%、「リーディング」67.4%となっており、理系範囲の理科は入っていない（図 1 参照）。

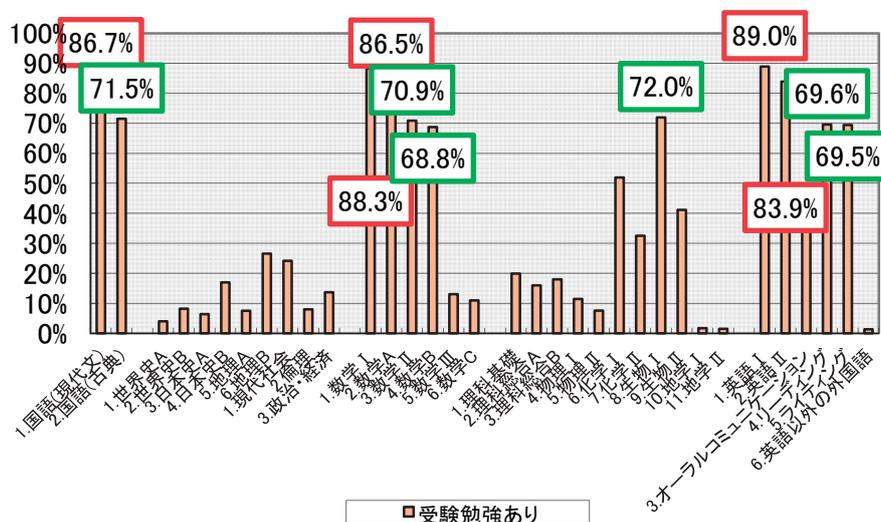


図 1. 受験勉強の経験がある者の比率

#### 4.4.4 看護は理系か文系か

看護は本質的に「理系」と感じる者が 49.4%、「文系」と感じる者が 8.5%、「どちらとも言

<sup>2</sup> 科目名は 1999 (平成 11) 年度告示, 2003 (平成 15) 年度実施, すなわち, いわゆる「旧課程」に基づく。

えない」と感じる者が 42.1%であった。

#### 4.4.5 志願への影響力

受験先の決定に際して最も影響力が大きかったのは「親の意見」が 21.1%、「先生の意見」が 12.3%、「自分の意見」が 63.2%、「その他」が 3.5%であった。

### 5. まとめと課題

調査 2 の結果から、学習履歴の面では高校時代は回答者の 2/3 が理系で学んでいたのに対し、「理系型入試」を課している大学は 12%のみである。この時点で高校時代に何を求めるかというアドミッションポリシーの体現としての入試科目との間に齟齬がある。

さらに、調査 1 の結果からは高校生の進学先としての看護系の人気は、現在、極めて高いと言える。その動機の解明が今後の課題である。就職難のイメージの下、手堅い資格としての魅力が看護系人気を支えているのではないかと、という推測が成り立つが、学生本人は大半が「自分の意見」としてそれを決めたと考えている。今後、高校教員の見方との整合性を分析してみたい。

#### 文献

荒井克弘 (2012). 「学習指導要領 vs. 大学入試—その葛藤の軌跡といま」東北大学高等教育開発推進センター編『高等学校学習指導要領 VS 大学入試』東北大学出版会, 7-37.

井本佳宏 (2009). 「看護師 —その自給自足的養成体制のゆくえ—」橋本鉦市編著『専門職養成の日本的構造』玉川大学出版部, 84-103.

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子 (2010). 看護系大学の量的拡大に伴う大学入試設計の問題 —実情把握のための基礎分析—, 東北大学高等教育開発推進センター紀要, 第 5 号, 15-27.

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子 (2011). 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題, 大学入試研究ジャーナル, No.21, 49-57.

倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子 (2012). 看護系大学生の進路選択と履修経験に関する予備調査, 東北大学高等教育開発推進センター紀要, 第 7 号, 69-76.

倉元直樹・鈴木幸子・小山田信子・小松恵・吉沢豊予子 (2012). 看護系学生の知的基盤——大規模学生調査から見えてくるもの——, 日本看護学教育学会誌日本看護学教育学会第 22 回学術集会講演集, 243.

日本看護教育出版会 (2009). 平成 20 年看護関係統計資料集, 日本看護協会出版会

#### 付記

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) 「医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題 —看護職志望者の適性と大学入試—(研究代表者 倉元直樹)」に基づく研究成果の一部である。

## 第4節 大卒・社会人経験者に対する看護基礎教育を考える

奥裕美（聖路加国際大学）

### 1 はじめに

医師・歯科医師や薬剤師とは異なり、将来の看護職を育成する教育課程は様々である。看護職となるものが受けるべき教育を規定する、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における看護師学校養成所としては、看護系大学・短大、看護師養成所（3年課程）、高等学校5年一貫課程があるほか、准看護師養成所として、2年課程の准看護師養成所、高等学校衛生看護科があり、准看護師免許の取得後に看護師となることを目指す進学コースも設置されている。

看護師養成課程、准看護師養成課程への主な入学者は、高等学校や中学校を卒業してすぐに入学するいわゆる新卒者である。しかし、中にはいったん他の学問を学び、看護以外の職業に就くなどしたのちに看護職となることを希望して看護師・准看護師養成課程に入学してくるものもある。2010年度、看護師学校養成所（3年課程）に入学した学生の10.2%が大卒者、短期大学を卒業した経験をもつものと合わせるとその数は14.4%であり、この割合は増加傾向にある。また、特筆すべきは准看護師養成課程への入学者であり、同じく2010年度の入学者に占める大卒者の割合は9.0%、短大卒と合わせると18.9%となる（日本看護協会出版会、2012）。なお、准看護師養成課程への入学要件は中学校卒業以上である。

これには社会経済の低迷や、少子高齢社会における看護職に対する需要の高まりも影響していると考えられ、看護師・准看護師養成課程における大学・短大卒業生、社会人経験者の割合は今後も増加する可能性がある。社会保障と税の一体改革においては、医療介護サービス提供体制の強化を図るためのマンパワーの増強として、2025年に約200万人（現状150万人に対し50万人の増）の看護職員の確保が必要との試算が示されている。また、2013年6月以降、社会保障制度改革国民会議、社会保障審議会医療部会等の論議を踏まえ、新たな看護職員の確保対策の一つとして、大卒社会人経験者等を対象とした「新規養成促進」が提案されている。

看護学以外の学問的基盤や経験を持つ人材が看護職を志望するようになることは、幅広い人間性が求められる看護学の分野での活躍が期待されるとともに、彼らが持っている個性を生かすことは、性別・人種・キャリアなど様々な背景と価値観を持つ人々の特徴を最大限に生かすことにより組織が発展することができるというダイバシティ・マネジメントの視点から見ても、大変有効である。さらに、彼らの多くが成人学習者であることを踏まえると、教育する側にもその特性を踏まえた教授方法を選択し教育を行うことが望まれている。しかしわが国において看護基礎教育機関に通う学士号を持った学生や、社会人経験を持った学生の特性や教育実態についての報告は少なく、どのような教育体制を整えることが彼らの能力を看護において生かすことにつながるのかについて、十分に検討することができていない。また、多様な背景を持つ彼らの適性を判断する看護基礎教育機関への入学要件および入学試験のありかたについても同様に検討が必要である。

## 2 目的

看護以外の分野での学士号を持った上で、看護基礎教育を受ける学生の特徴と彼らの基礎教育機関での体験について基礎的情報を得ることを目的として研究を行った。なお本研究は聖路加看護大学博士論文として実施したものであり、研究の一部は学会等で発表している(奥, 2013)。

## 3 方法

「看護学生の看護基礎教育機関選択に関する調査用紙を用いて、アンケート調査を実施した。調査用紙は無記名であり、①あなたについて(属性)、②現在通う教育機関を選択した経緯について、③看護学を学ぶという体験について、④看護に対する考えとキャリアについての4部で構成した。本稿ではこのうち①および、②の一部の分析結果を報告する。

調査の対象は、日本国内の看護系大学、看護師養成所(3年課程)、准看護師養成所(2年課程)に在学中の看護学生とした。学士号を持つ学生と、それ以外の看護学生の双方からデータを収集し、両者のデータを比較することによって学士号を持つ看護学生に特徴的な傾向を探索した。

調査用紙は匿名であり、文書にて研究の主旨を説明し、調査用紙の回収をもって調査への同意とした。回収には郵送法を用い、対象者の自由意思の尊重を保証した。聖路加看護大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号12-001)。

## 4 結果

全国の124の看護基礎教育機関(大学40, 看護師養成所46, 准看護師養成所38)に研究への参加を依頼し、承諾の得られた39校(大学13, 看護師養成所16, 准看護師養成所10)の代表者に対し、1255通の調査票を送付し、606通を回収した(回収率48.3%)。うち576通を有効回答として分析を行った。

### 4.1 研究対象者の属性

#### 4.1.1 性別

男性86人(14.9%)、女性479人(83.2%)であった。学士号の有無別に比較すると、「学士号あり群」では男子学生の割合が20.4%(56人)であり、「学士号なし群」における男子学生の割合(10.0%)に比べて高かった。教育機関別では、准看護師養成所において男子学生の割合が37.0%と特に高かった。

#### 4.1.2 年齢

20 歳代が最も多く 264 人 (45.8%), 次いで 30 歳代 174 人 (30.2%), 10 歳代が 93 人 (16.1%) であった。50 歳代以上の者は 1 名であった。学士号の有無別では, 双方とも最も多いのは 20 歳代であるが (「学士号あり群」 48.0%, 「学士号なし群」 43.9%) 「学士号あり群」では次いで 30 歳代が多く 43.3% (21 人), 「学士号なし群」では 10 歳代 (30.9%, 93 人) が多かった。最も年齢が高かったのは, 「学士号あり群」の 50 歳代以上 (1 名, 0.4%) であった。「学士号なし群」でも, 30 歳代, 40 歳代のものが 23.9% (72 人) あった。

#### 4.1.3 社会人経験の有無

社会人 (就業) 経験があるものは 334 人 (58.0%), ないものは 240 人 (41.7%) で, 働いたことのある者の方が多かった。「学士号あり群」では働いたことがあるものが 78.9% (217 人) を占めた。「学士号なし群」でも 38.9% (117 人) が働いたことがあった。教育機関別にみると, 准看護師養成所において, 働いたことがあるものの割合が多かった。

#### 4.1.4 学士号を持つ学生の大学での専攻領域

「学士号あり群」に対して, 大学での専攻領域について回答を求めた。元も多かったのは社会科学 95 人 (34.5%), 次に人文科学 86 人 (31.3%) であった。看護学も含まれる保健領域を専攻していたものは 3 人 (1.1%) であった。

### 4.2 現在通う教育機関を選択した経緯

#### 4.2.1 看護を学ぶことを決めた時期

「学士号あり群」では 1 年前以内と回答した者が最も多く, 45.5% (125 人) を占めた。次いで 1 年前が 72 人 (26.2%), 2~3 年前が 56 人 (20.4%) であった。5 年以上前というものも 12 人 (4.4%) あった。学士号の有無によって看護を学ぶことを決めてから受験までの期間の長さに違いがあるかどうかを比較したところ, 「学士号なし群」においても「1 年前以内」の回答が最も多かった (80 人, 26.6%)。ただしその傾向は「学士号あり群」の方が顕著であり, 統計的にも有意 ( $t(559) = 7.20, p = 0.00$ ) な差があった。

#### 4.2.2 複数校受験の有無と受験校数

「学士号あり群」において現在通っている教育機関を受験した年に, 他の教育機関の入学試験を受けたものは 133 人 (48.4%) 受けなかったものは 137 人 (49.8%) であった。「学士号なし群」においても, 他校を受験したものと受験しない者の割合は拮抗しており, 他校は受験していないものの割合が高かった。「学士号なし」群の方が, より受験していないものの割合が高い傾向があ

ったが、統計的な有意な差はなかった ( $\chi^2=0.34$ ,  $df=1$ ,  $p=0.56$ )。

「学士号あり群」で他校を受験したものの平均受験校数は2.02校、最大で10校であった。「学士号なし群」では、平均2.45校、最大受験校数は「学士号あり群」と同じく10校であった。平均受験校数は「学士号なし群」の方があり群よりも多く、統計的にも有意 ( $t(264)=2.47$ ,  $p=0.01$ ) な差があった。

#### 4.2.3 併願校の種別

「学士号あり群」が複数校を受験する際、最も多く選択されていたのは看護師養成所で105人(78.9%)受験していた。次に多かったのは看護系大学で31人(23.3%)であった。その他については4件の自由記載があり、3件が「医学部医学科」、1件が「医療系専門学校」であった。

#### 4.2.4 高校生の頃の得意科目

「学士号あり群」において得意だという回答が最も多かった科目は国語(120人, 43.6%)であった。次いで、英語・外国語(108人, 39.3%)、体育(72人, 26.2%)の順であった。最も得意であるという回答が少なかった科目は、物理(11人, 4.0%)であった。「学士号なし群」でも同様に国語が得意だったと回答した割合が最も高く(37.2%)、物理が得意だったと回答した割合が最も低かった(学士号なし 1.3%)。

英語外国語、倫理社会、政治経済、歴史、地理、物理、化学の7科目で、「学士号あり群」のほうがなし群よりも得意だったと回答する傾向があり、英語外国語( $\chi^2=15.05$ ,  $df=1$ ,  $p=0.00$ )、政治経済( $\chi^2=5.31$ ,  $df=1$ ,  $p=0.02$ )、歴史( $\chi^2=4.95$ ,  $df=1$ ,  $p=0.03$ )、物理( $\chi^2=4.04$ ,  $df=1$ ,  $p=0.04$ )では、その差は有意であった。また、数学( $\chi^2=11.45$ ,  $df=1$ ,  $p=0.00$ )、生物( $\chi^2=6.22$ ,  $df=1$ ,  $p=0.01$ )、保健( $\chi^2=4.36$ ,  $df=1$ ,  $p=0.04$ )、体育( $\chi^2=4.74$ ,  $df=1$ ,  $p=0.03$ )、家庭( $\chi^2=25.90$ ,  $df=1$ ,  $p=0.00$ )の5科目では「学士号なし群」のほうが得意であったと回答し、その差は有意であった。

## 5 今後の課題

ここまでの結果から、学士号を持つ学生は持たない学生とは異なる年齢、性別、教育・学習における背景を持っていることがわかった。また、教育機関の選択や受験を決める時期にも異なる特徴があった。18歳人口が減少するなか、大卒社会人経験者等を対象とした看護職の新規養成促進は不可避であるとされ、彼らの就学を支援する政策が推進されている。彼らは近い将来の日本の医療を支える人材であり、学生の多様性をふまえた看護教育の方策を考えて行かなければならない。

## 文献

井部俊子・奥裕美(2013)．これからの病院と看護教育のあり方，病院，72(5)、346-350

井部俊子（2014）．社会保障と税の一体改革に向けた新たな看護職確保対策に関する研究報告書，  
平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金事業厚生労働科学特別研究事業奥裕美（2013）．学士号を持つ看護学生が看護教育機関を選択した要因.聖路加看護学会誌, 16（3）, 28-37.  
奥裕美・井部俊子・柳井晴夫（2013）．学士号を持つ看護学生の学習経験に教育機関の種別が与える影響, 聖路加看護学会学術大会講演集第 18 回, 43. 奥裕美（2013）．他分野の学士号を持つ看護学生の特性と学習に関する研究, 2012 年度聖路加看護大学大学院博士論文  
日本看護協会出版会（2012）．平成 23 年看護関係統計資料集, 日本看護協会出版会

## 第3章 高校教員からみた看護系進学希望者の特徴

西郡大（佐賀大学）

### 1. 目的

本稿では、全国の高等学校、中等学校の進路指導教諭を対象に実施したアンケート調査をもとに、進学校、非進学校、進路多様校など高校の性格の違いによって、高校教員からみた看護系分野への進学希望者像にどのような特徴があるのかを分析した。

### 2. 調査の概要

特別支援学校等を除く全国 5,028 の高等学校、中等教育学校の中から無作為に抽出された 2,000 校を調査対象とした。2014（平成 26）年 1 月中旬～下旬に調査票を送付し、各校の進路指導担当教諭 1 名ずつに回答を求めたものである。調査票は 8 ページから構成される。調査票の回収は郵送方式で行われ、2014（平成 26）年 6 月 23 日の時点で 1,319 校から有効回答が得られた（回収率 66.0%）。本稿では、同データを分析に用いた。

### 3. 結果

#### 3. 1 回答校の分類と看護系進学希望者の実態

回答者が所属する高校の進路に関する位置づけを表 1 に示す。最も回答が多かったのは「進学志望・就職志望が混じる進路多様校」（44.2%）であったが、多様な高校からバランスよく回答を得ることができた。なお、本稿では、進路に関する各高校の位置づけに関する分類を示すために、A～E というコードによって識別する。次に、各高校の分類別に、看護系大学や看護系専門学校を志望する生徒についてみたところ、A～C の高校は、「コンスタントにいる」とするケースが多い一方で、就職者が多く含まれる高校においては、看護系への進学希望者は相対的に少ない傾向がみられた。

表 1. 進路に関する各高校の位置づけ

進路に関する各高校の位置づけ	分類	回答数	割合 (%)
生徒の多くが国公立大学を目指す進学校	A	233	17.7
生徒の多くが 4 年制大学を目指す進学校	B	224	17.0
生徒の多くが大学・専門学校を目指す進学校	C	180	13.6
進学志望・就職志望が混じる進路多様校	D	583	44.2
生徒の多くが進学を目指さない非進学校	E	82	6.2
無回答	-	17	1.3

表 2. 各高校における看護系大学や看護系専門学校の志望者

分類	ほとんどいない	例外的(毎年 2-3 名程度)	コンスタントにいる
A	19 (8.2%)	12 (5.2%)	200 (85.8%)
B	18 (8.0%)	14 (6.3%)	188 (83.9%)
C	8 (4.4%)	13 (7.2%)	157 (87.2%)
D	85 (14.6%)	171 (29.3%)	324 (55.6%)
E	51 (62.2%)	19 (23.2%)	12 (14.6%)

無回答は集計から除外。( )内は各分類高校ごとの割合

### 3. 2 高校の分類別にみる看護系志望者の特徴

#### 3. 2. 1 受験先をどのように考えるか

A と B の進学を中心に考える高校は、「主として大学」。D と E の多様校及び非進学校では、「主として専門学校」と明確に分かれた。両者の性質を含む C は「大学も専門学校も受験」が多数を占めている。以上のことから、同じ看護系志望者といっても志望者が所属する高校の性格によって受験先が明確に異なる傾向があることが示された(図 1)。

一方、受験先として考える地域では、大学か専門学校かは違うものの、どの高校においても地元にある大学や専門学校を受験先として考える傾向がみられた(図 2)。

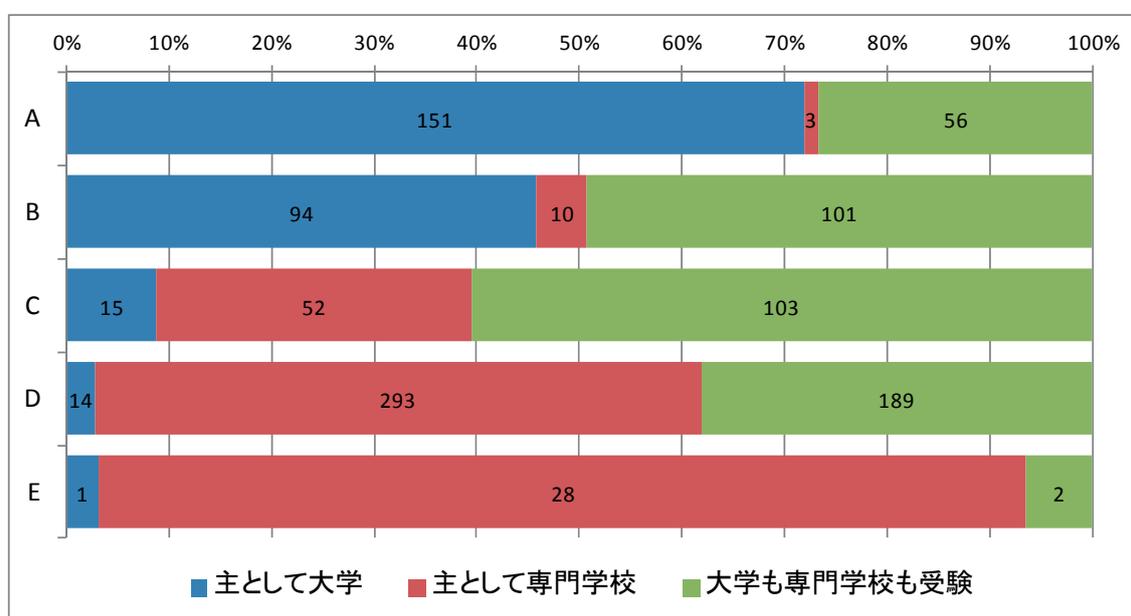


図 1. 受験先として考えているもの

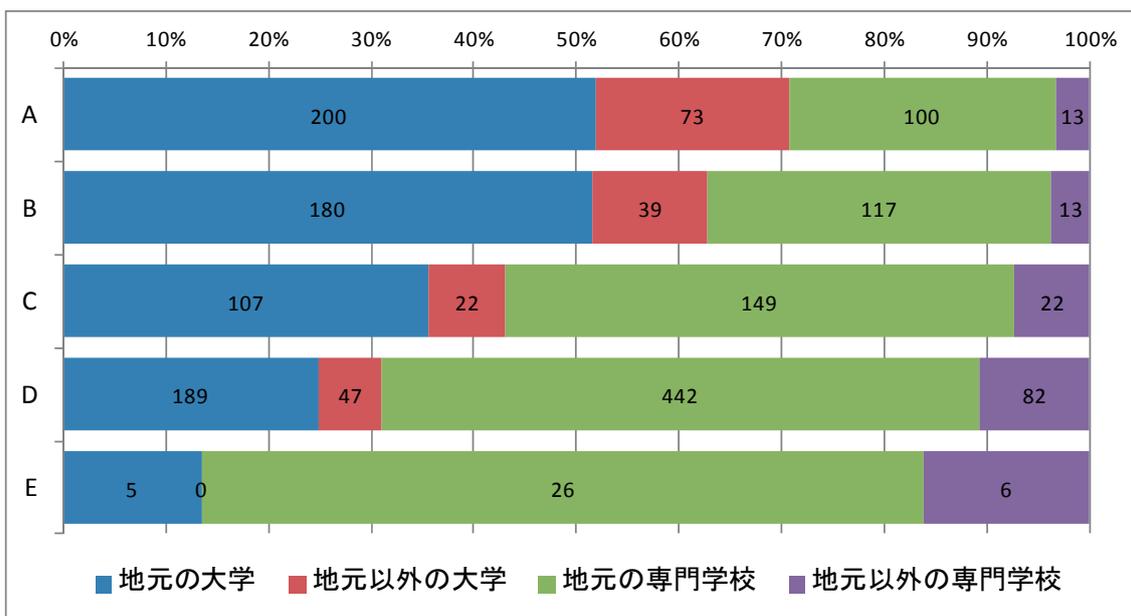


図2. 受験先として考えている地域

### 3. 2. 2 看護系進学希望者の学力層

C, D, E と進学者が少ない高校になるほど、学業成績は最上位から上位レベルの生徒が看護系を志望する傾向がみられる。また、高校の違いを問わず、看護系進学希望者には下位から最下位レベルの生徒は少ないようである（図3）。

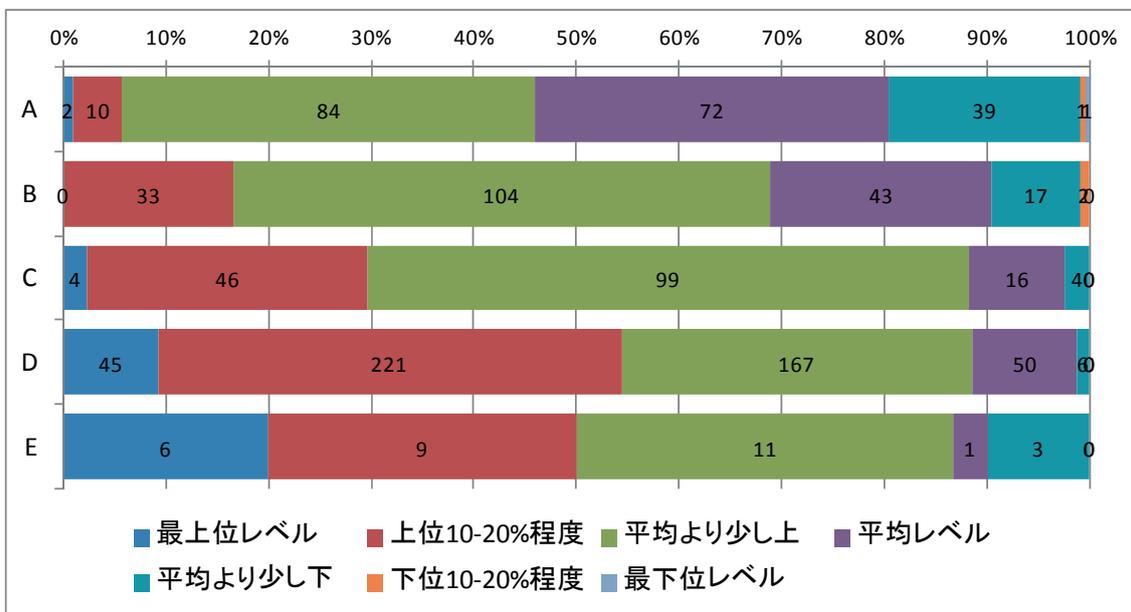


図3. 看護系志望者の学力層（学業成績）

### 3. 2. 3 看護系志望者の受験行動

どの高校でも多くの生徒が「第一希望」として看護系を進学希望先として考えている。ただし、国公立大学等を目指す進学校になるにつれ、第2志望や第3志望も含まれており、他の高校よりも幅広い進路選択がなされている（図4）。

受験する入試区分では、C、D、Eにおいては推薦入試が多いのに対して、Aでは一般入試が主であり、高校によって受験指導における大きな違いが確認された（図5）。

受験時期では、どの高校においても受験校決定の時期が早いものの、Aにおいてのみ「高校3年の8月以降センター試験以前」の割合が相対的に高く、一般入試を想定する受験生が多いがゆえの傾向として読み取れる（図6）。

受験先決定において影響を受ける人の意見では、高校の違いに関わらず一番多いのは「生徒本人の意見」であり、看護系志望者には主体的な進路選択をする生徒が多い傾向がみられる。一方、「保護者の意見」がA～Dにおいて20%前後あることから、保護者の意見も一定の影響力が確認される。Eでは「教員の意見」が1件もみられなかった（図7）。

生徒の身内における医療関係者の有無においては、「医療系の家庭が多い」というのは高校の分類による違いがみられないものの、「どちらかと言えば医療系の家庭が多い」まで含めると、A～Dの高校では40～50%程度を占めることが確認された。Eでは、「どちらかと言えば医療系の家庭は少ない」と「医療系は少ない」で20%強を占めており、相対的に保護者に医療系が少ないことが示された（図8）。

進学先へ受験を決めた理由について、「全く重要だと感じていなかった（1点）」「あまり重要だと感じていなかった（2点）」「どちらとも言えない（3点）」「少しは重要だと感じていた（4点）」「かなり重要だと感じていた（5点）」と得点を付与し、各項目に対する回答者の平均点を高校分類別に示した（図9）。国公立大学等を目指す進学校になるにつれ平均点が高くなる項目は、「取得できる資格の種類が魅力的であること」「所属する専攻（学科）の教育内容」「所属する専攻（学科）の教員の研究内容」「大学や学校の評判、社会的評価」「施設・設備が充実しているかどうか」「入試の地方会場が自宅の近くにあるかどうか」「他に受験したところの併願のしやすさ」であった。一方、DやEの高校で平均点が高い項目は、「将来、見込まれる収入の金額が十分かどうか」「将来、暮らしたいと思っている地域で暮らせるかどうか（Eのみ）」「大学や学校がある地域や場所が魅力的かどうか（Eのみ）」「生活費の安さ」などが該当する。

看護師などの看護専門職について生徒たちが抱くイメージについて、上記同様に各項目の回答に点数を付与し回答者の平均点を高校別にみたところ（図10）、「給料が高い」でA、BよりC、D、Eにおいて平均点が高く、「取得困難な資格」では、非進学校になるにつれて平均点が高くなる傾向がみられた。また、「3K（きつい・きたない・きけん）である」「夜勤がある」「残業が多い」など労働環境に関するネガティブなイメージはEにおいて平均点が高かった。

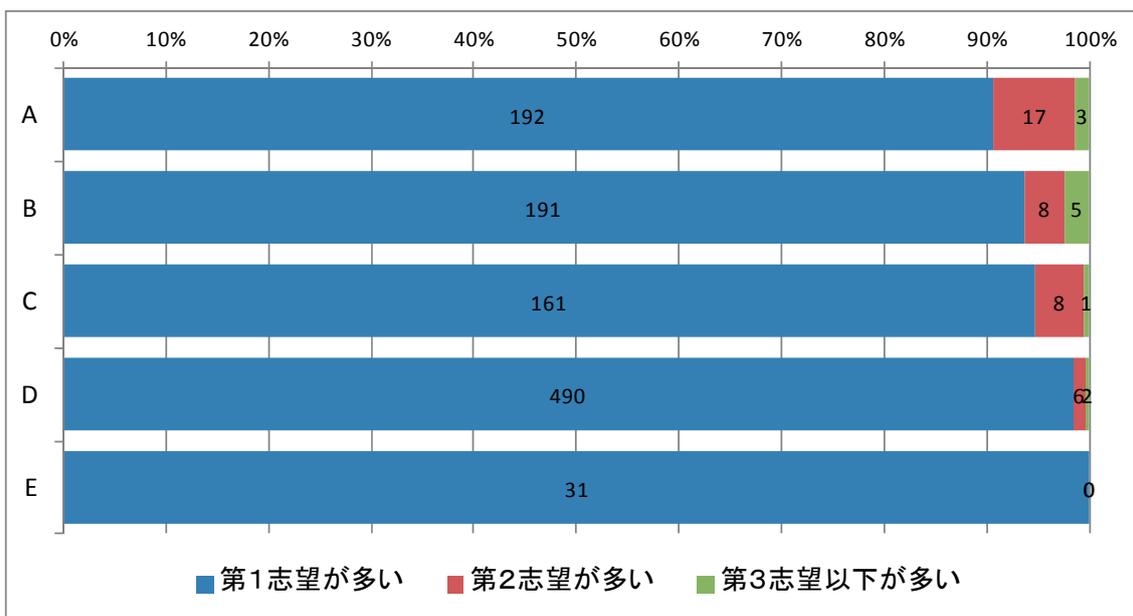


図4. 看護系進路に対する志望意欲

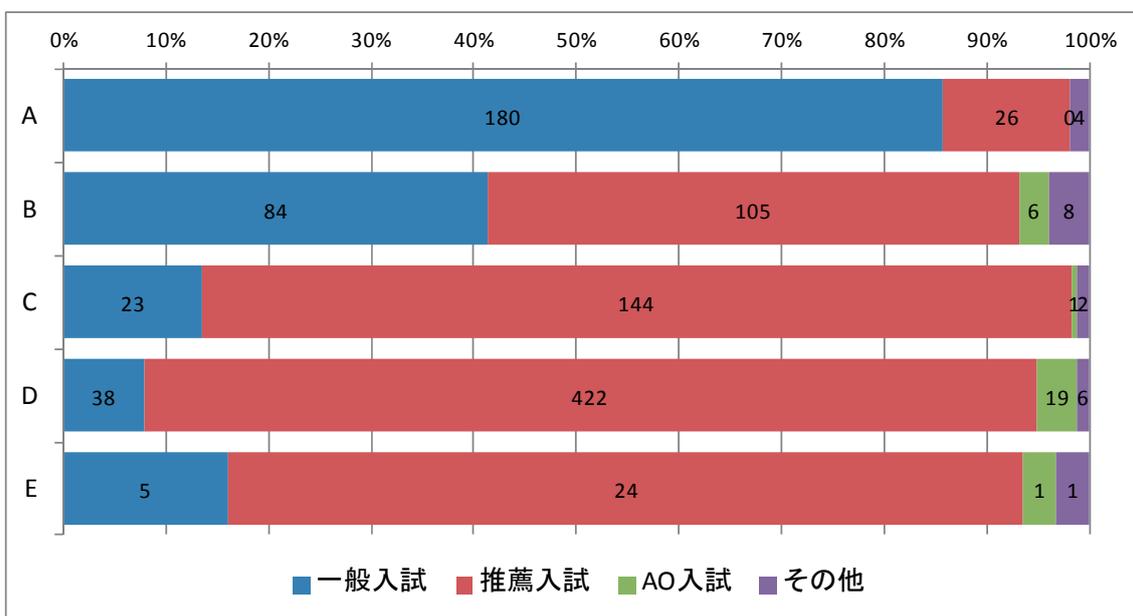


図5. どのような入試区分で受験するか

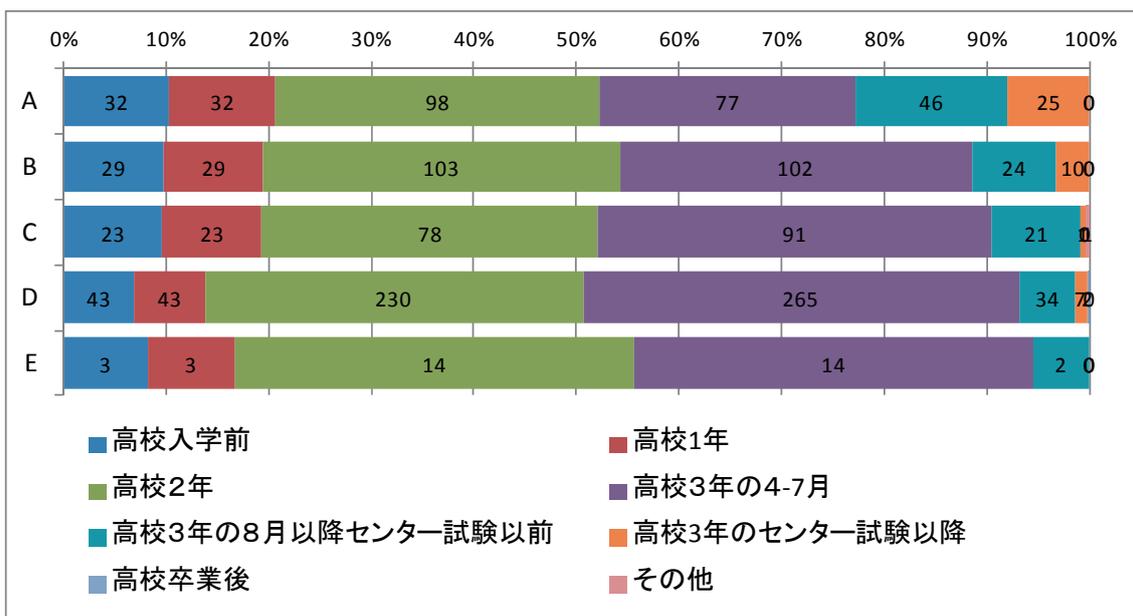


図 6. 受験校を決定する時期

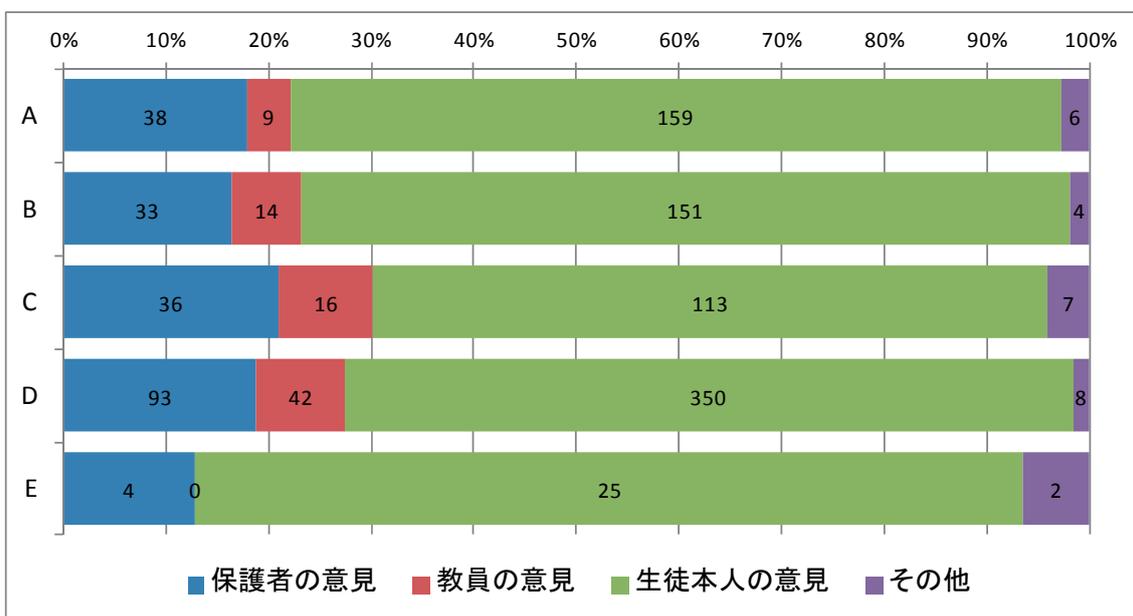


図 7. 受験先決定に影響する人の意見

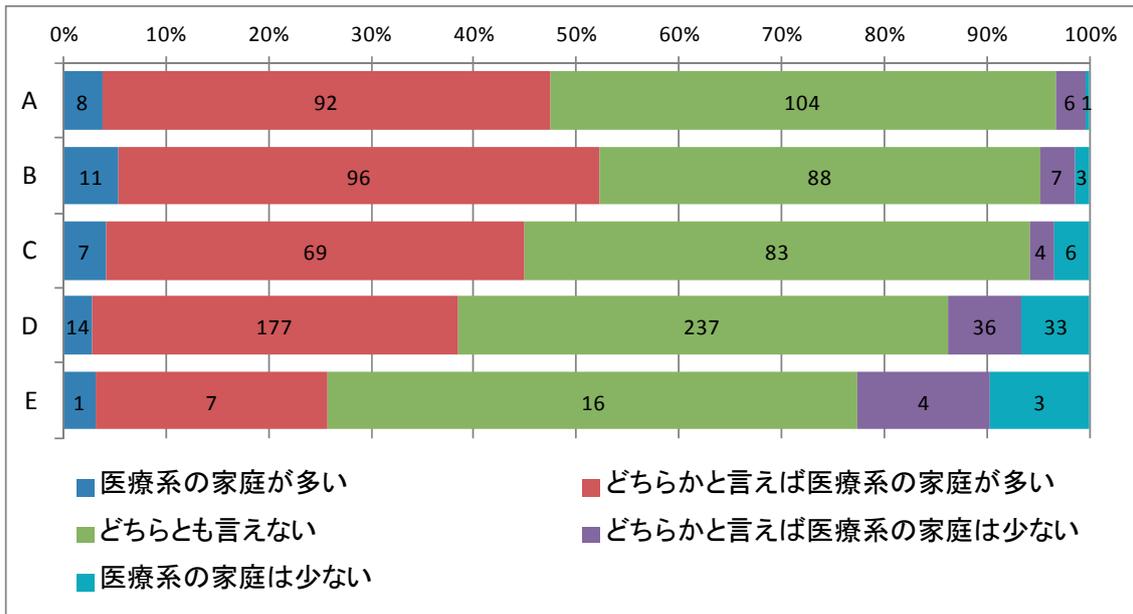


図8. 生徒の身内における医療関係者の有無

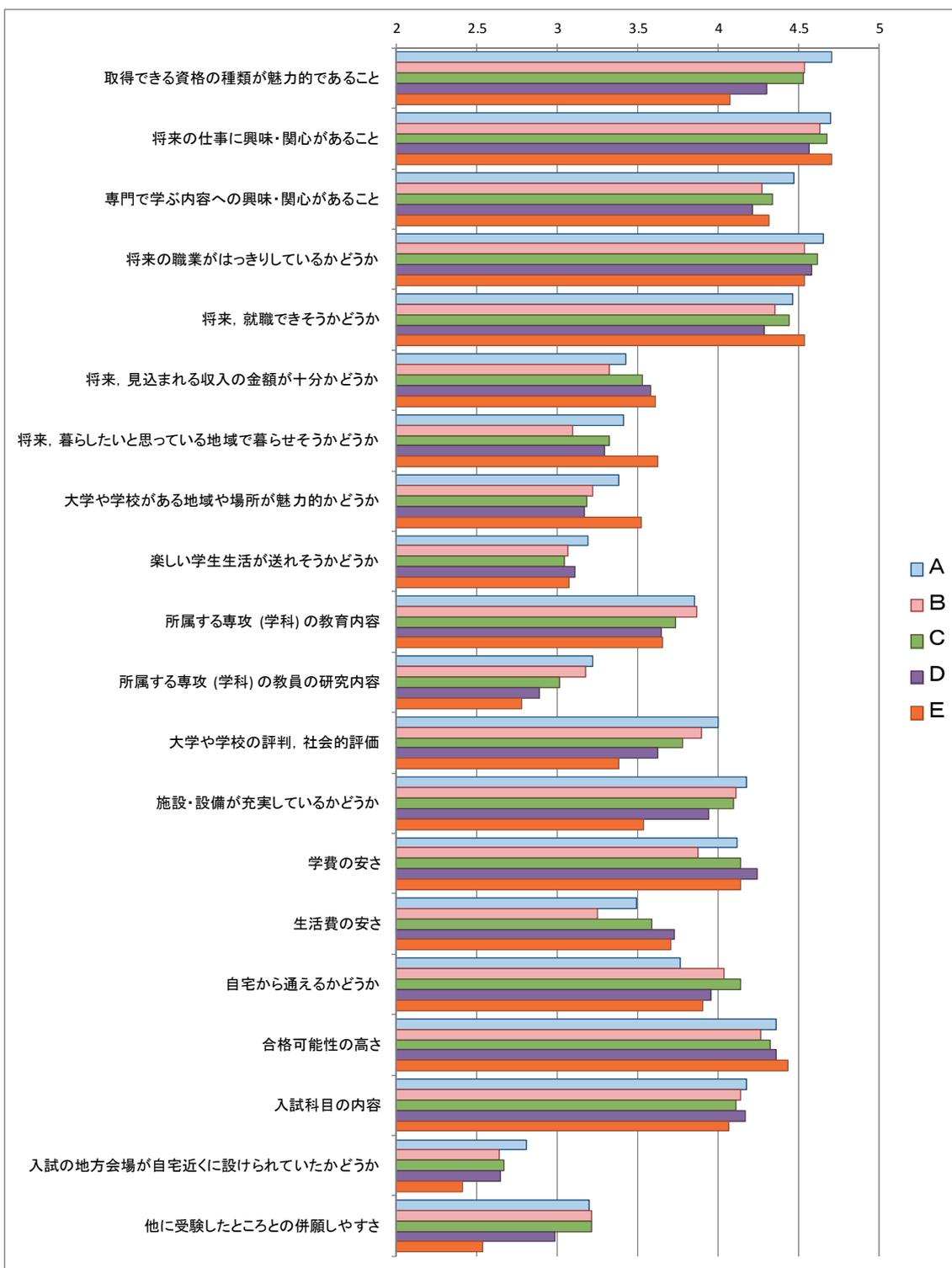


図9. 生徒たちが進学先への受験を決めた理由

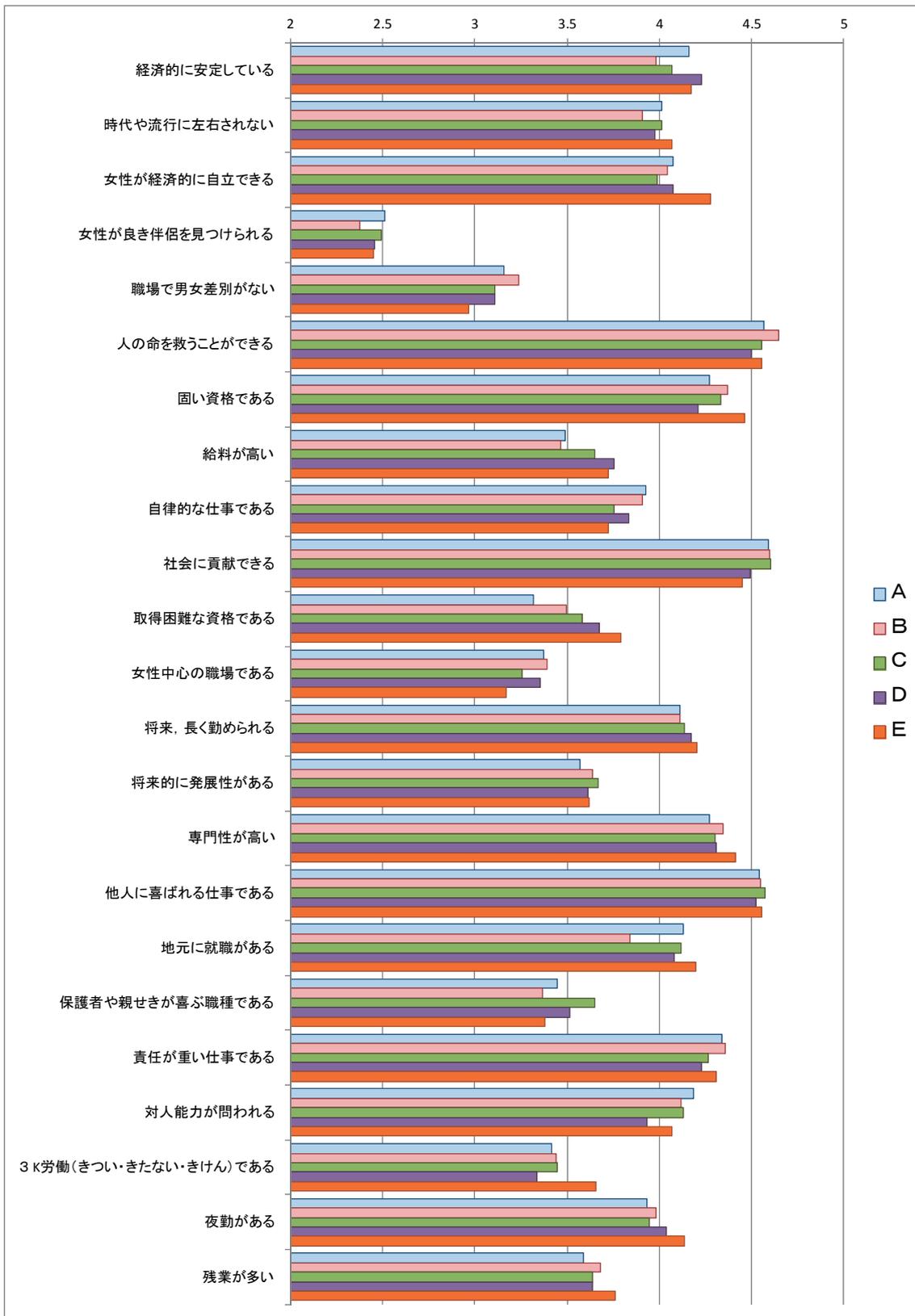


図10. 生徒たちが看護専門職に抱くイメージ

### 3. 2. 4 各高校における教員の進学指導

生徒に看護系の進路を勧める理由を尋ねた項目について、「全く理由にならない（1点）」「あまり理由にならない（2点）」「どちらとも言えない（3点）」「少し理由になる（4点）」「重要な理由になる（5点）」と得点を付与し、各項目に対する回答者の平均点を高校の分類別に示した（図1-1）。国公立大学等を目指す進学校になるにつれ平均点が高くなる項目は少なく、「入試で得意科目を活かせること」「入試の会場が近くに設けられること」など入試に関する項目が中心である一方で、非進学校になるにつれて平均点が高くなる項目は、「将来、経済的に安定した生活ができること」「職種が時代や流行に左右されないこと」「給料が高いこと」「取得困難な資格であること」「将来、長く勤められること」など、将来の生活に関心を寄せた理由が中心であった。また、Eにおいて特に平均が高い項目として、「女性が経済的に自立できること」「職場で男女差別がないこと」「女性中心の職場であること」「固い資格であること」「将来的に発展性があること」「他人に喜ばれる仕事であること」「地元就職があること」などが挙げられる。

次に、どのような生徒が看護系分野に進学することが向いていると感じているかを尋ねた項目について、「全く向いていると思わない（1点）」「あまり向いていると思わない（2点）」「どちらとも言えない（3点）」「少しは向いていると思う（4点）」「かなり向いていると思う（5点）」と得点を付与し、各項目に対する回答者の平均点を高校の分類別に示した（図1-2）。国公立大学等を目指す進学校になるにつれ平均点が高くなる項目は、「コミュニケーション能力が高い」「リーダーシップがある」「何事にも忍耐強い」「協調性がある」「他人の話を辛抱強く聞くことができる」などであった。逆に、非進学校になるにつれて平均点が高くなる項目は、「家庭に学費を賄う経済力がある」「従順に指示に従うことができる」などであった。

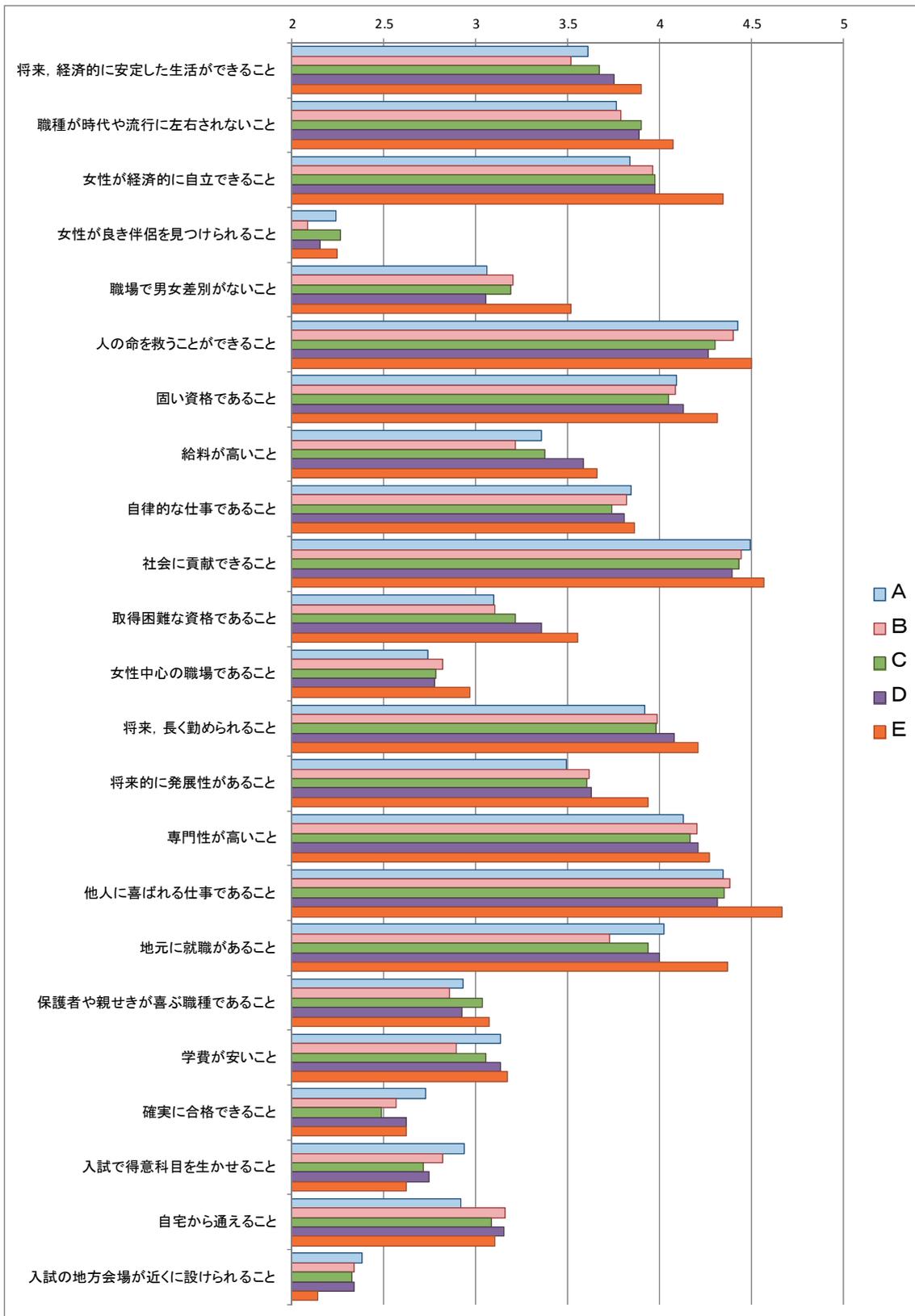


図 1 1. 看護系分野に進学を勧める理由

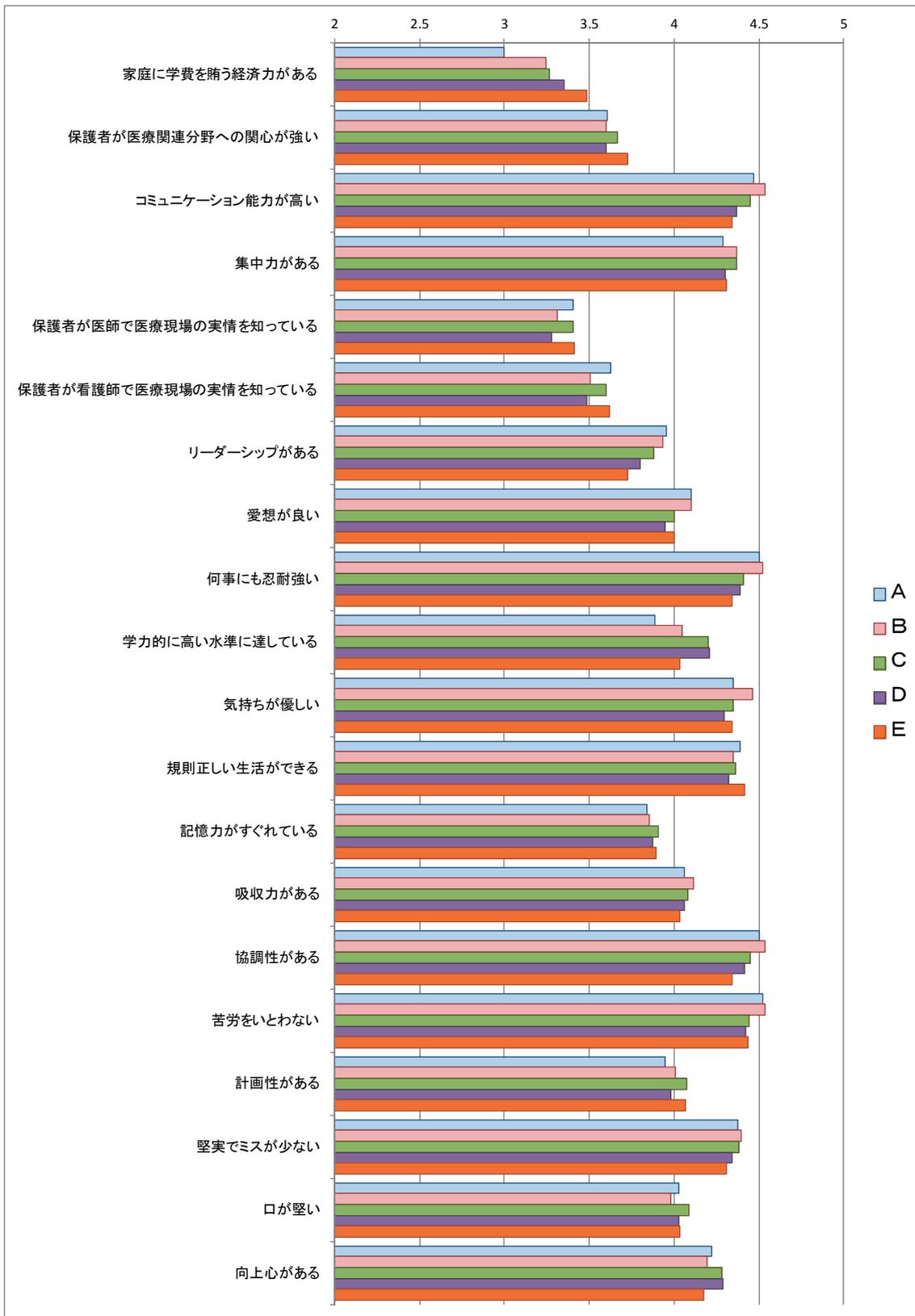


図 1 2. 看護系分野への進学が向いていると考えられる生徒像

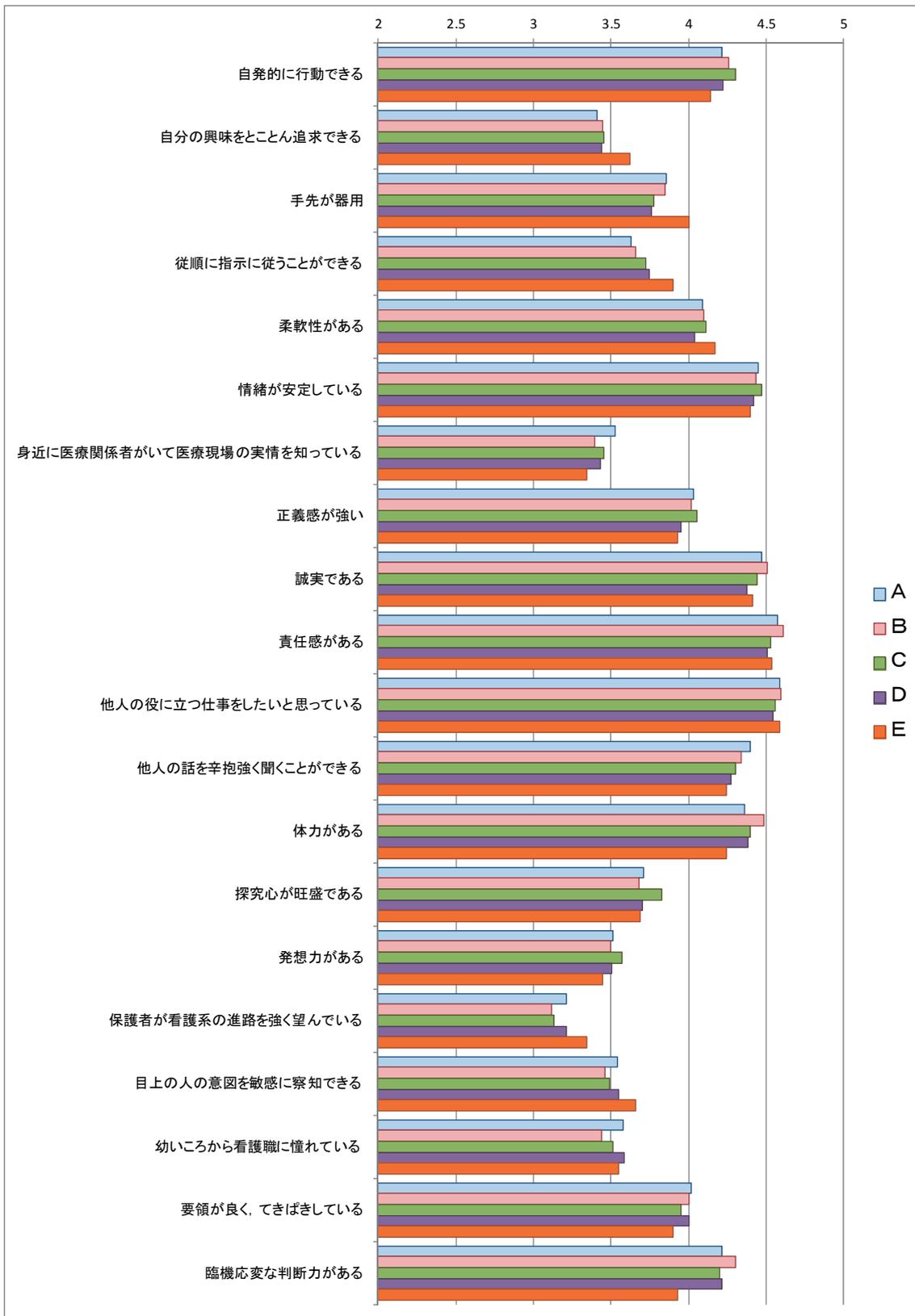


図 1 2. 看護系分野への進学が向いていると考えられる生徒像 (つづき)

#### 4. まとめ

本稿では、高校で進路指導に関わる教員を対象としたアンケート調査を通し、看護師等の医療技術者や医療科学者を養成する分野への進学を志す高校生像について、進路における各高校の位置づけ（進学校、進路多様校、非進学校等の分類）を考慮した分析を行った。

その結果、「(A) 生徒の多くが国公立を目指す進学校」「(B) 生徒の多くが4年制大学を目指す進学校」「(C) 生徒の多くが大学・専門学校を目指す進学校」「(D) 進学志望・就職志望が混じる進路多様校」「(E) 生徒の多くが進学を目指さない非進学校」といった高校の性格の違いによって、看護系分野を目指す生徒の特徴が大きく異なることが示された。以下に、分析によって得られた特徴を整理する。

(分析によって得られた看護系進学希望者像)

- ① 高校分類によって、「主として大学」と「主として専門学校」と別れるものの、両者とも、「地元志向であること」「第一志望と考える割合が多いこと」「生徒本人の意見で受験先を決定する傾向があること」は共通している。
- ② 看護系への進学希望者の学力層では、DとEの高校において成績上位者層が進学を希望する傾向がみられる。
- ③ 入試区分では、AとBにおいて一般入試で受験する割合が高いものの、C、D、Eでは、推薦入試での受験が中心である。
- ④ 看護系で取得できる資格に対する認識は、非進学校になるにつれて取得が難しい資格であると認識されている。
- ⑤ 生徒を指導する教員が看護系分野への進学に向いていると感じる部分は、進学率が高くなるにつれて「コミュニケーション能力が高い」「リーダーシップがある」「何事にも忍耐強い」などの個人の性格やスキルの部分を挙げているのに対し、非進学校では、「家庭に学費を賄う経済力がある」などの経済的な要因を重視する傾向がみられる。

以上のように、進路に関する高校の位置づけによって、看護系分野への進学を希望する高校生像は多岐にわたることが示された。本調査は、高校教員から見た生徒像であり、生徒の意識を直接的に尋ねたものではないが、他の生徒と比較しながら多くの生徒を指導してきた教師による意見から得られた実態という点では貴重なデータだと言える。

こうした実態は、看護系分野の大学や専門学校が、どのように入学者を受入れることが適切なのかを検討するための材料となるだけでなく、高校におけるキャリア教育においても、各高校の性格に応じた適切な情報を提供するための視点となるだろう。本稿で示した全体像の把握をきっかけに、他の要因等を考慮したより詳細な分析が期待される。

## 第4章 看護系志望の高校生に求められる学力・適性に関する

### 高等学校進路指導教員の意識

倉元直樹（東北大学）

#### 1. 問題と目的

1992年に制定された通称「人材確保法」をきっかけに、看護専門職業人の養成が急速に四大化している。必然的に看護系志望者の進路選択は大学入試の文脈に依存する状況となっている。金澤他（2011）は看護系大学の入試科目が多様化している状況を示した。倉元他（2011）、倉元他（2012）では、2,000名を超える看護系大学と専門学校の学生を対象とした調査から、設置者と学校種によって高校時代の履修履歴が多様であること、受験の理由によって入学後の適応度に違いが見られることを示した。以上の研究結果を受け、本研究では、送り出し側の高校進路指導教員に質問紙調査を行い、その意識を探ることとする。

#### 2. 方法

特別支援学校等を除く全国 5,028 の高等学校、中等教育学校の中から無作為に抽出された 2,000 校を調査対象とした。2014 年 1 月に 8 ページから成る調査票を送付し、郵送方式で回収した。

1,319 校から回答が得られた（回収率 66.0%）。

#### 3. 結果と考察

男子校や専門高校も含め、看護系を希望する生徒が「ほとんどいない」という回答は 14.2% に過ぎなかった。それらを除く 1,134 校からの回答を以下の分析対象とした。

##### 3.1. 尺度化

不適応の原因（13 項目）、看護系を勧める理由（23 項目）、生徒が抱く看護のイメージ（23 項目）、教員が考える看護系の適性（40 項目）」について主因子法、プロマックス回転で因子分析を行い、14 尺度に項目をまとめた。結果の概要を Table.1 に示す。左から因子名、項目数、 $\alpha$  信頼性係数である。因子間相関は.13～.62 であった。

Table.1 因子分析結果概要

不適応の原因 (3 因子)			イメージ (4 因子)		
対人配慮	4	.83	働き甲斐	5	.82
理解力	5	.86	生活安定	6	.81
環境/意欲	4	.72	労働条件	4	.81
勧める理由 (4 因子)			女性向き		
生活安定	6	.85	適性 (3 因子)	3	.61
働き甲斐	6	.82	総合	24	.96
受験	5	.76	利発	5	.81
女性向き	4	.70	環境	6	.82

### 3.2. 回答者の要因

回答者のプロフィール（性別，年齢）が結果に影響するか否かを調べた。回答者属性は全体で男性 818 名（79%），女性 223 名（21%），30 代以下 144 名（13%），40 代（35%），50 代以上（52%）であった。14 の尺度に対して行った 2 元配置の分散分析結果概要を Table.2 に示す。研究目的に鑑みると，回答者の属性は誤差要因なので，以後，除去して分析を試みることにした。左から尺度名，性別の効果，年齢の効果（有意に値が大きかった属性）を示す。なお，交互作用は見られなかった。

Table.2 分散分析結果概要

不適応の原因			イメージ		
対人配慮	—	—	働き甲斐	女	—
理解力	女	—	生活安定	女	40～
環境/意欲	男	—	労働条件	—	—
勧める理由			女性向き		
生活安定	女	50～	適性	—	—
働き甲斐	女	40～	総合	女	—
受験	—	—	利発	女	—
女性向き	—	50～	環境	—	—

### 3.3. 進学実績の効果

調査対象校は該当する質問項目による回答から「国公立志向の進学校」～「非進学校」の 5 カテゴリーに分類された。「進路多様校」が 45%，それ以外は 6～18%であった。

看護志望者は「理系」「文系」のいずれで学ぶべきかという設問には、全体の50%が「理系」、42%が「どちらとも言えない」と回答した。男性回答者では進学実績によって有意な差 ( $\chi^2[4]=25.3$ , 「国公立志向」が「理系」72%, それ以外が33~59%)が見られたが、女性回答者では違いがなかった(29~55%)。14の尺度については、「不適応の原因」のうち「理解力」のみ進学実績に乏しい高校がより「心配」という結果であった。

全体に回答者個人の要因で結果が影響を受けた。

## 付記

本研究は、東北大学高等教育開発推進センター（当時）倫理委員会の承認を受けた。また、科学研究費補助金（課題番号22390405）の補助を受けた。計算は京都大学学術情報メディアセンターが提供するSASを利用した。

## 資料

Table A1. 高校教員が考える不適応の原因

	対人配慮 (第1因子)	理解力 (第2因子)	環境・意欲 (第3因子)	共通性
7. 病人の立場で考えられないために実習先で問題を起こす	0.613	0.071	-0.055	0.639
8. 大学や専門学校の友人関係で問題を起こす	0.562	-0.028	0.063	0.543
6. 集団行動ができない	0.513	-0.067	0.255	0.628
12. 時間を守るなど、基本的な生活習慣が確立できない	0.431	0.127	0.085	0.465
1. 基礎学力の不足で授業についていけない	-0.199	0.689	0.110	0.516
2. 薬の量などの計算や見積もりができない	0.123	0.584	0.036	0.599
3. 多様な症状やカルテの記述から患者の状態が見抜けない	0.260	0.577	-0.093	0.726
5. 聞く力が不足しており、口頭での指示が理解できない	0.326	0.467	0.025	0.701
4. 臨機応変な予測力、対応力に欠ける	0.275	0.424	-0.061	0.502
13. 保護者が過度に学校に干渉する	0.075	-0.005	0.673	0.646
10. 不本意入学のため、学習意欲がわからない	0.212	-0.098	0.509	0.503
9. 経済状況が苦しく、学費が続かない	-0.152	0.283	0.426	0.279
11. 過度の思い込みのため、現実が本人の期待と大きく異なる現実が本人の期待と大きく異なる	0.245	0.072	0.383	0.449
$\alpha$ 信頼性係数	0.834	0.860	0.721	
因子間相関				
第1因子		0.494	0.453	
第2因子			0.166	

Table A2. 高校教員が看護系を勧める理由

	生活安定 (第1因子)	働き甲斐 (第2因子)	受験 (第3因子)	女性向き (第4因子)	共通性
5. 将来、経済的に安定した生活ができること	0.723	-0.175	0.035	-0.057	0.633
9. 職種が時代や流行に左右されないこと	0.614	-0.001	0.000	-0.045	0.569
17. 女性が経済的に自立できること	0.574	0.046	-0.068	0.056	0.592
6. 給料が高いこと	0.455	0.003	-0.001	0.099	0.415
2. 将来、長く勤められること	0.409	0.260	-0.011	-0.019	0.500
1. 固い資格であること	0.405	0.222	-0.011	0.019	0.473
10. 社会に貢献できること	-0.068	0.721	-0.053	-0.019	0.620
13. 他人に喜ばれる仕事であること	-0.023	0.694	-0.006	-0.040	0.607
11. 人の命を救うことができること	-0.064	0.635	0.029	-0.008	0.491
18. 専門性が高いこと	0.143	0.505	0.026	-0.032	0.473
19. 自律的な仕事であること	0.141	0.386	0.004	0.089	0.368
3. 将来的に発展性があること	0.221	0.345	0.062	0.071	0.428
21. 確実に合格できること	0.003	-0.053	0.691	0.008	0.630
22. 入試で得意科目を生かせること	-0.029	0.061	0.690	-0.073	0.567
24. 入試の地方会場が近くに設けられること	-0.111	-0.048	0.465	0.199	0.418
20. 学費が安いこと	0.143	0.016	0.395	-0.013	0.280
23. 自宅から通えること	0.056	0.064	0.394	0.035	0.273
14. 女性中心の職場であること	-0.013	0.006	0.012	0.556	0.480
16. 女性が良き伴侶を見つけられること	-0.031	-0.110	0.052	0.539	0.445
15. 職場で男女差別がないこと	0.153	0.128	-0.038	0.366	0.385
8. 保護者や親せきが喜ぶ職種であること	0.124	0.005	0.188	0.305	0.371
4. 取得困難な資格であること	0.135	0.171	0.016	0.280	0.322
7. 地元で就職があること	0.276	0.227	0.121	-0.014	0.330

$\alpha$  信頼性係数      0.851      0.823      0.764      0.699

## 因子間相関

第1因子	0.504	0.276	0.460
第2因子		0.125	0.244
第3因子			0.484

Table A3. 看護系に進学する生徒が看護系に抱くイメージ

	働き甲斐 (第1因子)	生活安定 (第2因子)	労働条件 (第3因子)	女性向き (第4因子)	共通性
10. 社会に貢献できる	0.678	-0.020	-0.010	-0.118	0.587
11. 人の命を救うことができる	0.650	-0.019	-0.049	-0.020	0.556
13. 他人に喜ばれる仕事である	0.649	0.034	-0.017	-0.099	0.583
20. 責任が重い仕事である	0.464	-0.070	0.230	0.064	0.457
18. 専門性が高い	0.453	0.105	-0.012	0.087	0.434
5. 将来、経済的に安定した生活ができる	-0.068	0.757	-0.019	-0.172	0.687
9. 職種が時代や流行に左右されない	0.024	0.518	0.018	0.043	0.472
17. 女性が経済的に自立できる	0.034	0.455	0.007	0.177	0.505
6. 給料が高い	-0.067	0.439	-0.024	0.104	0.326
2. 将来、長く勤められる	0.169	0.345	0.021	0.107	0.402
1. 固い資格である	0.269	0.328	0.016	0.000	0.405
24. 残業が多い	-0.046	-0.005	0.781	0.004	0.708
23. 夜勤がある	0.019	0.081	0.768	-0.083	0.712
22. 3K労働(きつい・きたない・きけん)である	-0.022	-0.044	0.622	0.073	0.487
21. 対人能力が問われる	0.288	-0.031	0.362	0.040	0.376
15. 男女差別がない	0.034	0.041	-0.057	0.525	0.411
16. 女性が良き伴侶を見つけられる	-0.205	-0.019	0.022	0.525	0.344
14. 女性中心の職場である	0.033	0.042	0.091	0.437	0.359
3. 将来的に発展性がある	0.211	0.170	-0.066	0.290	0.373
8. 保護者や親せきが喜ぶ職種である	0.014	0.194	0.071	0.241	0.237
19. 自律的な仕事である	0.244	0.121	-0.081	0.238	0.293
4. 取得困難な資格である	0.186	0.087	0.082	0.198	0.235
7. 地元就職がある	0.141	0.205	0.103	0.072	0.214

α 信頼性係数      0.815      0.811      0.807      0.614

因子間相関

第1因子	0.491	0.332	0.322
第2因子		0.175	0.465
第3因子			0.328

Table A4. 高校教員が考える看護系の適性

	総合 (第1因子)	利発 (第2因子)	環境 (第3因子)	共通性
18. 協調性がある	0.670	-0.036	-0.042	0.655
26. 何事にも忍耐強い	0.670	-0.085	-0.005	0.618
30. 責任感がある	0.660	-0.047	-0.019	0.638
22. 苦勞をいとわない	0.655	-0.070	0.006	0.610
29. 誠実である	0.631	-0.021	0.018	0.622
12. コミュニケーション能力が高い	0.587	-0.056	-0.013	0.491
24. 情緒が安定している	0.574	0.009	-0.024	0.534
8. 堅実でミスが少ない	0.573	0.038	-0.029	0.568
40. 集中力がある	0.571	0.039	-0.043	0.560
7. 規則正しい生活ができる	0.562	0.014	-0.004	0.524
11. 体力がある	0.539	0.019	-0.043	0.479
13. 他人の話を辛抱強く聞くことができる	0.521	0.084	-0.008	0.537
25. 気持ちが優しい	0.507	0.019	0.035	0.447
21. 他人の役に立つ仕事をしたいと思っている	0.463	-0.016	0.082	0.359
36. 吸収力がある	0.435	0.229	-0.024	0.589
37. 臨機応変な判断力がある	0.422	0.103	0.033	0.406
15. 愛想が良い	0.403	0.051	0.125	0.361
33. 記憶力がすぐれている	0.369	0.281	0.029	0.582
23. 自発的に行動できる	0.363	0.296	-0.090	0.549
19. 口が堅い	0.362	0.255	-0.028	0.500
10. 要領が良く、てきぱきしている	0.359	0.130	0.090	0.370
27. 柔軟性がある	0.355	0.297	-0.007	0.567
32. 学力的に高い水準に達している	0.333	0.175	-0.004	0.350
14. リーダーシップがある	0.310	0.179	0.133	0.386
35. 発想力がある	0.015	0.580	0.009	0.596
39. 探究心が旺盛である	0.038	0.574	-0.030	0.595
38. 自分の興味をとことん追求できる	-0.079	0.546	0.021	0.440
17. 目上の人の意図を敏感に察知できる	0.060	0.352	0.233	0.398
9. 手先が器用	0.217	0.310	0.091	0.423
3. 保護者が看護師で医療現場の実情を知っている	0.051	-0.052	0.788	0.678
1. 身近に医療関係者がいて医療現場の実情を知っている	0.071	-0.048	0.733	0.600
4. 保護者が開業医で医療現場の実情を知っている	-0.018	0.001	0.717	0.563
5. 保護者自身が医療関連分野への関心が強い	0.044	-0.017	0.548	0.340
2. 保護者が看護系の進路を強く望んでいる	-0.137	0.115	0.526	0.338
20. 幼いころから看護職に憧れている	-0.054	0.162	0.395	0.247
34. 計画性がある	0.363	0.323	-0.065	0.603
31. 向上心がある	0.346	0.331	-0.077	0.585
28. 正義感が強い	0.290	0.214	0.146	0.415
16. 従順に指示に従うことができる	0.190	0.232	0.149	0.311
6. 家庭に学費を賄う経済力がある	0.087	0.025	0.288	0.129

α 信頼性係数      0.956      0.810      0.820

因子間相関		
第 1 因子	0.616	0.210
第 2 因子		0.310

Table B1. 対人配慮（不適応の原因）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	2.69	2.69	0.20	0.66
年代	2	76.50	38.25	2.81	0.06
性別×年代	2	30.65	15.33	1.13	0.32
残差	981	13332.23	13.59		
合計	986	13439.85			

Table B2. 理解力（不適応の原因）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	139.70	139.70	6.37	0.01*
年代	2	67.24	33.62	1.53	0.22
性別×年代	2	21.65	10.83	0.49	0.61
残差	984	21565.67	21.92		
合計	989	21803.72			

\*:  $p < .05$ , 男性 < 女性

Table B3. 環境・意欲（不適応の原因）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	71.34	71.34	7.25	0.01*
年代	2	3.70	1.85	0.19	0.83
性別×年代	2	0.92	0.46	0.05	0.95
残差	980	9643.19	9.84		
合計	985	9723.26			

\*:  $p < .05$ , 男性 > 女性

Table B4. 生活安定（勧める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	729.26	729.26	41.36	0.00*
年代	2	168.09	84.04	4.77	0.01**
性別×年代	2	23.66	11.83	0.67	0.51
残差	978	17245.97	17.63		
合計	983	18119.90			

\*: p &lt; .001, 男性 &lt; 女性

\*\*: p &lt; .05, 30歳代以下 &lt; 50歳代以上

Table B5. 働き甲斐（勧める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	354.05	354.05	29.00	0.00*
年代	2	212.75	106.37	8.71	0.00**
性別×年代	2	24.43	12.21	1.00	0.37
残差	982	11990.73	12.21		
合計	987	12561.32			

\*: p &lt; .001, 男性 &lt; 女性

\*\*: p &lt; .0001, 30歳代以下 &lt; 40歳代, 50歳代以上

Table B6. 受験（勧める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	1.23	1.23	0.09	0.76
年代	2	48.12	24.06	1.81	0.16
性別×年代	2	7.81	3.90	0.29	0.75
残差	953	12651.96	13.28		
合計	958	12708.16			

Table B7. 女性向き（勤める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	13.97	13.97	1.79	0.18
年代	2	73.84	36.92	4.72	0.01**
性別×年代	2	70.18	35.09	4.49	0.01*
残差	974	7610.60	7.81		
合計	979	77771.85			

\*:  $p < .05$ , 多重比較の結果, 有意差なし

\*\* :  $p < .05$ , 30歳代以下 < 40歳代, 50歳代以上

Table B8. 働き甲斐（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	237.05	237.05	34.91	0.00*
年代	2	37.15	18.58	2.74	0.07
性別×年代	2	4.98	2.49	0.37	0.69
残差	996	6763.36	6.79		
合計	1001	7027.01			

\*:  $p < .05$ , 男性 < 女性

Table B9. 生活安定（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	820.75	820.75	69.50	0.00*
年代	2	120.84	60.42	5.12	0.01**
性別×年代	2	46.80	23.40	1.98	0.14
残差	983	11609.07	11.81		
合計	988	12571.06			

\*:  $p < .001$ , 男性 < 女性

\*\* :  $p < .01$ , 30歳代以下 < 40歳代, 50歳代以上

Table B10. 労働条件（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	8.74	8.74	0.93	0.33
年代	2	37.34	18.67	1.99	0.14
性別×年代	2	0.35	0.18	0.02	0.98
残差	985	9234.63	9.38		
合計	990	9278.89			

Table B11. 女性向き（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	0.66	0.66	0.14	0.70
年代	2	50.37	25.19	5.49	0.00*
性別×年代	2	14.08	7.04	1.53	0.22
残差	967	4436.94	4.59		
合計	972	4502.59			

\*\*：p < .01, 30 歳代以下 < 40 歳代, 50 歳代以上

Table B12. 総合（適性）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平	F	p
性別	1	4169.62	4169.62	29.12	0.00*
年代	2	426.57	213.29	1.49	0.23
性別×年代	2	332.15	166.07	1.16	0.31
残差	982	140632.81	143.21		
合計	987	145350.26			

\*: p < .001, 男性 < 女性

Table B13. 利発（適性）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	103.17	103.17	12.01	0.00*
年代	2	40.39	20.19	2.35	0.10
性別×年代	2	20.73	10.36	1.21	0.30
残差	999	8580.67	8.59		
合計	1004	8750.98			

\*:  $p < .001$ , 男性 < 女性

Table B14. 環境（適性）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
性別	1	5.61	5.61	0.39	0.53
年代	2	13.23	6.62	0.46	0.63
性別×年代	2	33.07	16.53	1.15	0.32
残差	1002	14398.66	14.37		
合計	1007	14452.00			

Table C1. 対人配慮（不適応の原因）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	63.367	15.84	1.13	0.34
残差	1059	14807.50	13.98		
合計	1063	14870.87			

Table C2. 理解力（不適應の原因）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	1504.83	376.21	18.54	0.00*
性別	1	79.64	79.64	3.92	0.05
進学実績×性別	4	184.95	46.24	2.28	0.06
残差	969	19665.58	20.29		
合計	978	21537.06			

\*:  $p < .001$ ,

国立大学志向の進学校 < 4年制大学志向の進学校, 大学・専門学校志向の進学校  
進路多様校, 非進学校

4年制大学志向の進学校 < 大学・専門学校志向の進学校, 進路多様校

Table C3. 環境・意欲（不適應の原因）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	37.67	9.42	0.96	0.43
性別	1	88.79	88.79	9.04	0.00
進学実績×性別	4	49.74	12.44	1.27	0.28
残差	965	9475.13	9.82		
合計	974	9639.75			

Table C4. 生活安定（勤める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	132.27	33.07	1.87	0.11
性別	1	693.62	693.62	39.15	0.00
年代	2	182.52	91.26	5.15	0.01
進学実績×性別	4	30.83	7.71	0.44	0.78
進学実績×年代	8	94.79	11.85	0.67	0.72
性別×年代	2	23.57	11.78	0.67	0.51
進学実績×性別×年代	8	126.80	15.85	0.89	0.52
残差	943	16707.07	17.72		
合計	972	17970.99			

Table C5. 働き甲斐（勧める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	39.84	9.96	0.80	0.52
性別	1	324.80	324.80	26.21	0.00
年代	2	212.91	106.45	8.59	0.00
進学実績×性別	4	27.89	6.97	0.56	0.69
進学実績×年代	8	83.86	10.48	0.85	0.56
性別×年代	2	31.32	15.66	1.26	0.28
進学実績×性別×年代	8	49.30	6.16	0.50	0.86
残差	947	11737.21	12.39		
合計	976	12501.79			

Table C6. 受験（勧める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	28.84	7.21	0.54	0.71
残差	1032	13741.82	13.32		
合計	1036	13770.66			

Table C7. 女性向き（勧める理由）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	43.20	10.80	1.40	0.23
年代	2	93.66	46.83	6.06	0.00
進学実績×年代	8	103.87	12.98	1.68	0.10
残差	1016	7850.84	7.73		
合計	1030	8089.44			

Table C8. 働き甲斐（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	18.19	4.55	0.66	0.62
性別	1	224.90	224.90	32.86	0.00
進学実績×性別	4	28.97	7.24	1.06	0.38
残差	981	6713.75	6.84		
合計	990	6979.67			

Table C9. 生活安定（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	72.36	18.09	1.52	0.19
性別	1	818.16	818.16	68.95	0.00
年代	2	138.37	69.19	5.83	0.00
進学実績×性別	4	58.33	14.58	1.23	0.30
進学実績×年代	8	68.70	8.59	0.72	0.67
性別×年代	2	18.51	9.25	0.78	0.46
進学実績×性別×年代	8	74.27	9.28	0.78	0.62
残差	948	11248.62	11.87		
合計	977	12484.51			

Table C10. 労働条件（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	21.69	5.42	0.59	0.67
残差	1062	9819.16	9.25		
合計	1066	9840.85			

Table C11. 女性向き（イメージ）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	8.06	2.02	0.45	0.77
年代	2	50.84	25.42	5.66	0.00
進学実績×年代	8	48.17	6.02	1.34	0.22
残差	1008	4528.87	4.50		
合計	1022	4636.87			

Table C12. 総合（適性）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	732.36	183.09	1.27	0.28
性別	1	4356.53	4356.53	30.25	0.00
進学実績×性別	4	606.47	151.62	1.05	0.38
残差	969	139547.85	144.01		
合計	978	144978.01			

Table C13. 利発（適性）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	17.28	4.32	0.50	0.74
性別	1	115.39	115.39	13.26	0.00
進学実績×性別	4	21.12	5.28	0.61	0.66
残差	984	8564.78	8.70		
合計	993	8713.09			

Table C14. 利発（環境）に関する分散分析表

要因	自由度	平方和	平均平方	F	p
進学実績	4	43.32	10.83	0.76	0.55
残差	1080	15367.59	14.23		
合計	1084	15410.91			

Table C15. 看護は「理系」か「文系」かに関するクロス集計表（男性教員）<sup>1</sup>

	1	2	3	4	5	合計
1. 理系	120	82	56	155	6	419
3. どちらとも言えない	46	57	52	147	12	314
合計	166	139	108	302	18	733

1: 国公立志向の進学校, 2: 4年生大学志向の進学校, 3: 大学・専門学校志向の進学校  
4: 進路多様校, 5: 非進学校

$\chi^2[4]=25.3, P < .001$

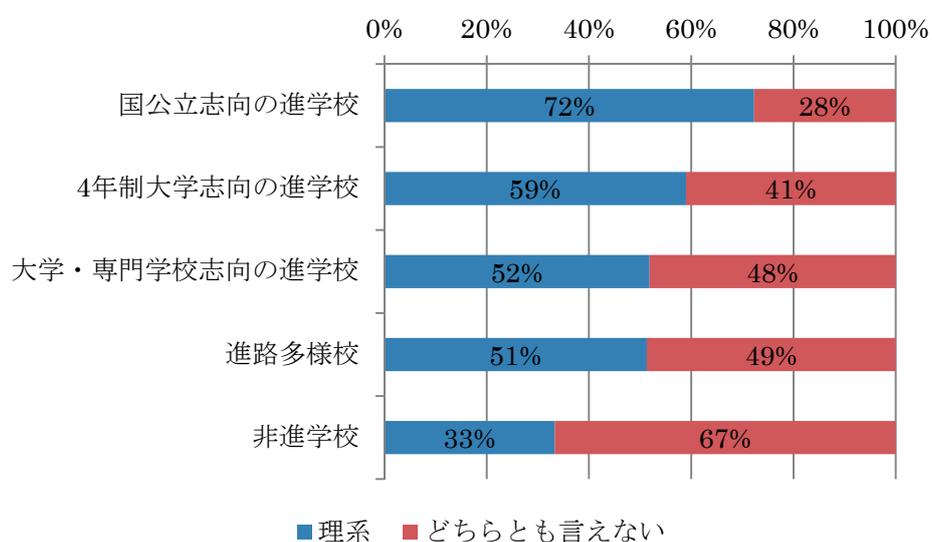


Figure C1. 看護は「理系」<sup>2</sup>か「文系」かに関する構成比（男性教員）

<sup>1</sup> 「理系」「どちらとも言えない」以外は削除。

<sup>2</sup> 「理系」「どちらとも言えない」以外は削除。

Table C15-2. 看護は「理系」か「文系」かに関するクロス集計表（女性教員）<sup>3</sup>

	1	2	3	4	5	合計
1. 理系	12	21	16	44	2	95
3. どちらとも言えない	10	17	14	55	5	101
合計	22	38	30	99	7	196

1: 国公立志向の進学校, 2: 4年生大学志向の進学校, 3: 大学・専門学校志向の進学校  
4: 進路多様校, 5: 非進学校

$\chi^2[4]=3.1, P > .05$

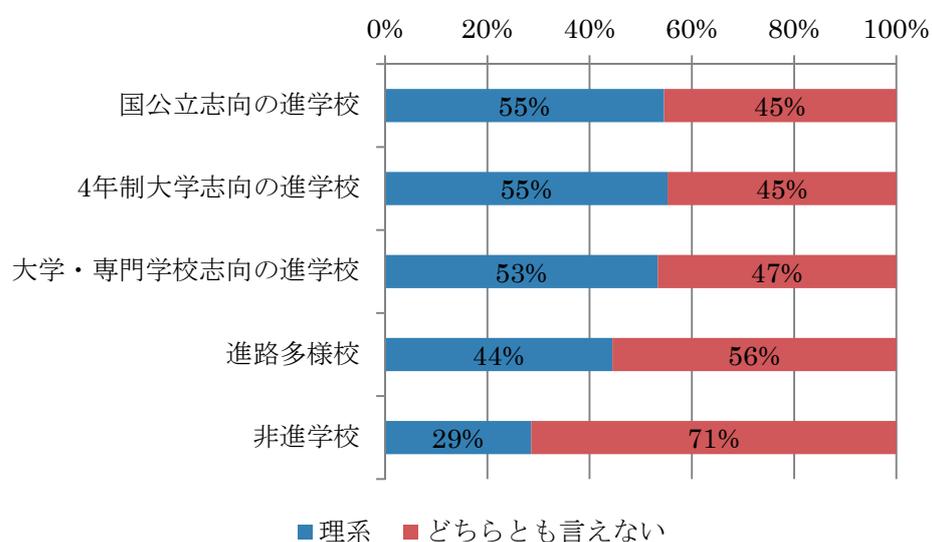


Figure C2. 看護は「理系」か「文系」かに関する構成比（女性教員）<sup>4</sup>

<sup>3</sup> 「理系」「どちらとも言えない」以外は削除。

<sup>4</sup> 「理系」「どちらとも言えない」以外は削除。

